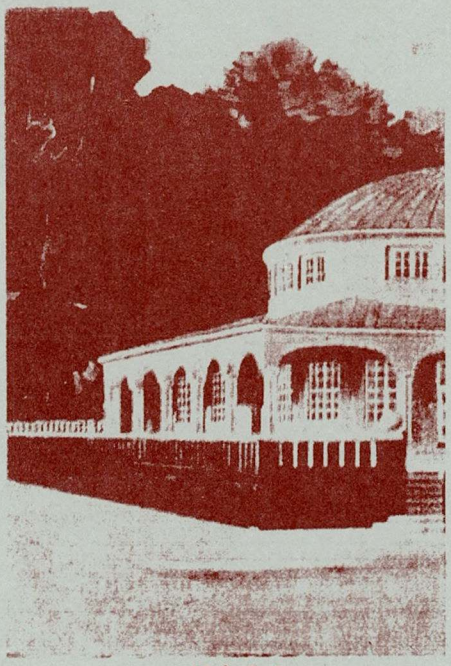
建築ト社會

第四輯　第十一号



——こゝもがへ——

大正十年十一月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ニ提出スベシ其諾否ハ理事之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルヽコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　十名（理事長ヲ以テ理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事ノ互選ス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

役員ノ任期ハ二年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トモ爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ト

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トモ爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

一　調査研究報告ノ發表

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　會誌ノ發刊

四　建築ニ關スル圖書ノ刊行

五　建築ニ關スル講演會ノ開催

六　建築ニ關スル展覽會ノ公開

七　建築ニ關スル視察

八　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

九　理想的建築ノ計畫

十　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十一　第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六ヶ月以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



大阪市東區中道川西町五百六十一番地　電話南三八〇五番

日本エレベーター製造株式會社

營業種目

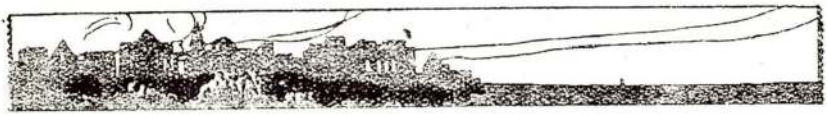
（東式）
エレベーター、リフト　試運轉
コンベヤー　各種機置
捲上機械　高保能
クレエン　塔安實
架空索道及諸機械　裝驗
右設計及製作

出張所
東京市丸之內東京驛前海上ビルデンゲ六階、六一九號、六二十號室
電話丸之內九六〇番
本局二二〇二番

特約販賣店
東京市麹町區永樂町
高田商會　本支店
出張所

代理店
大連市山縣通百番地
日米公司
電話二二〇・二〇四五番

代理店
朝鮮京城府長谷川町八十五番地
日米公司
電話二五三〇番



建築と社會　第四輯第十一號目次

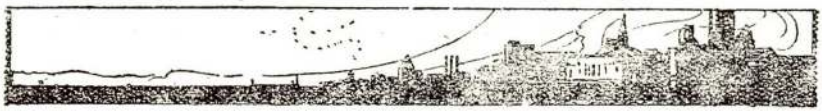
▲口繪……（三色版）
○こゝろもがへ
○第一回懸賞募集改良住宅設計圖案配景（寫眞版自一至二十）
○圖及平面圖

〔卷頭〕
○過渡……

〔論說〕
○私の頭に畫かれつゝある住宅……會員京都高等工藝學校教授……本野精吾……二
○庭園都市に就て（畢）……法學博士……田島錦治……四
○日本疊を利用する和洋折衷式住宅……會員工學士……日高胖……八
○實費計算式請負制度と所謂直營工事……會員建築士……設樂貞雄……一二
○住宅會社の經營者に望む（畢）……特別賛助員農學士……大屋靈城……一七
○江村郊邨君の提論せる「豫算公示論」を讀みて……終身賛助員……山本辰五郎……二一

〔研究〕
○ペイントと鉛毒……工學博士……細木松之介……二五

〔都市〕



○都市計畫に於ける事象(二)……ウオルター・デイ・ムウデイ著 Z Y 生譯……二八
——市加古市の都市計畫に就て——

〔住　宅〕

○住宅研究(七)……會員 工學士 建築士 葛野壯一郎……三七
○山科鄉のバンガロー建築……郊部生……四三

〔講　壇〕

○煉瓦に就て(中)……工學博士 大熊喜邦……五四
○木材に就て(上)……終身賛助員 工學士 松井清足……五八

〔資　料〕

○世界三大都市之制度(中)……マスター・オヴ・アーツ 法學士 石川東一……六三
○都市測定は目下の急務也……大阪市囑託 工學士 石原憲治……六八

〔漫　錄〕

○渡歐日記より(二)……會員 工學士 置鹽章……七二
○和洋折衷乎歐風直寫乎……會員 工學士 園部文雄……七八
○風呂場から觀た生活……吉村美代子……八四

□時　報　□會　報

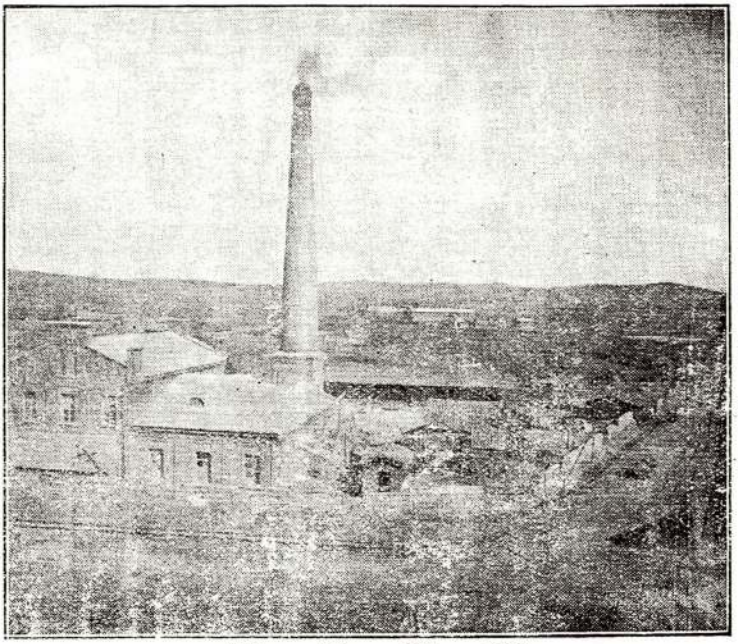
附　錄

○第一回改良住宅應募圖案審査概評

現代建築界ノ最高權威

所役市●廳府阪大●社會道鐵滿南●課木土廳東關

明證驗實●位各家計設築建木土力有●官省諸他其



顧問技師　工學士　雨宮春雄

相談役　前野芳造

營業目課

滿州產

- 青色大理石、黑色大理石
- 鹿兒島產白色硅藻土
- 白色硅石及硅石粉、酸化マグネシューム粉末、滿蒙セメント各種、雜礦石
- 海水石鹼

滿洲工場

耐火リノリウム（專賣特許出願中）

舖床材料

耐水、衛生、保温、美觀、低廉

土木建築用防水劑ボースイ（專賣特許）

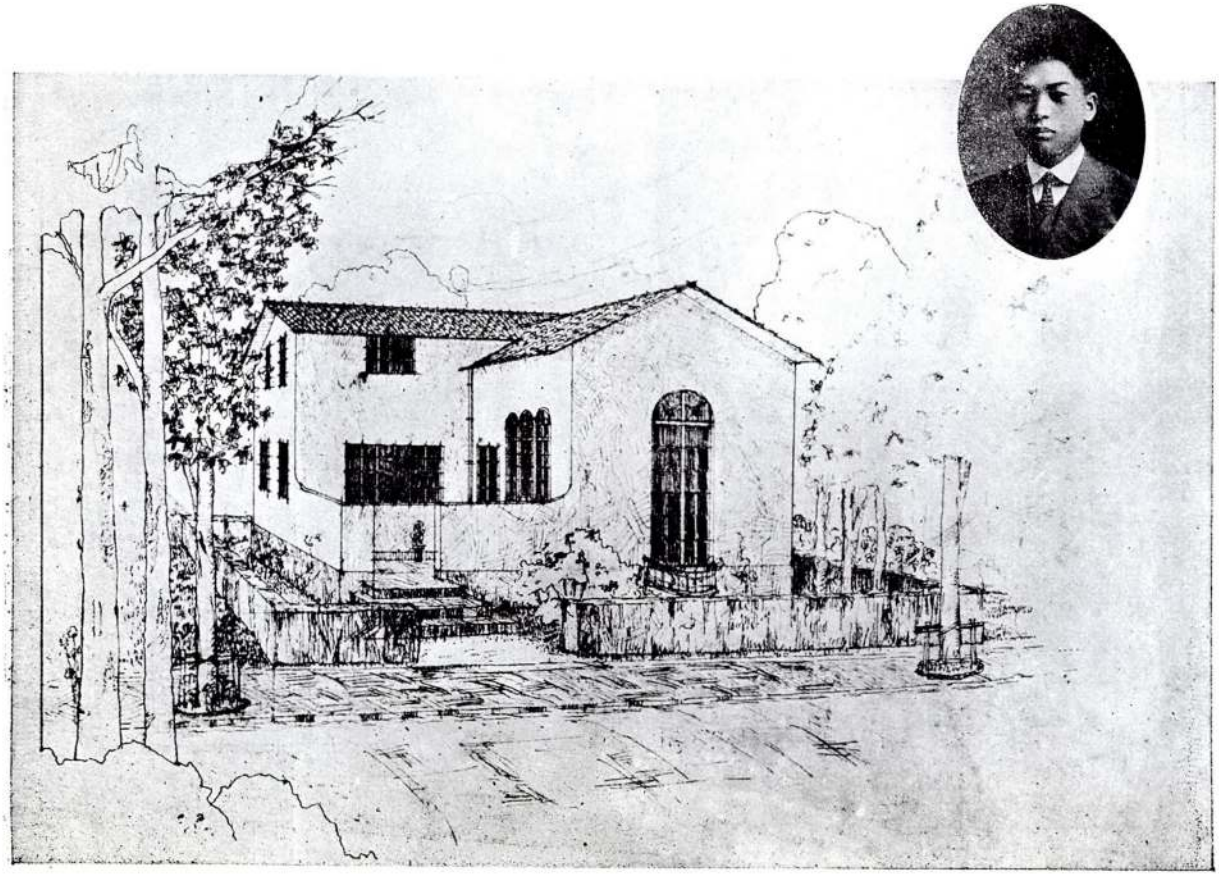
品質內外品ニ優リ價格低廉

滿蒙化學研究所代理店

大阪市北區南安治川一丁目十三番地

大阪耐火リノリウム工業合資會社

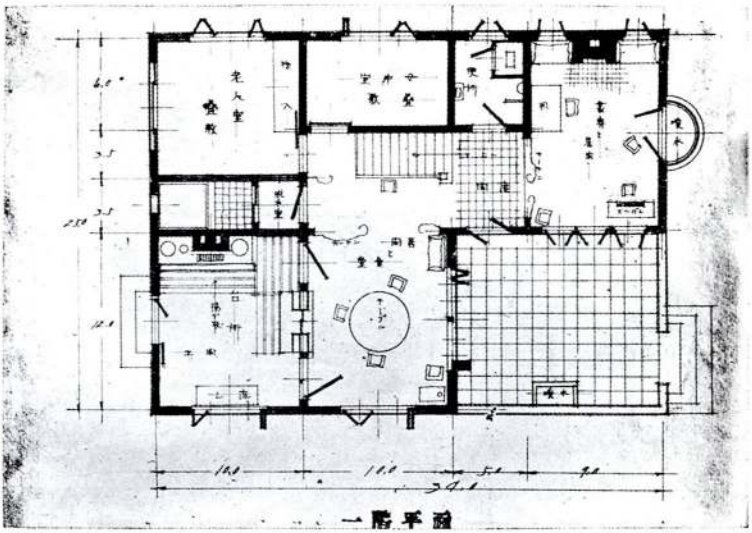
電話西（營業用）四五九（長）二五五（西）三六二三

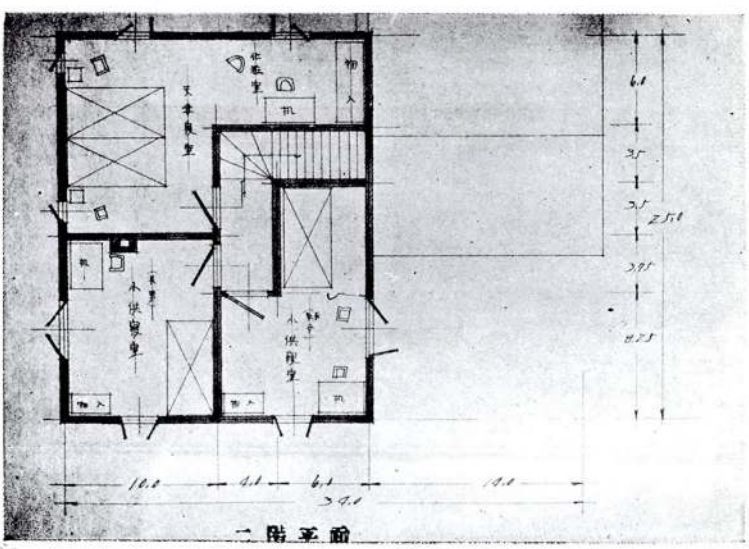


第一回懸賞募集　改良住宅設計第一等當選

（設計者　谷本甲子三君）

第一回懸賞募集　第一等當選平面圖

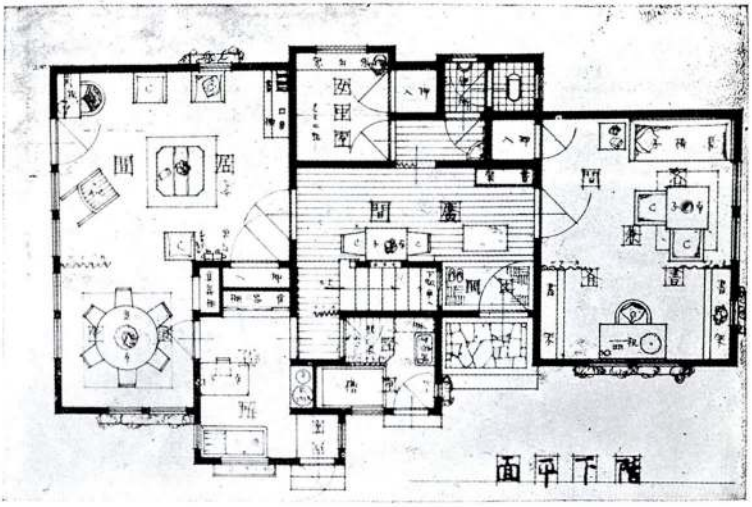


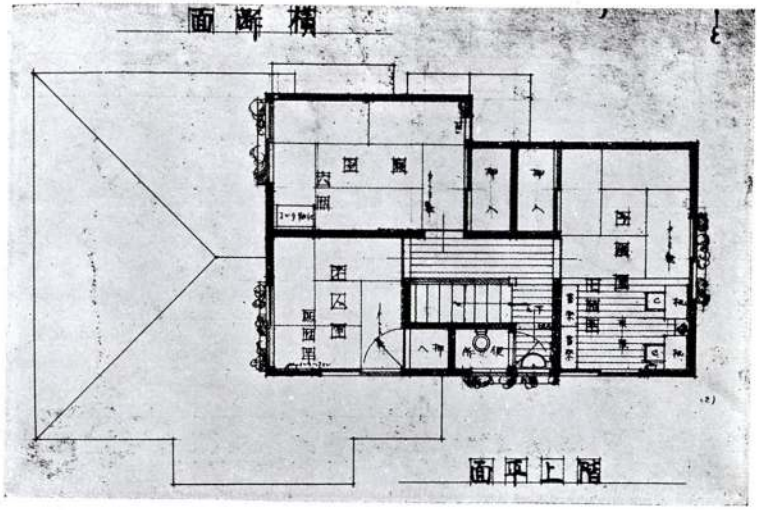


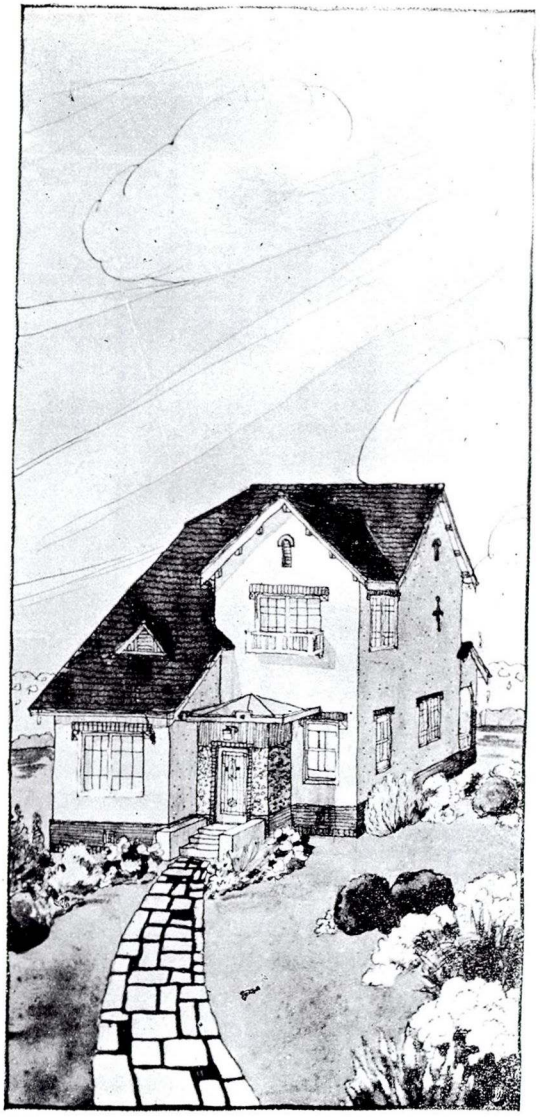


第一回懸賞募集　改良住宅設計第二等當選
（設計者　永井孝直君）

第一回懸賞募集　第二等當選平面圖



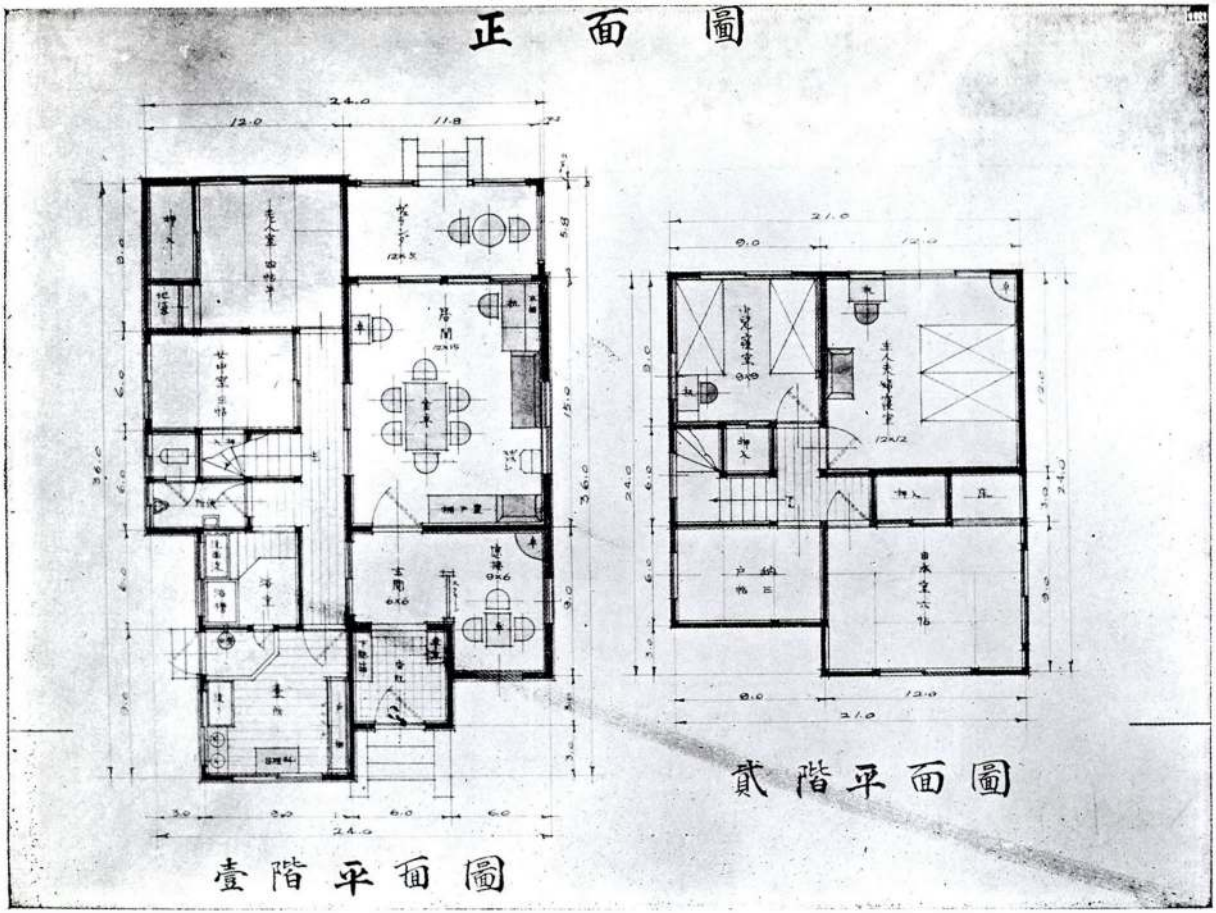


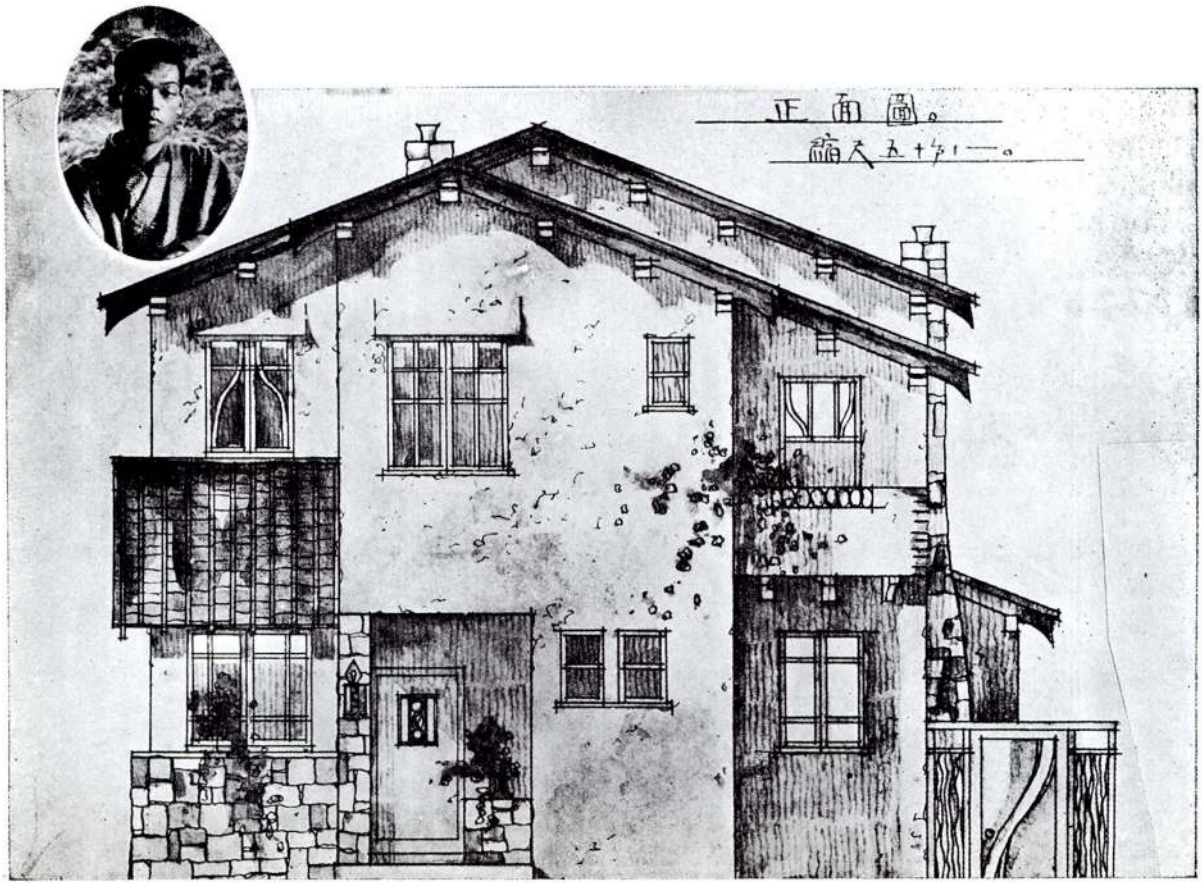


第一回懸賞募集　改良住宅設計第三等第一席當選

（設計者　確井英隆君）

第一回懸賞募集　第三等第一席當選平面圖

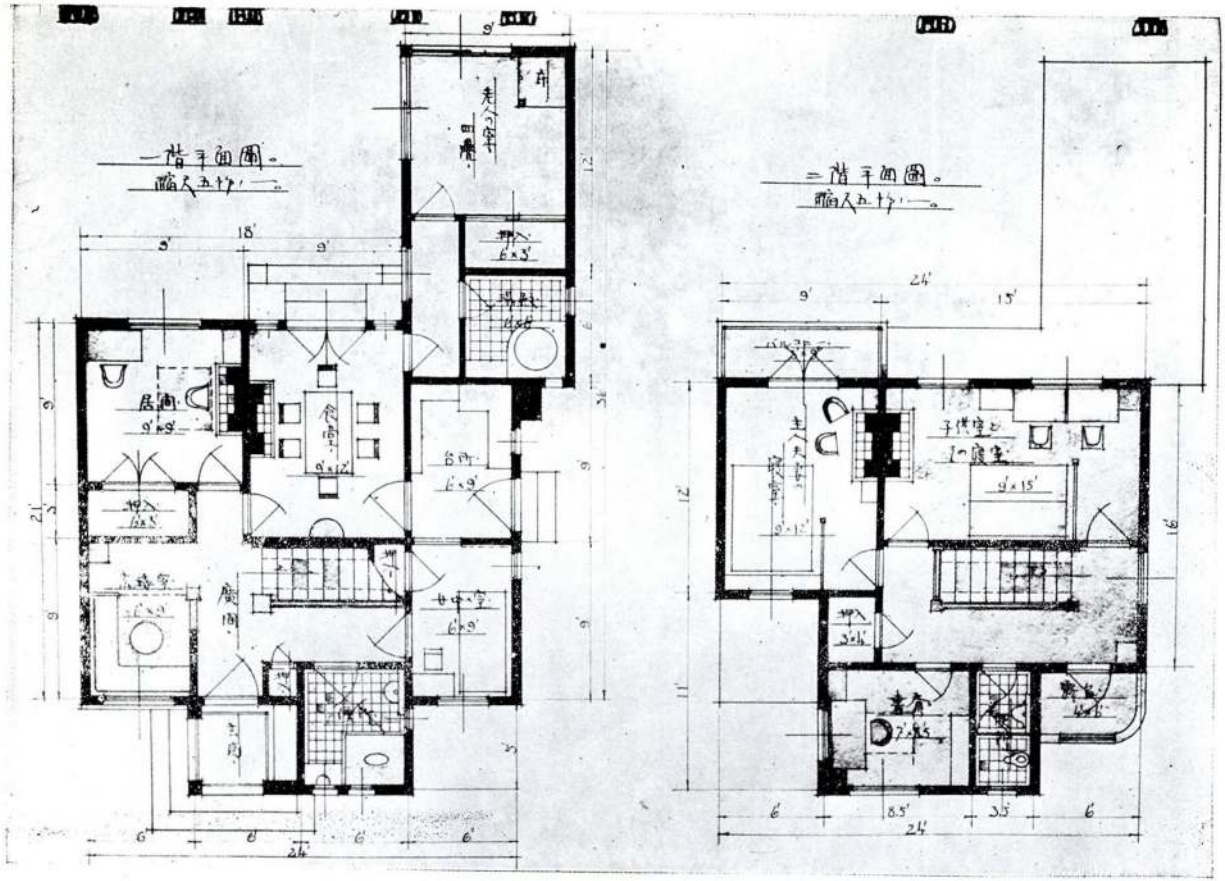


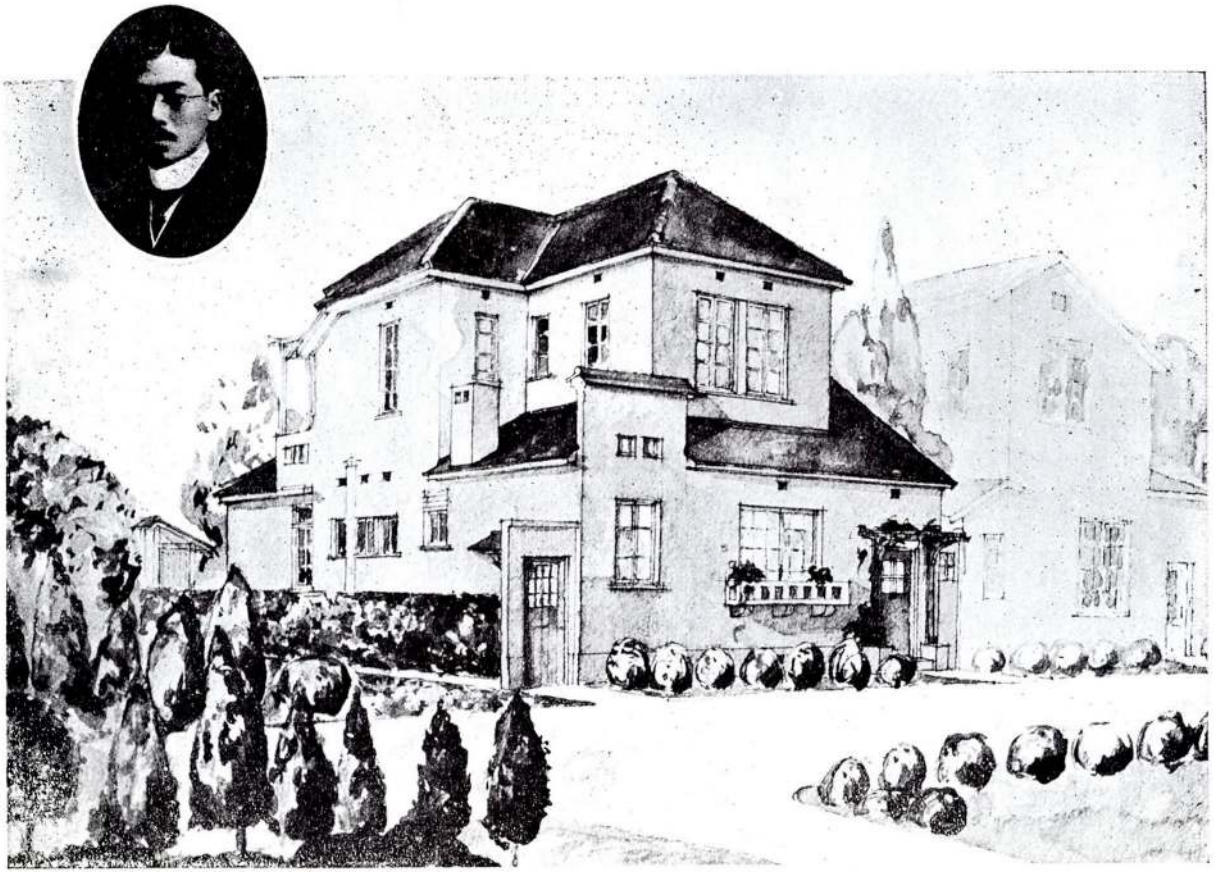


第一回懸賞募集　改良住宅設計第三等第二席當選

（設計者　近藤兵四郎君）

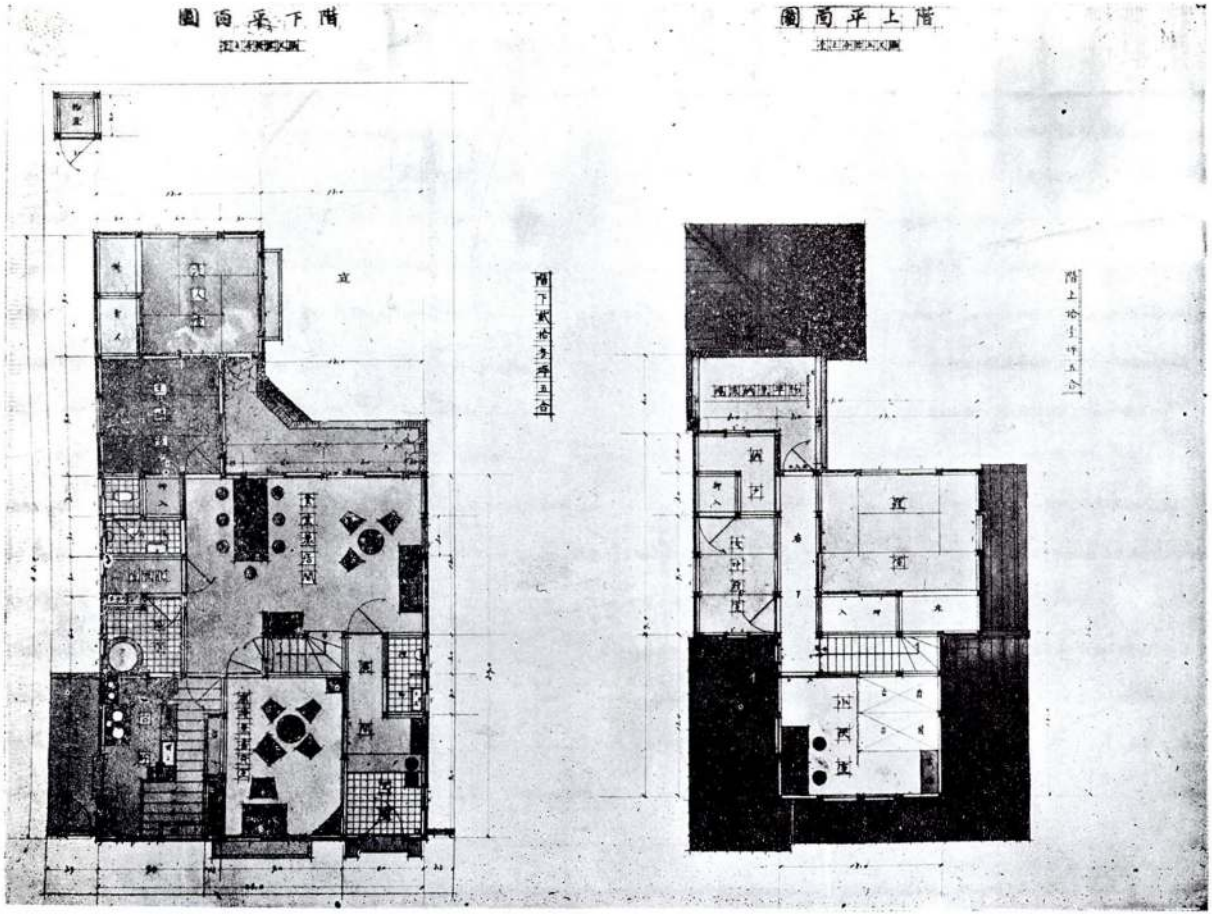
第一回懸賞募集　第三等第二席當選平面圖

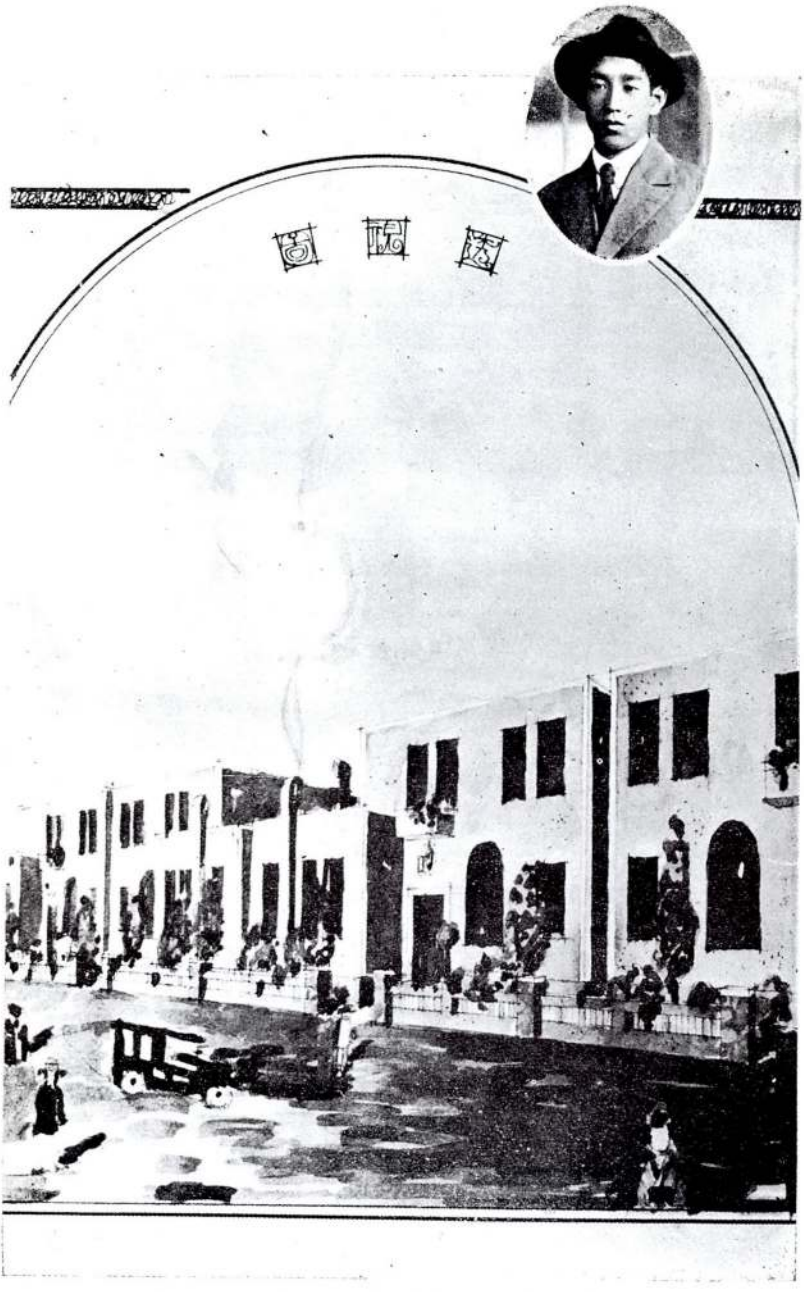




第一回懸賞募集　改良住宅設計第四等第一席當選
（設計者　大原芳知君）

第一回懸賞募集　第四等第一席當選平面圖

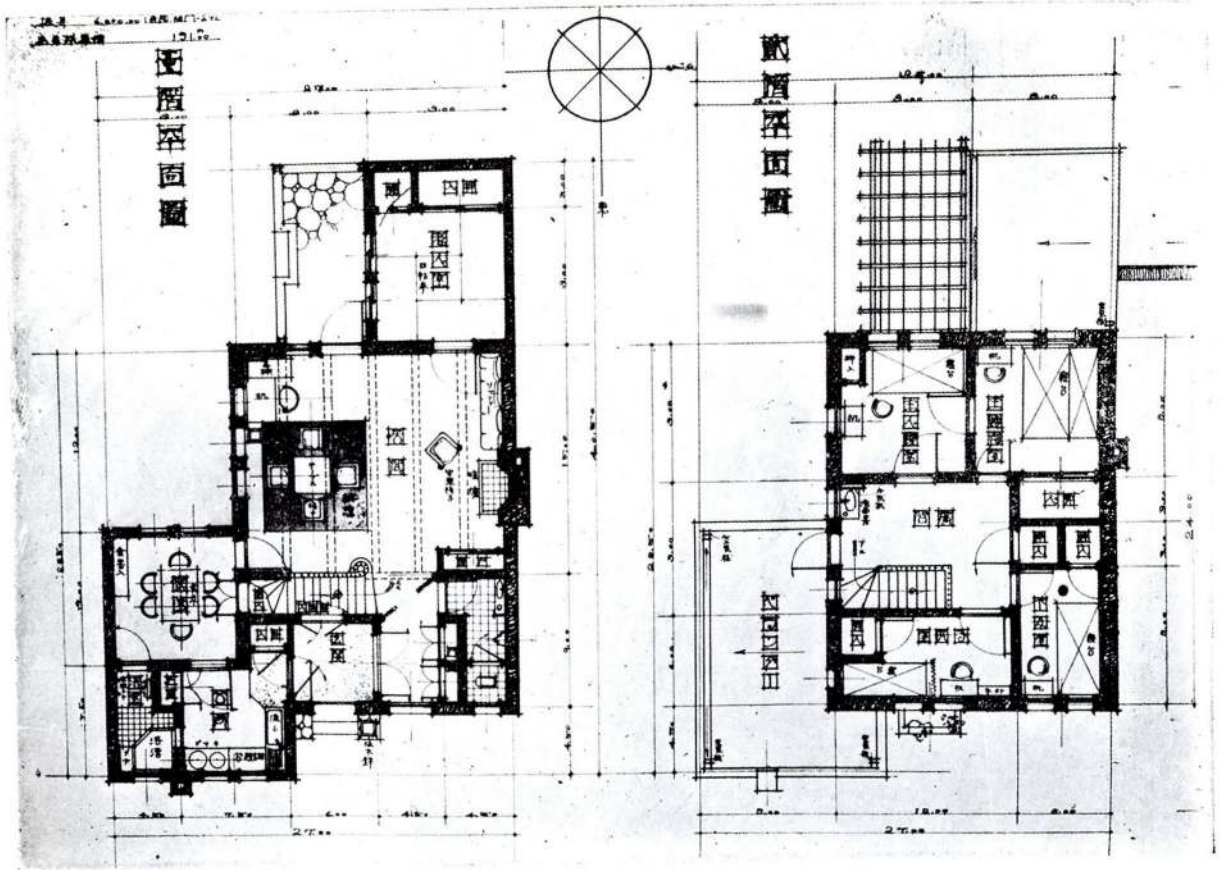


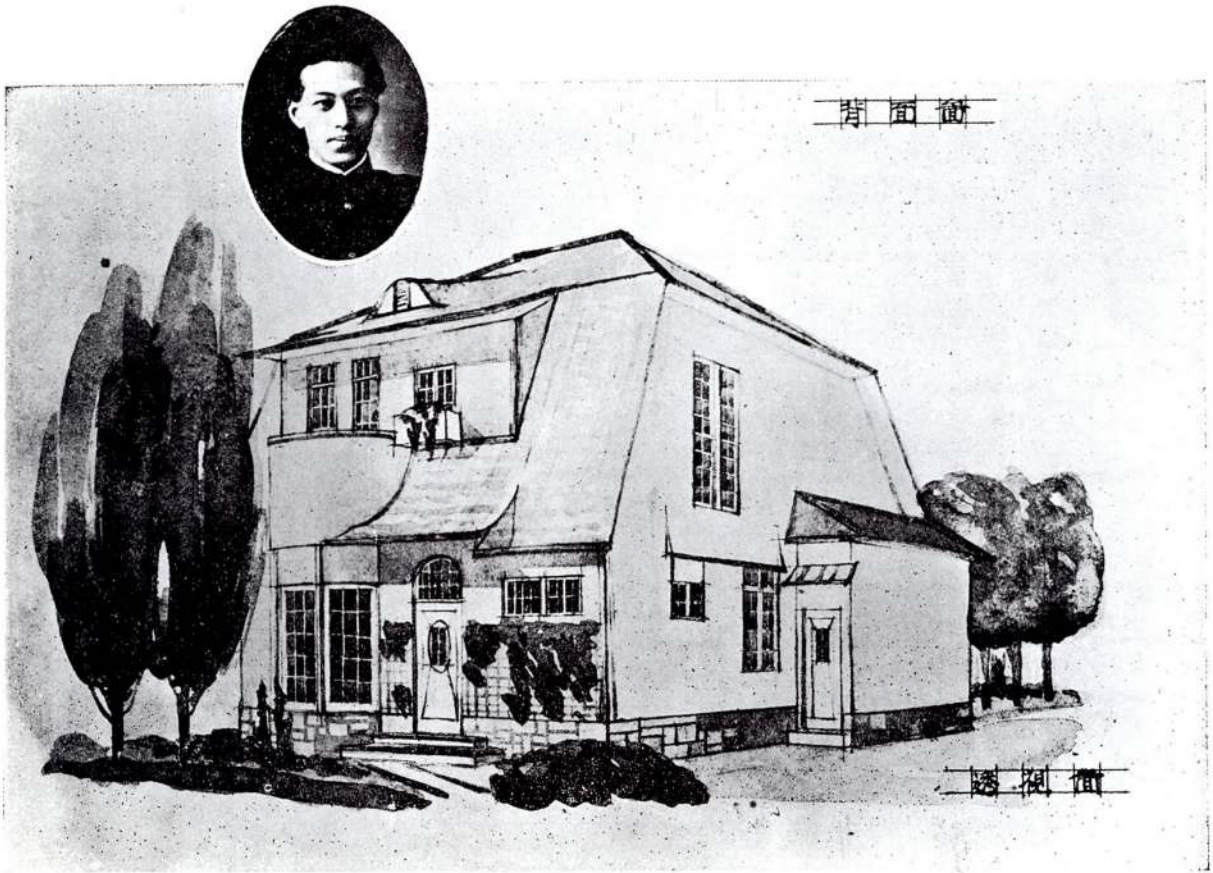


第一回懸賞募集　改良住宅設計第四等第二席當選

（設計者　山本延次君）

第一回懸賞募集　第四等第二席當選平面圖

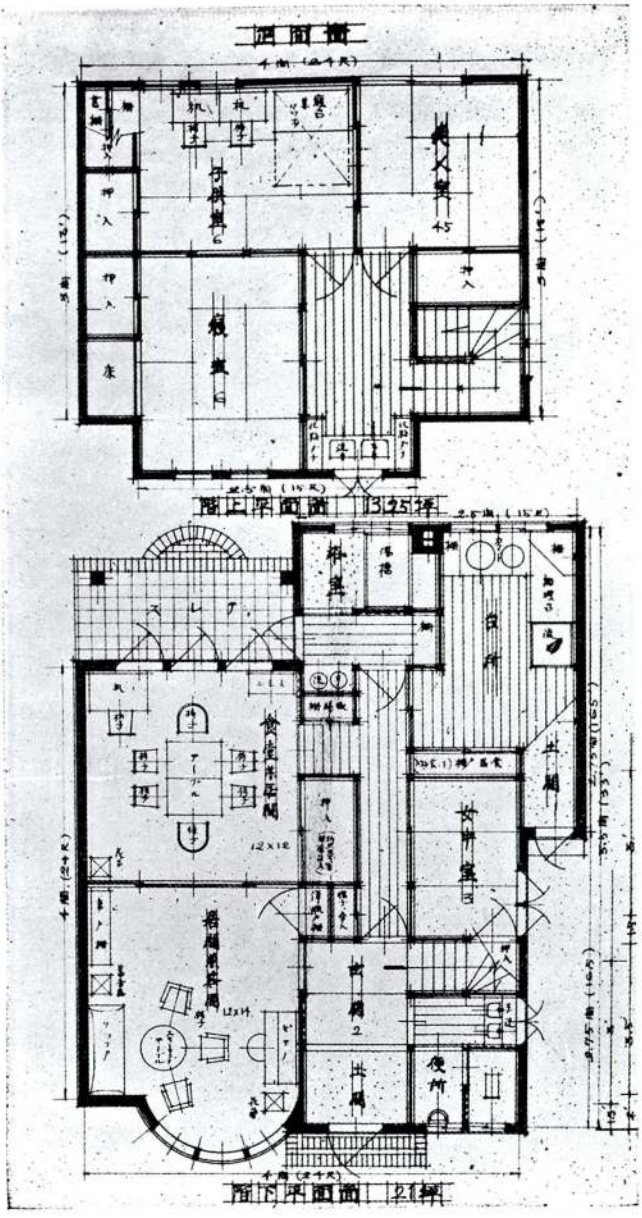


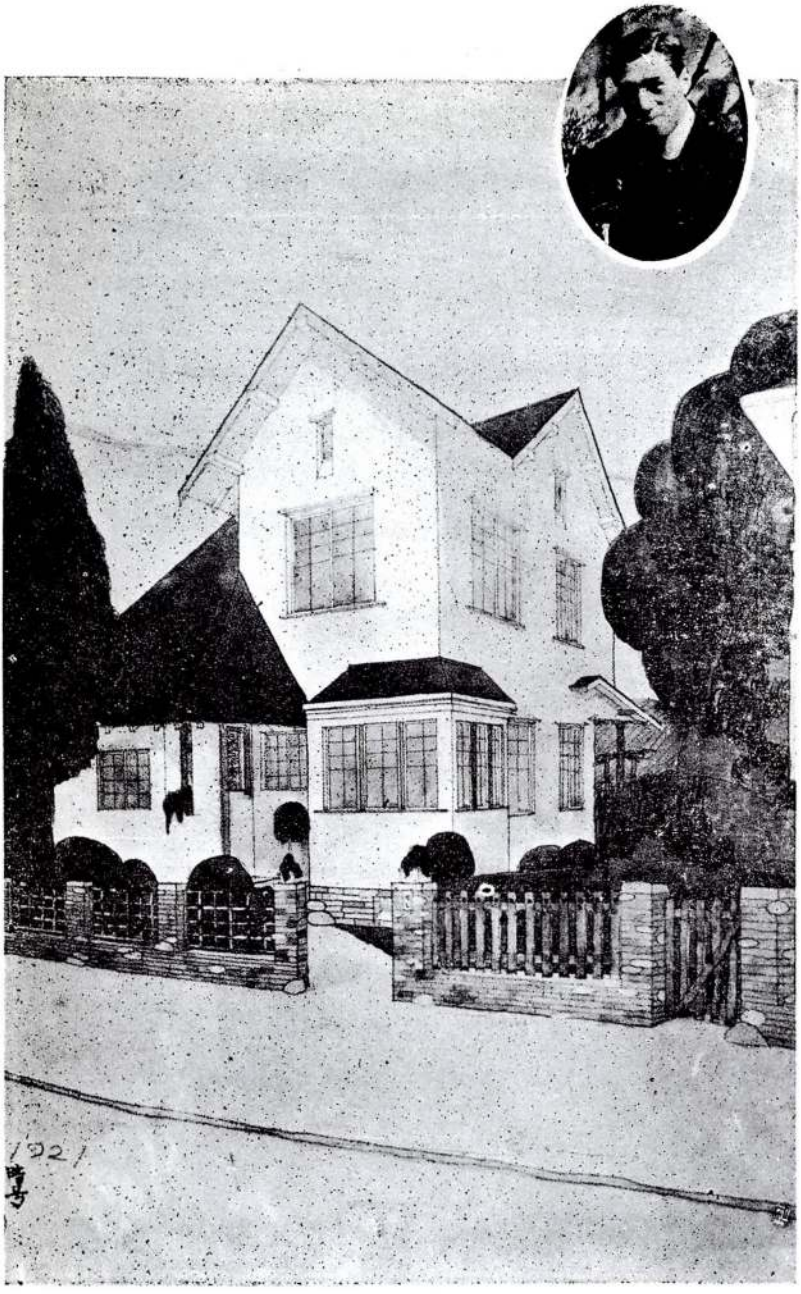


第一回懸賞募集　改良住宅設計第四等第三席當選

（設計者　城戸武男君）

第一回懸賞募集　第四等第三席當選平面圖

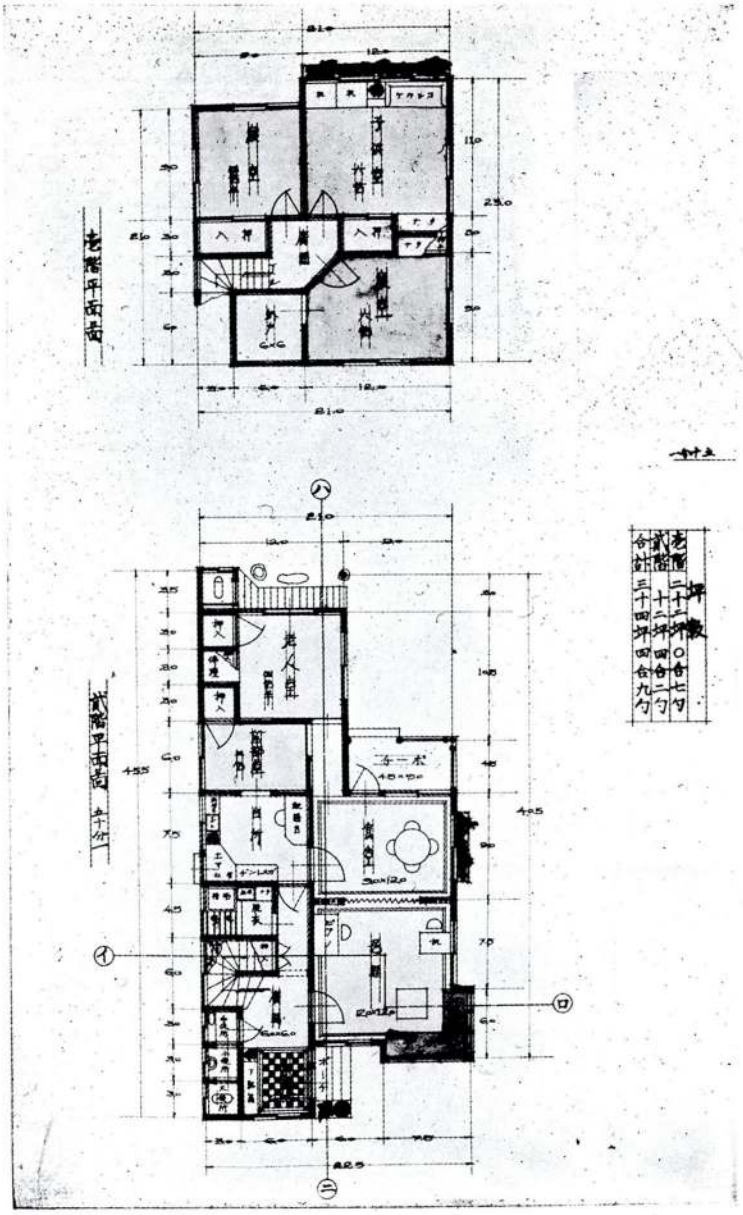


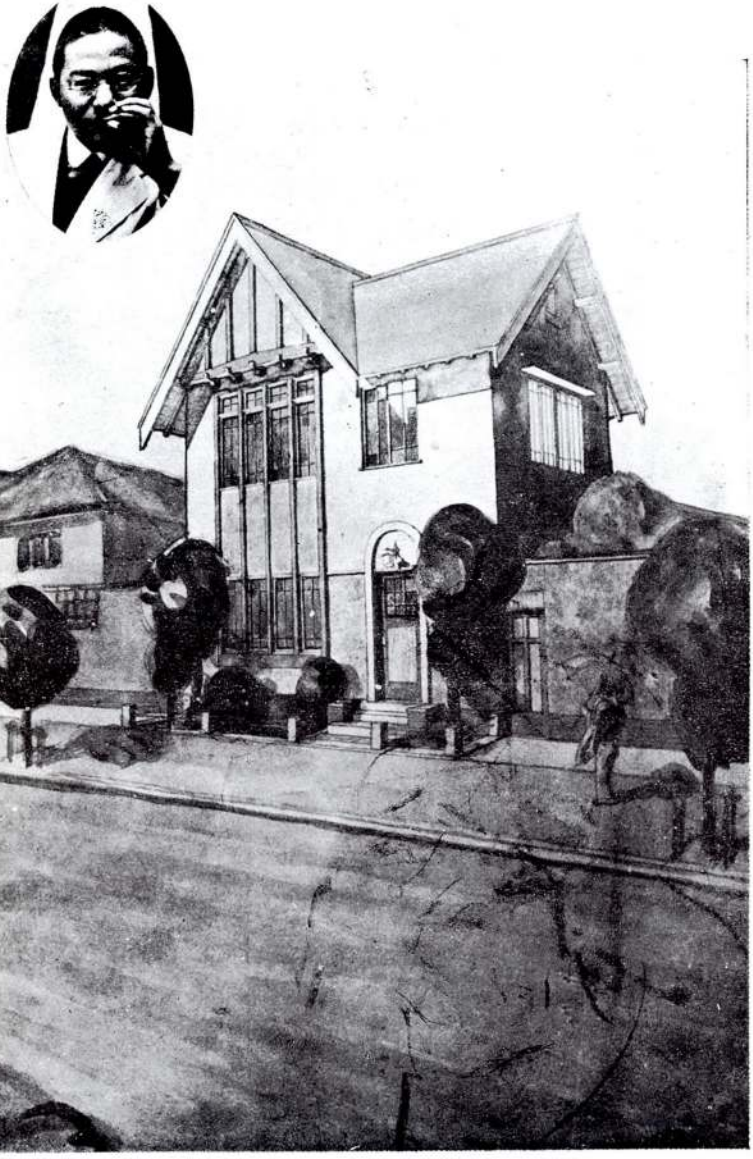


第一回懸賞募集　改良住宅設計第五等第一席當選

（設計者　能瀬久一郎君）

第一回懸賞募集　第五等第一席當選平面圖

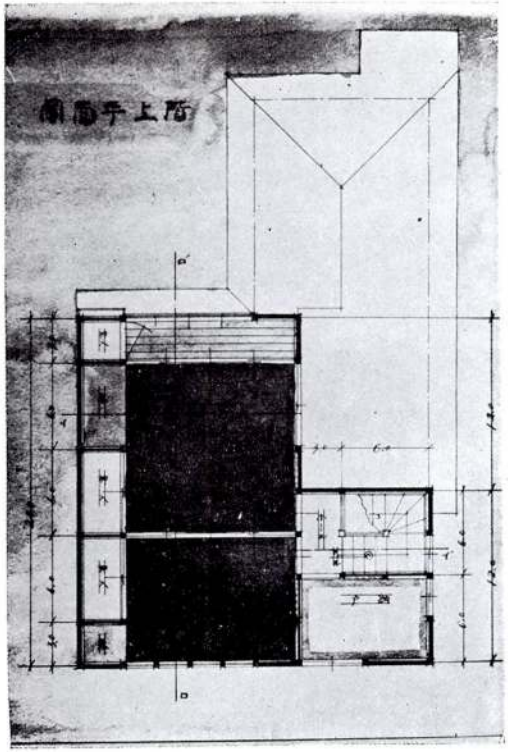


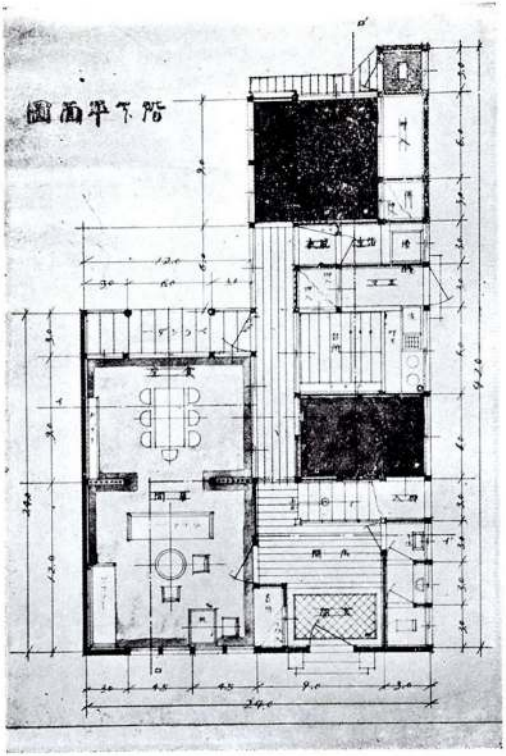


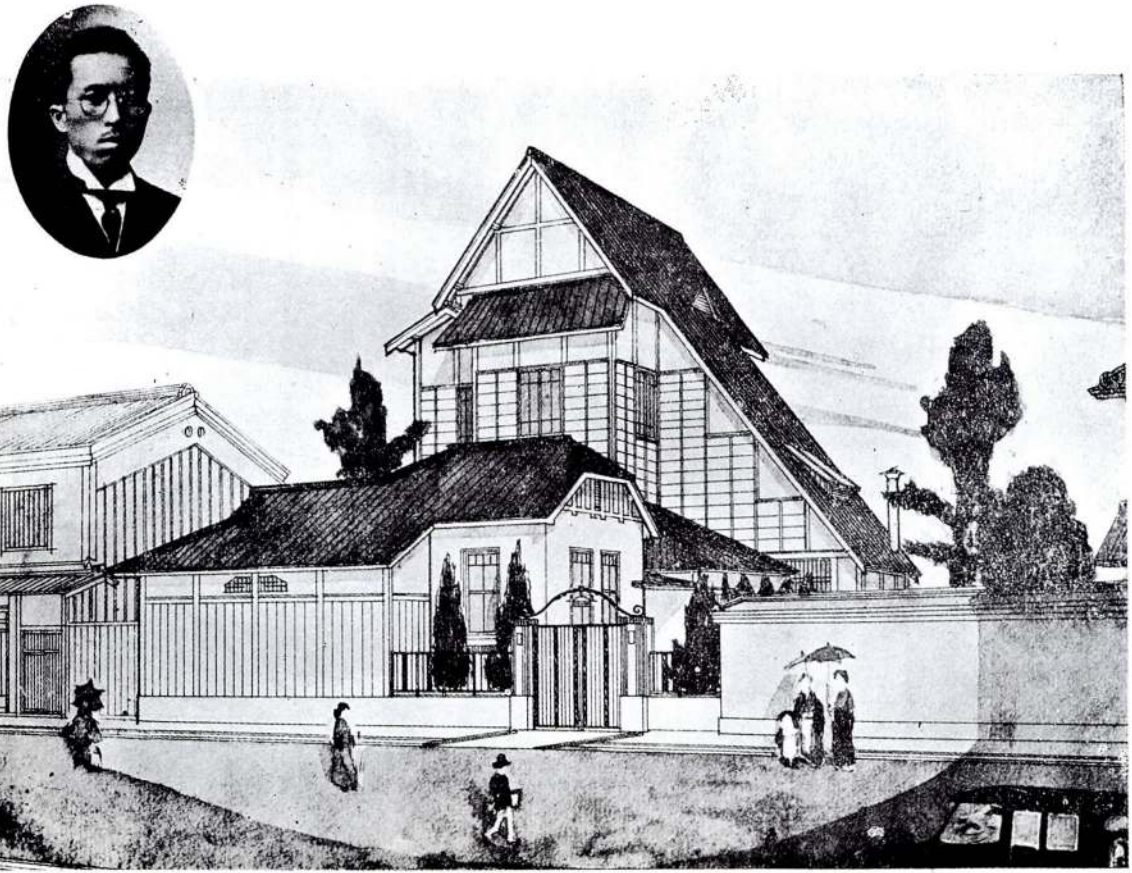
第一回懸賞募集　改良住宅設計第五等第二席當選

（設計者　首藤重吉君）

第一回懸賞募集　第五等第二席當選平面圖



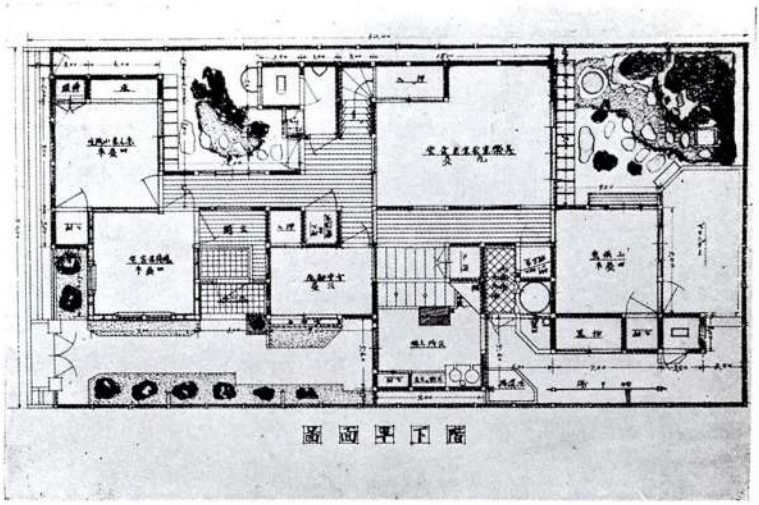




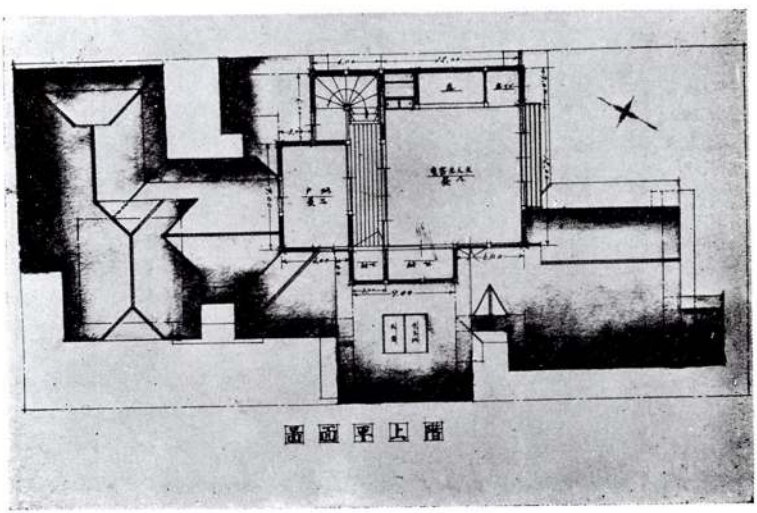
第一回懸賞募集　改良住宅設計第五等第三席當選

（設計者　久保田筆雄君）

第一回懸賞募集　第五等第三席當選平面圖



圖面平層下圖



圖面平層上圖

會告

豫て移轉申請中の本協會電話は左之通り十月二十日より開通致候に付此段謹告候也

日本建築協會

北四二九一番



過渡

秋最漸く老いて、錦紅、將に天地を彩らむとす。「自然」は、推移し、「時」は、凡てを更む。過渡の氣氛、錯漠として、亦漸く蕭滌たり。惟ふ、我居生住活、過渡既に央にして、今や、懊惱呻吟、將に何ものかを其所産に俟たむとす。而して、百千の横議、只夫れ、一過の「時」の力に及ばず。されど、時を胎し、時を産み、時を成すもの、所詮、誠意ある筐議それ自らに胚せずむばあらず。秋天、既に其央を過ぎつて、今當にぞいむとす。吾人、恒に「時」を指導せむとし、或は少くとも、「時」に順應せむとする者、深く「時」を凝視し、其奥底に徹するの用意なかるべらず。

（郊）



論說

私の頭に畫かれつゝある住宅

會員　京都高等工藝學校教授　本野精吾

住宅は、一つ一つの生を容れる器である以上、ソコに、形式の根底が築き上げられねばならぬ。生と生とは、一つ一つに區劃されて居乍ら、根底的には、一つのシステムの中に繋がり合つたものである、と云ふのが、私の考の根本であります。ソコで、住宅形式の基礎が築かれる生と生とが、嚴然とした區劃の中に仕切られて、離れ々々に歩いて居る樣な今の住宅形式を、私は不滿に感じます。ソコには、斯瞞と爭鬪とが充ち々々て居ます。人類共存の眞に徹した住宅は斯んなものであつてはならない、と想はれます。

部屋から部屋へ、家から家へは、モット密接に繋がり合つた内面的關係がなくてはならない、と想はれます。部屋から部屋へ、家から家への、移り行く行程が、今の樣に、ハッキリした仕切りを越えなければならないのでは、ソコに、感覺の連續が明かに切斷されます。私が家から外へ出る度に痛切に感ずるのは、斯の事であります。

住宅の理想境――、先づ家の中は、一つゞきの部屋の様になつて居て、其の各の部分が、嚴肅に各の部分の意味を具へて居る、と云ふのが、其の出發點であります。書齋とは書を讀む場所であり、應接間とは應接談話する場所であります。其の間には冷たい間仕切り等はない方がいゝ、と想ひます。私は、之れを、「空氣の間仕切り」と名を付けて居ります。書を讀む心持の場所と、談話する心持の場所とが、或る關係で密接に一と續きに繋がり合つた時、ソコに、理想の住宅の一部が形造られる譯です。家の内部が、皆斯う云ふ風に繋がり合つて居る場合に、完全な一つの理想境が出來上る譯です。

細部に亘つて斯の事を考へますと、例へば、臺所と食卓とが一と續きになつて居ると云つて、食卓の向ふ側に料理臺があつては、心持の混亂を來します。ソレ故に、其の間は、ある心持で仕切られて居て臺所の心持が食卓に直に影響を及ぼす事がない様に、考案されなければなりません。斯の點に、私の理想の住宅を考案設計する上の至難の點が存するのであります。言葉を換へて云へば、一と續きになつて居て、其の各部の心持の間に、嚴肅な感じの上の仕切りが必要であるのです。

私が斯ふ云ふ問題に面する度に頭に浮ぶのは、日本の數寄屋です。勿論、拙ないものは問題にはなりませんが、優れたものにあつては、各部の心持の聯絡は完全に保たれてあります。住宅の全部が斯う云ふ風に考案される事が、理想の境地に庶幾いものと想ひます。

斯の點に關して、私は、西洋即ち希臘に根元を發する住宅の潮流よりも、印度に根元を發する東洋の住宅の方に、限りなき懷つかしさを感じます。部屋から部屋へ、家から庭へと、果てしもなく繋がり合つて居て、ソコに無限の情趣をたゝへた處に、嬉しさを覺へます。勿論、天産の豐かな南國の平和な樂園の中に生ひ立つた印度のものと、狹き半島の中に爭闘を基調として生れた希臘系の住宅との間に、根底の相違のある事は明かな事であります。

南國の樂園こそ、吾々の見指す理想の境地ではありますまいか。

庭園都市に就て

法學博士　田島錦治

（畢）

斯の一篇は、曾て京大『經濟論叢』に發表されしものにして、現下、都市計畫事業の頻出せる折柄絶好の研究資料たり、請ふて此處に揭載するのことゝせり。——郊郛

是に於て都會目貫の處には大厦高樓甍を幷べて表面に其偉觀を誇示すれども裏面側面は多くは尺寸の空地をも存せず而して都會の場末には汚穢狹隘なる陋巷貧窟其數を增し而かも其住民は家賃の日に高く生計の月に苦しきを嘆きつゝあり而して工業の盛なる都會に在りては煤烟天を蔽ふて日光爲に暗く汚氣地に充ちて呼吸も苦しき場所と化し偶ま街側に並木を植ゆるも電線の蜘蛛の網其枝梢を抑えて生育を妨げ曾て郡人士が釣を垂れたる楊柳の岸は百貨山積せる荷揚場と化し遊舫を浮べたる清流の河は汚濁なる溝渠に變じ前時代王侯の莊園にして公園となりたる所も亦同一の運命を免かれず常綠の樹は常に綠なるを得ずして煤烟に焦れ花咲く春に遇ひ乍ら花咲かぬ老木の櫻の終に薪となるもの比々として皆是なり。

試みに我國の三都に就きて維新以來如何に變遷したるかを見よ余が茲に述ぶる所は總て事實の眞相にして決して舞文虛構に非ざるを知らむ嗚呼東京の上野及び墨堤の櫻樹は今や半ば既に枯れんとし而して御殿山の紅葉は唯名のみとなりぬ飛鳥山の幽境も亦きのふに變る俗地と化し日暮里の里も今は只夜を徹して車聲の囂々たるを聞くのみ平安の舊都も亦獨り平安なるを得ず曾て樵街に道行く人の筇を止めたる翠柳の並木は何時の間にか目障りなる電軌電柱と代り高瀨川に面白く端歌うたひつゝ曳く船子の影は消えて川筋は唯糞泥の晝夜を息めずして放流しつゝあるを見るのみ賴山陽が『向ヲ人休ンヲ問南禪寺、一帶青松路不レ迷』と咏しけん其

青松の路は今果して何處に在りや京都の生命たる名所舊蹟神社佛閣は漸く俗界塵域の包範を受けて往々其清淨なる境内を侵掠せらるゝあり余因て近頃左の四首の詩を得たり。

京洛即事

欲レ訪南禪寺。還疑笑語譁。洛東幽勝地。半屬二富豪家一。元是神靈境。今誇不夜城。草塵洲渚滿。誰道鴨川淸。鐘磬雜二歌吹一。寺接二斜衢一。休レ問僧耶俗。佛心差別無。古今風俗改。依レ舊有二鶯花一。不レ見提レ瓢杖。唯逢載レ妓車。

大阪市に至りては其俗惡化は實に言語に絶するものあり古來美はしき水の都とたゝへられ古歌にも『みやこびと都こびけり』とよまれたる難波は今や煤烟塵埃の修羅場となり了りぬ。

從來我國の都會に於ては中產者が多數を占め自己所有の土地に家を建てゝ居住し敷地の一部に小庭園を設けて業餘の慰樂に供する風習は一般に行はれたりしなり而して中等の借家の如きも亦庭園を帶ひたるもの多かりしなり然るに人口の集中土地の兼併借家の劇增と共に此等の私的小樂園は漸く其跡を絶ち唯少數の富豪が都會最良の位置に宏壯偉麗なる邸園を獨占する者あるのみ嗚呼斯の如くして古への花の都は個人自由主義の嵐に散り畢んぬ往時の偕樂的庭園都會は私有財產制度の馬蹄に蹂躙されぬ而して更に寒心に堪へざるものは此嵐此馬蹄は啻に大都會の區域内を荒らすに止まらずして其近郊に及び又小都會に及び田村にも及びて其猛威を逞ふする事是なりとす。

夫れ輓近の都會に於ける異常なる人口の集中及び巨富の集積は土地の價格を甚だしく騰貴せしめたるは已に述へたる如し而して此土地の騰貴は都會をして立體的に發達せしめ泰西特に米國の都市に於ては數十階の摩天樓を現出すること日に月に盛にして屋上屋を架して家は愈高く頭上蹐を戴きて人は益々密集す而して市街交通機關の發達及び其郊外に向ての延長は更に都會を平面的に發達せしむるを致し幾分か都會中部の熱鬧を緩和するに庶幾しと雖も而かも郊外の土地は亦私有地なるが故に交通機關の延長は地主をして其土地を最も營利的に利用せしむるの好機會を與へ又は他の投機者

流をして其土地の騰貴を見越して逸早く買收せしむるを致し斯の如くにして郊外の美なる田園は先づ草原に化し遂に殺風景なる貸長屋の列を見るに至る人或は之を田園の都會化なりと謂ひて却て滿足の意を表する者ありと雖も余は之を俗惡なる都會の延長として慨嘆せざるを得ざるなり。

斯の如き都會及び近郊の俗惡化は輓近文明諸國に共通の事實にして其經濟上風紀上衞生上敎育上の弊害は得て測るべからざるものあり是に於て庭園都市及庭園郊外 (garden city and gardensuburb) の問題は識者の漸く提唱する所となり英國に於ては千八百九十八年に Ebenezer Howard氏 "The Garden city of To-Morrow" と名くる書を著はして之が先鞭を着け此理想の實行を目的とする共助的會社 (co-operative corporation) は千九百三年に組織せられ倫敦の西北三十四哩汽車程五十分時の距離に在る Letchworth は候補地に選定せられ四千エーカーの土地は一エーカーに付き二百弗の價格を以て買收せられて茲に理想的庭園都市の乳兒は其呱々の聲を擧げたり抑も此共助的會社は公益を主とする團體にして資本に對する利益配當を百分五に限定しそれ以上の利益は總て住民の公益に供せらるゝが故に此會社は他の營利的土地會社に常に見るが如き粗惡なる長家を建て居住者を密集せしめ而して益々賃貸料を增加するが如きことなく各家屋を繞らすに庭園を以てし一エーカーの地積に對する家屋の數の最大限を十二とし市內に學校、倶樂部、遊園を設くるのみならず市の周圍に家禽菓實野菜の園藝場を設けて以て市民に新鮮低廉たる滋養食品を供給す又會社が始め街路を設けたる時瓦斯水道電力の供給に向ての施設を爲して自から之を管理し出來得る丈經費を節して以て料金を低廉にす同市は固に理想的住宅地たるのみならず工業も亦其土地が低廉なかるが爲に招致せられ而して會社の規程に從へば工場は鐵道線路に沿ふて建つるを要し且住宅區と或距離を保つを要す又工場は一階建とし日當り及び空氣の流通を善くして以て職工の執務を快適にす斯くして同市は久しからずして繁榮なる工業都市となれり即ち同市建設の初年には人口僅かに四百人なりしに四年

の後には七千人を算するに至れりといふ此成功せる庭園都市の實驗は直ちに各地に模範を與へて新なる庭園都市及び古都市の新なる庭園郊外の建設せらるゝもの年々增加したり例へば Liverpool 市に近き portsunlight が Birmingham 市に近き Bournville の如き庭園都市及び Manchester, Liverdool, Bristol, Hull 諸市の庭園郊外の如きは是なり。

是等の詳細は Frederic C.Howe が千九百十二年七月刊行 Scribners Magazine 誌に揭げたる The Garden cities of England のなる論文及び同氏が千九百十四年の著書 The Modern city And itsproblems" の中に詳なり英國以外の庭園都市に就ても前揭雜誌及書籍に記述せられ其他諸外國の都市に關する著作は近年頗る其數を增加したりと雖是等を涉獵して歐米の各庭園都市を比較論評するは本論文の目的及び範圍に非ず余は我國の古を攷へ今を顧みて更に將來を推すに我國の都會は曾て花の都なりしを今は個人自由主義の風に吹かれ私有財產制の雨に打たれ工業革命の烟に壓されて塵埃淤泥の巷となれりとを今日の儘に放任せんか我國都會は終に腐敗醜惡の修羅場と化するならむ是れ余が本論に於て歐洲庭園都市の例を引き我國花の都の舊を偲びつゝ我國の地理民情風俗に恰適なる偕樂的庭園都市及び庭園郊外の建設の急務なるを絶叫せんと欲する所以なり余曾て大阪の近郊濱寺公園に遊ぶ園內に一碑あり大久保甲東氏の句を刻す曰く

音にきく高師の濱のはま松も世の仇浪はのかれさりけり

嗚呼何等の警句ぞや甲東氏明治初年に於て數十年後に於ける都會及び郊外の俗惡化を豫見すること斯の如し此句豈獨り高師の濱の松のみに就て言ふものならむや（完）

日本疊を利用する和洋折衷式住宅

會員　工學士　日高胖

從來、改良住宅に就て、新聞紙上又は雜誌等に種々な考案、即ち平面圖抔が掲げられてあるのを覽ますのに、多くは、純西洋式か、然らざれば、純西洋式と純日本式を並行させたもの、即ち、西洋式の室と、日本式の室とを別々に取り合はしたものだけで、斯の兩樣式を一室の中に融合せしめ廣袤（スペース）を巧に利用して、而も、矢張り日本在來の居住樣式をも味ひ得るように考案されたものは、自分の寡聞なるのか、どうも見當らないようであります。

元來、如何に我住宅を改良すべきかは、勿論、其人の職業なり、社會的地位なり、乃至は趣味なり、それ〳〵皆之等の異るに仍りて、改良意見も異るでありましょうが、之を大觀致しますならば和洋式と、和洋折衷式と純日本式の三つに別つことが出來得ようと想ひます。日本の現代に於ける狀態では、純西洋式の住居と成すことが、餘りに過渡時代の現在に於ては、到底問題ではありますまい。殊に、中流階級以下の人達には、却々難い事で、とても、之を強ゆる譯には參りませぬ。さればとて、從來の生活樣式を襲踏し、依然として純日本式を固守するということは、凡ゆるものゝ時代的進化殊に居住生活の改善を唱へらるゝ今に於て、餘りに時代を解せない保守固陋の考ではありますまいか。然らば、和洋並行式を用ゆることは奈何なものでありましょうか。是は、恰も、等して西洋建築の中にも、歷史的な建築樣式や、古典的な部屋抔を拵へて、自ら其趣味を充たすように、經濟と趣味の容す限りに於て、幵ういふ並行式も可いでしょうが、問題は所謂住宅改良であつ

て、決して、贅澤な問題でも、上流生活者の問題でも、局部階級に於ける問題でもなく、實は各階級を通じて、就中、社會の多數を占めてゐる處の中流以下の階級を通じての、普遍的な眞劍の問題であります。扨うすれば、歸する處、和洋折衷式に據るの外はあるまいと想ひます。

和洋折衷式の住居生活は、斯る皷吹を爲す人も少くありませず、又現に、稍斯の樣式を採つてゐる人達がありますが、どうも未だ徹底致してゐないように見受けます。其徹底せない主要な點は、日本の疊を、それに利用されることが甚だ少いのに在ると想ひますが、今もう少し有益に巧妙に生かして使ひ度いのであります。純西洋式では寢室と居屋と客間を別々に取り設ふけて使ひますが、私の所謂和洋折衷式は、是を一間に纏めて、ベッドルームともなれば、居室とも成り、其處へ書齋も客間も兼ぬる處の、スペースを極めて有要に、頗る巧みに使ふ處に特長があるのであります。

是は、西洋でも遣つてゐる事であります、例へば、居室をベッドルームに兼用するのには、壁の中へ篏め込み床を拵へ、必要のときはそれを抽き出して使ふといふ設備と成してゐるが、是とても隨分相當に金の掛る仕事であるから、中流階級以下の生活者には、蓋し奈何かと考へられます。それよりも、寧ろ、日本の疊は大層便利なものですから、此の和洋折衷式の生活に努めて利用することを考へ、例へば、西洋室の一部分に、高さ一尺二寸位の床を作りまして、それへ、三疊か四疊か、場合によつては、六疊位な疊敷を拵へ置けば、腰掛式の生活にも、又は、場合によつて踞座するにも或は寢るにも、大層便利な使用が出來得て、私共日本人の傳統的生活樣式の幾部分をも味ひ得ると同時に、西洋式に文化的生活樣式をも取り入れ得る處の兩特徵を有するのであります。斯の點だけでも先きに述べました處の和洋並行式よりは、もつとヨリ多く利用出來得ようと想ひます。寢室に致しました處で、之を書齋に兼用するような場合に、其一角へ一疊敷でも二疊敷でも、疊を敷いて置けば、スペースを大層都合良く利用出來得ましょう。

一體、住居の純西洋式は、私共の理想としての問題でありますけれども、若しそれに準據するとなれば、今日の我過渡時代には、忽ち、道路や服裝抔の問題が引つ懸つて來ますから、却々困難な問題であります。されば、私共日本人としての傳統的の生活から全然脫却し得ない現在に於きましては、西洋式な餘程進化した處の居住生活を味ひ、得ますと同時に、依然舊來の生活の幾分をも低徊し得るように、謂はゞ、一種の調和策とも見得べき件の和洋折衷式こそ、最も時宜に適せる方法ではありますまいか。急進的に、純日本式から純西洋式に一足飛びは、理屈としては兎に角、實際に出來得べき筈なものでないと想ひます。何にしても、前に申述べましたように、我所謂住宅問題は、一局部や一階級の問題でなくして、上下を通ずる處の問題でありますから、中流階級以下の經濟能力と趣味性を中心として考へねばならない問題であります。故に、私の所謂和洋折衷式は、人によりて、其内部の設備其ものと量とを異にこそすれ、實に上下の各階級を通じて容易に實現し得べき策案であります。

唯此處に多少考慮を要すべきは、日本婦人の慣習が兎角踞座に許馴れて、踞座せなければ休まらないように思はれますから、西洋式居住生活で、一等困るのは婦人でありましょう。けれども、和洋折衷式に致しますると、純日本式居住の要素と成つて居ります處の疊を利用致しますから、多少な窮屈はあるにしましても、斯の不便から免れることが出來ます。尤も仕事をする上に於て第一厄介であります。是は、西洋式の床の上へ カーペットでも敷けば差支へないでしょうが、是は、疊の樣に掃除が出來ないから、斯の不便から免るゝには、非常に大きなテーブルが要りますけれども、件の如く疊敷の利用が出來るならば、斯の厄介も除けます上に、一層親密さが加はります。

以上申述べました樣に、和洋折衷式の生活は、所謂細民階級の人達でも、其長屋生活に是を應用し得られまして、腰掛式の一部に長い疊を敷いて何なりと腰掛に利用し得るような物を置き、夜は布團を敷くことも出來まして、恰當、支那流に似

寄つた生活ではありますが、非常に場所の節約を爲し得られます上に、何人でも容易く營み得る便利を有つて居ります。

純西洋式で一等厄介なのは、其家具調度を拵へることであります。元から其生活に馴れて居りますならば多少の家具を有つて居りますから、左迄の問題ではありませぬが、今俄に純西洋式となりますと、日本人としては、其家具調度を根底から取り替へて來ねばなりませぬから、それには勿論相當な金を要します。然るに、和洋折衷式になりますと、在來の物で間に合ひます上、床でも、在來の布團でも之を清潔にしてさへ置けば非衛生でなく、其儘使用されますから、簡單に行けます。布團の上げ卸しに多少な面倒はありますけれど、西洋式のベッドでも、一週に一回は掃除せなければなりませぬから、その樣な事は大した問題ではありますまい。

純日本式になりますと、部屋の入口の戸や襖抔が非常に弱く、其開閉に音響を傳へますから甚だ以つて具合が惡い。それを、西洋流に丈夫な扉に取かへ、窓や入口を嚴重な締りと成し、入口も、日本式のように多く拵へる必要もありませぬから二箇所位で可い。之等を改良して行けば、其構造が純西洋式でなくても、在來の日本家屋を幾分か模樣替へして、安全と便利な家が廉く出來ます。要するに、私の所謂和洋折衷式は、疊をもつとヨリ多く利用する事が、其設備の中心であります。

（文責在記者）

秋思

琪樹西風枕簟秋
楚雲湘水憶同遊
高歌一曲掩明鏡
昨日少年今白頭

實費計算式請負制度と所謂直營工事

會員　建築士　設樂貞雄

實費計算報酬式請負契約に就ては、既に、本誌第四輯第八號に於て、松本禹象氏の高見を掲げられたが、斯の問題は、我業界の人々が從來の請負樣式に慊焉たるものありて、理想としては、實費加算報酬式の可なるを許容してゐるのであるけれども、扨てそれを實行すると成れば、其處に、種々な面倒もあり、其環境に對する關係もありて、縱むば現に斯の制度に據る處の請負契約が多少あるにしても、是を弘く用ひらるゝことは、却々の困難ではあるまいか、と想はれる。

併し斯の制度は、我國として、何も今更新しく出來たものでなく、實は、我國にも、既に早くより斯の制度を採り來つた事實があつて、敢て我國に於ける前例のなきものではない、蓋し、所謂直營工事なるものが、實にそれである。直營工事は申す迄もなく、建築材料の購買抔を、實費主義によつて、成るべく優い物を、成るべく廉く買入れる、其他、凡ての經費は、從來の樣式による請負でなくして、實費による計算たることは勿論である。

例へば、私の關係せる建築工事の一つに就て云はむか、現在の兵庫縣廳々舍は、凡ての設計を山口建築事務所で請負ひ、其請負では、申すまでもなく、一定の報酬によるのである。そして其出來上つたものを、兵庫縣の「臨時建築部」に引渡し、之が施工は、所謂直營工事なる形式の下に、件の「臨時建築部」に於て營爲されたのである。尤も其設計者は、工事監督の任に膺つたのではあるが、それに從事せる技術者や監督者抔に對する給料又は手當の名義に藉る處の報酬は、名義こそ彼樣に

なつてゐるけれども、其實質は、取りも直さず、所謂實費計算式の報酬其ものに相當する。勿論其給料杯が、果して、件の實費額に對する處の所謂「デンバーセント」に當るか否かは、素より問題であるけれども、實費額に對する「デンバーセント」が必ずしも實費計算式の報酬額に定つたものではない。要は、實費額に對して、或一定額の報酬を支拂ふ事が、斯制度の生命である。故に、施主と工事設計者又は監督者との關係奈何によりては、其報酬が實費の一割なる場合もあり、又は一割以上なる場合もあり得べく、乃至は、降つて一割以內なる場合もあらうが、所詮は、一種の投機的傾向を有せる從來の請負制度を、明確に或一定額の報酬加算による實費請負と成すに在る。

斯くの如く、實費計算式の請負制度は、請負者に於ても、施主にしても、其工事費相當に實質のあるものを拵へ得られ、時には冗費を負擔せしめられ、或は意外の損害を負ふ等の危險もなく、實費主義に立脚して設計せる以上、場合によつては工事材料の市價が暴騰せるときの如き、施主が其設計を維持する限り、工費の增額も、從來の請負制度の如き難事にもあらざるべく、望むらくは、斯の制度の一日も早く一般に採用され度い、斯の點に於て、私は實費計算式請負制度に對する賛成者の一人である。

けれども、茲に問題として考慮を要する事は、斯制度の基礎とも謂ふべき處の、所謂實費其ものゝ信用奈何である。云ひ換ゆれば、請負者に對する處の對人信用奈何といふ事も、最も斯制度の生命を左右するものと謂つて可い。蓋し、實費計算といふ限りには、從來に於ける請負制度の如き競爭入札に俟つ譯には往かない。必ず、多くの請負業者中より、最も信用と手腕ありと思料さるゝ處の一人を指名して、是に實費計算を托することゝなるの外はない。私は、現在の請負業者中に斯る信用と手腕ある當業者少なからざるを信ずる、けれども、單に建築請負業者といふ許でなく、由來我國の現代に於ける一般人の對人的信用が、例へば只一人の爲す事に、無條件な許容を與ふる程爾く信用關係が進むでゐるのであらうか、蓋し問題

である。

殊に、工事請負者其ものは、極めて誠實に施主の期待を充さしめ得るとしても、例へば、建築材料供給者に對する信用奈何が、軈て、請負者の折角なる「誠實」にも差し響くことがないでもない。云ひ換ゆれば、今日の如き市場關係が甚だしくて誠意の乏しき時代に於ては、甲の材料供給者としてのそれと、縱むば普通市價以上といふような莫迦氣た値開きはないにしても、或それ以下に於て著しき値開きのあるとは、決して實例のなき事ではない。要するに、其請負者の誠實より割り出したる「實費」も、最善にして確實なりといふ事に、聊か怪しくなつて來る。斯る場合は、其設計者より實費見積を徵して、請負者の見積りと照合し、其適否を判斷するの外はないが、斯うなると、請負者の對人信用なる事に大分の割引を生ずる結果と成りて、實費計算制度が元々對個人的に信用の下に見積らしむるといふ趣旨と、其處に大なる矛盾を生ずる。

故に、其所謂實費なる事が、件の制度を生かしむるか否かの楔子とも謂ふべきであつて、制度其ものには最早何人も異論のない處であらうから、それさへ精確に判別し得られるならば、茲に實費計算請負制度の問題は全然解決されたものであつて、施主が投機的な考へに立たざる限りは、最早一般の工事請負は、悉く斯の制度に據るを以て、最も合理な事と私は信ずる。然らざるに於ては、實費の入札といふような、極めて畸形的な方法に藉りて、實は從來の競爭入札と左して異りのない方法を襲踏するの外はない。

更に、今一つ難かしい問題は、實際に工事の勞働に膺る人達即ち手間に對する監督である。例へば、實費計算式の趣旨より、手間を請負とせずして、之を常傭とする場合は、實際に於て其監督が甚だ難しい仕事の一つである。私共が、東京抔で屢々經驗した事であるが、由來、工事監督者として、日本人と西洋人とは、職工抔に對する處の威壓即ち所謂樋の利けさが大層な相違であつて、どうも日本人は威壓が貧弱である。監督者に威壓の利ける者を使つて、どし〳〵勵行するならば、工

事勞働者を常傭とするを以て可なりとするも、斯の監督が日本人としては却々の問題である。左りとて、手間を請負とすれば、所謂實費計算制度は斯の一事に於てすら、根底より破壞となるのである。斯の問題も亦、實費計算式請負制度を實施するに對しての一難關ではあるまいか。

又、實際に、或一工事を、切々に手間請負に出すとせば、其一つ一つに仕事を區分する結果、其工事全體、若くは、少くとも、其區分せる仕事全體の上から、歩調整然と孰れもの仕事を、急ぐ事が出來得ない缺點がある。其實例は、工事の實際に膺つた者の等しく識る處であつて、今此處に例示するのは寧ろ無要な業である。斯る狀態による請負は、其必然な結果として、非常に工事の進行が圓滑でなく、自然に其竣成の遲延を來すことは申す迄もない。

されば、大工事ならば大工事として、是を分割せずに一括して請負はしむるに在る。それを手間請負とするなら、人間の勤怠を監督出來得ない。職工を百人入れて仕上げるものを、七十人で一定日までに仕上げるならば、何んとしても常傭とせなければならぬ。そうすると、問題は依然として監督者其人を得なければならぬといふ比較的難問題が横つてゐる。

其他、前にも述べたように、請負人を指定して實費の見積りを爲さしむる事となれば、今の施主は、どうも不安心だといふ考へから、種々に其見積りを取つてみるであらう。斯る場合、恐らくは所謂符節を合せるといふ風に、其悉くが同額なものではあるまいと想像される。然る場合は果して其何れが實費であらうか。疑へば、其悉くが信用を置けないとも云ひ得る。左りとて、從來の如き請負工費で仕事が出來ようが出來まいが、幷麼事は施主の關する處でなく、兎に角工費の內容は請負者側の事、こちらは、仕樣書通りなものが出來上つたら、それで可い、といふような一種の投機的方法に據らざる限りは、其悉くの孰れかを實費額と認めて選定せざるを得ない。斯る場合に、施主は迷はざるむとするも得べけむやである。

素より、至大な信任を置け得る請負者に對して

は論外であるが、之を一般の上から申して、先づ何とか實費なるもの、正確さを判定し得べき方法なき限り、實費計算式請負問題は却々の難關である。是れさへ何とか最良な方法を見出すならば、是に加へて、材料は競爭入札とし、手間は常備と成し、而して、其監督に適當な人を得るならば、茲に初めて、實費制度が無碍に行はれ得るであらう。

併し乍ら、從來に於ける直營工事は、前にも述べたように、私は、其實質が實費計算式請負制度と同樣だと解してゐるから、件の制度は何も幷う新しい制度と思へないと同時に、直營の方法の內容に少々手を入れたならば、其處に、確然たる實費計算式請負制度が出來上るであらうと、私は確く信じてゐる。蓋し、讀者諸君の御考へは什麼ものであらう？（文責在記者）

色彩小言

（其一）

OPQ子

私は小さい時分から、國語讀本等で、この日本のことを「繪のやうに美くしい國」といふ誇りを知り、そして、其處に憩まれて生れた自分を、非常に幸福に思つてゐたのでありましたが、漸く、外國書を解し、色々な繪畫、寫眞等をみる機會が多くなるにしたがつて、洗練された線や研究された色彩等を、自由に按配して家屋の建築に苦心したり、都市の計畫に努力して、自然の風景を一層強調し、享樂してゐる歐米が、嘸らなく美ましくなつて、近頃になつては、折角、私等を愛育してくれた自然——山や川や森までが、何となく干乾らびた、色盲の世界のやうに思はれてならないのであります。したがつて、其線に粗末な、環境に育まれた私達ですから「世界を通じて最も表情の少い」人種に數へ上げられたのも、無理のないこと、思つてゐるのです。けれども、私達は何時までも、このやうな形容詞を戴いて、默してゐる意氣地なしではありません。一方には市街地の整理、都市計畫が叫ばれて、國立公園施設の要求が愈々急な今日であります。私達は直ちに、熟慮を傾けて人生を享樂する生活に、進まなければならなくなつたのであります。

丁度、自然の風景が私達を愛育して呉れるやうに、私達の家や、其他の建築物は、皆私達を諦つて呉れる自然と云つても、差支へはないでせう。どんな小さい物でも、私達の周圍にあるものは、何かを私達に與へ、私達は其等から、何程かづゝその感化を享けてゐるのでありますから、毎日住居する家屋や、その周圍の風景氣候が、どれ程大きい力を以て、私達に働きかけてゐるかは、疑ふことの出來ない現象なのであります。それですから、私達は、私達の周圍から次第に波及して、この感化力の偉大な自然を、もつと〳〵美くしい、色彩の潤澤な充實した「繪のやうな國」の實現に、努力したいのであります。したがつて、是が爲には、どうしても、最も手近かな住宅を最初として、順次に各方面にそれ〴〵、適當の色彩を與へ、美化してゆかなければならないと思ふのであります。私は、先づ第一に研究する筈の最も高級な建築は、ヘンリー、マーシャルが言つてゐるやうに「線と均勢を得た色量の完全な美の感じを強調する」其處に現はれるものと、信じてゐるのですが、茲では不取敢、その內の色彩について少しばかり、書いてみやうと思ふのであります。（五十七頁へ續く）

土地會社の經營者に望む（畢）

特別賛助員　農學士　大屋靈城

四　寺院を中心にする事

大阪附近の住宅經營者は勿論本邦到るところに企てられつゝある住宅會社は其の經營地に何等の中心を有たないようである。よしんば圖面の上に於ては中央に於て二つの大道路の交叉點を圓形に擴げて其の周圍に事務所や學校圖書館等を明記して如何にも一つのセンターを示して居るものゝありとしても、それ等は多く最後に金の餘裕でも出來てからの事業として永久に取り殘されて居る事が多い。從來の村落には如何なる村にも寺や宮があつて其の周圍に住宅が群をなして居て外形上からも實際上からもこれ等社寺が其の村の中心となり其の村を統括し居つた。又都市に於ても必ず一つのシビックセンターがあつて其の周圍に延びて居るのが普通である。然るに獨り此頃新らしく建設さるゝ住宅會社の經營地にはこのシビックセンターを欠いで居るものが多いように思ふ。

これは果して何に起因するものであらうか、私は人間が極端に物質主義になり會社が極端に利慾に走つた結果ではなからうかと思ひ且斯の事實を目擊して頗る哀れに感ずる。この現象は些細な事のようであるが重大問題であると思ふ。凡そ一都市の改善に於ても單に交通運輸上下水道改良の如き物質的の改善を以て事足れりとなすのは大なる間違ひであつて都市の健全なる發達を望み市民の文化を向上し安寧を保持する爲には市民の精神の改造と云ふ事が伴なはなくてはならぬ。これが爲には市民に適當なる敎化機關並に宗敎心を養はしむる施設の如き決して忘れてはならぬ設備だと思

ふ。濫りに寺院や墓地を邪魔物扱ひにしこれを破壊しこれを移轉せしめんとするのは思はざるの甚だしきものである。

尤も今日の僧侶は多く墮落し宗教の威信は地に墮ちて居る有樣であるからこの種の寺院は都市民には無用の長物であるがこれを以て一概に寺院の不要を論ずるは當たらざるものである。人間生活に宗教的信仰の必要たる事は云ふを俟たぬ事で人間は信仰によつて初めて徹底した愉快な生活がおくれるものであると信ずる。人間が萬物の靈長であると云ふ事も、茲にあると思ふ。生活の改造、都市の改善抔と云ふのは單に安いものを食ひ安い家に住んで經濟的に暮し得るようにするのが目的ではあるまい。氣持よい家に住んで愉快なる生活をおくり以て人間味の一端でも味はして死なせたいと云ふのにあると思ふ。此頃の生活改善が動もすると生存の改善に傾くのを私は悲しむものである。この意味に於て眞の人間生活を知り眞の人間生活の愉快を知るためには人は信仰に活きねばならぬと思ふ。從つて吾人の住宅には必ず吾人の精神を指導し精神の慰安を與へてくれる機關が備はつて居らなくてはならぬ。都市に寺院の必要あるを於く一團の住宅地にも寺院（傳導を旨とした寺院を指す）は必ずなくてはならぬ。而もこれが中心となつて其の附近に住居する人だちを導き統一し以て愉快なる共同生活の實を擧げしめねばならぬと思ふ。尤も信仰は必ずしも各人同一ではないクリスト教を信ずる人も日蓮宗を信ずる人もあるこれは銘々の自由である。從つて其の寺院も何宗と云ふ如き一宗に限られたものでなくて日によつて異なつた宗教を說く如き各宗の傳導館みたようなものであつて欲しい。

要するにこれらの新らしい住宅地には必ず精神の慰安を與ふべき寺院とか公園とか圖書館、音樂堂、博物館、學校等の如き施設が第一に設けられ而も此等が中心とならなくてはならぬと思ふ。彼の泰西の郊外住宅地又はカーデンシチーの如きを見ても大低はこの種の施設が中心に成つて居る。

彼の地の新らしき村落は先づ教會堂が出來て其の周りに住宅が建て增されて行く。日本の新市街

は先づ飲食店や藝者町が出來て其周圍に住宅が集つて行く何と差異の甚だしいものではないか。どこまでも肉に活き慾に生きんとする日本人はどこまでも靈に活き智に生きんとする西洋人を見習ふ必要がないであろうか。

五　各の住宅も精神本位に

今は住宅地全體の事を云つたが其の中に列んで居る各住宅に就ても同じ事である。總てが物質本位に材料でも間取りでも定める事は面白くないと思ふ。愉適なる郊外生活の出來るように一つ一つのロットを設計して欲しいものである。

特に茲に注意を促したいものは庭園である。庭園は此の頃一種の贅澤品扱ひをされる傾きがあるが決して贅澤な施設ではない。衞生上から云つても室内に常に陽光を直射させ風透しをよくし而も其の中の空氣を絶えずレフレッシュさせ得るのは全く庭園の御蔭である。家の周りに適當の空地が設けられ綠りの植物を以て飾られて居る家と隣りと向から建物が敞ひかぶさつて居る窮屈な家とどの位人間の精神に異つた感じを懷かしむるかを考へても家には庭園の必要な事が解かる。植物學者の研究によると人間一人が一日に吐出する炭酸ガスは僅かに一本の小木によつて短時間の間に吸ひ採られてしまふと云ふ。尤も植物によつて其の能力は異るようであるが今二三の例を擧げて見るならば

○ヒマワリの葉では其の一平方メートルによつて吸收さるゝ CO_2 ガスの量は一時間 C.C. 412 で

○キサゝゲでは同 C.C. 325 である人間一日の CO_2 ガスの吐出量は約七〇〇乃至九〇〇グラムである。

これは庭の衞生上より見たる効果の一端であるが庭園美と云ふものが吾人の精神に慰安を與ゆる事は又測り得べからざる程大である。單に植物の色のグリーンであると云ふ一事のみでも人の心を落ちつけ休めるのに大なる効果を有つて居る。況んや其の姿其の形に表はれたる自然美の玩賞に於ておやである。

庭園は全く精神の慰安所である。一日の家業を

終へて歸れる疲れ切つた主人並に家族の精神を慰撫して再び翌日の家業に就き得るだけの元氣を恢復せしむるものは全くこの庭園である。人間のリクリエーション（Recreation）と云ふ事は庭に於て初めて行はれ得るものである。

我國では古來庭はこの意味に於て用ひられて居つた。殊に佛敎の傳來以後に於ては庭の石や庭木に佛名迄も附して佛の來迎せるかの如くに伏し拜んで一草一木にも眞如の相を觀じ山色に佛身を思ひ溪水に長廣舌を聽いたりした。斯の如く庭は全く住宅に於ける精神の慰安場所であつた。古く神代の頃に於ても齋場は大低戸外に置かれた。而も必ず各々の家にあつた其の場所が後世の庭となつた。庭の語源から云つてもニハはもとイミバの約まつたもので即ち齋場を指したものに違ひない。

齋場は家のうちでも一番清淨な場所で神樣や祖先を御祭り申した場所である。即ち家族の精神的慰安は多く此所に求められた。

降つて織田豐臣の時代になり茶の湯を加味された所謂茶庭が生れてからも庭は頗る平民的に成つたに拘らず依然として心を樂しましむる場所であつたに違ひない。

然るに此頃人々の都市集注熱が嵩まり地價が法外に暴騰する爲に市內に庭園の存在を許さなくなつて來た。從つて人は、はき違へて庭園を贅澤扱ひにするように成つた。甚だしきに至つては無謀なる投入はこれに課稅せんとまで企つるに到つた。何と思はざるの甚だしきではないか。希くは郊外に住宅を經營される土地會社の經營者諸彦に於かれてはこんな時代の風潮に染まれない樣に私は切に希望します。

本稿は今二三回續けて見たい考へですが許らすも十一月十五日の汽船で私は海外に出張致す事となつたので續け得ないかも判かりません。併し折に觸れて遠く異國の旅路より書き送る考は有つて居ります何分宜敷。

（大正十年十月十七日稿）

× × ×

江村郊郁君の提論せる「豫算公示論」を讀みて

合名會社山本組代表社員
終身賛助員　山本辰五郎

工事豫算に關する問題は事業經營上私等請負業者として實に重大問題である、と同時に私等は常にこれが合理的成果を期待しつゝあるの秋、貴誌第四輯第九號卷中に、江村郊郁君の『工事豫算公示論』と題する所謂これが合理的解決を提論されていました。私は斯の論文を多大な興味を以て幾度となく讀み返しました。純理と實際の二方面より論ぜられた條理整然として而も考證の該博なるには尤もであると首肯しました。しかし純理論は別として實際論に就て提論者の參考までに卑見の一端を述べて見たいと思ひます。

理想と實際との相異

私は江村君の提論に全然不同意であると云ふのではありません、寧ろ賛成者の一人でありますが論者の理想實現の容易ならざるを慨みます。民間は別として官廳の豫算編成と實行とに對する理論と實際とは相當の扞格を有していて之を理想の上よりのみ論ずることは其總てに於て困難の点が尠くありませぬ。固より論者の『或工事を編成するに方りて其當局者は大まかに、まあ一此位で行けるだらう、てな杜撰にして粗大な編成を遣らない事は吾々の信ずるところでありまして寧ろ當局者の豫算は其内容を竭した最も權威あるものたるこ

とを確信するのであります云々』と論ぜられた如く、當局者の豫算は權威あるものに相異ありませぬ。されば、其豫算額は自然の他動的影響なき限りそれ以下で工事の完成されるものでもなければ又それ以上をも要しないことは明かであります。

これは、豫算編成者の權威ある豫算を實行する上に於ける妥當な理論でありますが、實際はこれと相異して、豫算編成者と雖も其實行に多大な苦衷を感ずる事があります。それは其權威ある豫算を府縣會又は市町村會抔で破壞されることが往々にして珍らしくありませぬ。即ち現在官廳に於て實行されつゝある豫算案中、編成者の權威ある成案そのまゝのものは恐らく數ふる位なものでしょう。茲に於て豫算行使に對する根本的議論が岐れる譯であります。

官廳の豫算と編成者の徒勞

論者は『豫算額を秘してそれ以下の工費を漁るのは自ら豫算の無權威なること即ち杜撰粗漏のものたるを暗默に語るにあらずんば工事實費の豫定以下のものを作るに外ならぬと思ひます云々』と述べられている。然り正鵠を得たる自信あり權威ある豫算行使を左右せんとするは豫算の粗漏にあらずんば最も狡猾なる方法ならんとも觀らるべきであるが、實際は、お役所の豫算は大まかなもので當てになりませんと評する人もある。

何故に編成者が粒々辛苦の結果成案せる豫算案を大まかなものにして當てになりませんと評するであらうか。斯の批判の裏面にはお役所の技術家に對し多大の同情の潛在することを忘れてはなりません。

今その眞相に近きものと稱する点を說かんに、役所に於ける技術家は技術家としての本分を盡し圖面仕樣書により權威ある豫算編成を了し、これが承認を所屬議會に求むるや、驚くべし斯る何等の專門的智識と經驗をも有せざる議員さんによりて、頭から是は高價だ、イヤ財政が許さぬとか云ふて折角な豫算は滅茶々々に修正されるはまだしも、之が承認に長日月を閱し起工を急ぐ爲總ての修正を了せずして入札に附す場合あるやに聞く。尤も豫算に修正を加へられたる上は、技術者に於て適當の訂正を加ふるとしても、其工事に對する

圖面仕樣書と共に豫算は完全に併行されることの困難は免れまいと想はれます。

即ち技術家が確乎たる信念の下に編成されたる一点の瑕瑾だになき權威ある豫算案は、斯くの如くして根底より破られ、技術家の心血を濺いだ尊い努力の結晶は、遂に暗に葬り去られる場合も決して尠くないかのようであります。故に私は此方面の豫算は大まかにして當に近ならぬと評するのであるまいかと想像します。果して然りとせば、入札の結果豫算超過となるべきは餘義なきことではありませぬか。然るに、更に是を競爭入札に附し豫算額以下の最低者に工事を託するに於て不合理なるは勿論であります。

大に考慮を要すべき合理策

飜つて其豫算は自信と權威あるものとしても、私等請負業者の見積とは又その向を異にするのであります。

請負業者は、事業經營上利害得失に關しては相互に愼重且つ精細に調査見積を爲すものにして、更に其他の事情をも綜合して、最も自信ある見積の下に入札するのであります。入札價格の相異は各自が總ふる事情を異にする点もありませう。

役所の豫算を中心として、(完全なるものも不完全なるものも混合して)請負業者各自の事情及技倆並に自信を異にする入札參加者中、其豫算に近きものをして施行者たらしむるは、豫算を絶對に信ずる上より謂ふも、合理策なるや否やは大に考慮の餘地存すべしと思考するのであります。

民間の改良は焦眉の急務

私は官民間の相異せる点を混同して述べたくないために更に項を異にして述べましよう。

今日の民間に於ける設計者の豫算編成は、合法的に精細に妥當を盡している。それは徒らに規則に拘泥されざる点もあるかも知れぬ。併し民間に於ける豫算に於ても註文者の都合上豫算の削減を見る場合もありましよう。此時に於て圖面及仕樣書を變更されなければ、前者と撰ぶところなき杞憂が生ずる譯ではありませぬか。民間に於ては、官廳と大に異り、注文者と技術者の間に隔意なく徹底的に總ての打合せを遂げられ、從つて理解せる豫算を中心として施行せられるので、施行に伴ふ弊害は實に尠少とされている。否權威ある設計事務所に於てはまだ之を耳にせない程で、官廳に比して遙かに進んでいます。

縮つて民間に於ても江村君の提論せられた如く豫算に近き入札者をして請負はしむるは、不可能でありませんでしようか。若し假りに之を採用するとせば私の聞知せる設計者中には決してありませぬが、多數の中には萬一豫算作成に際し土台百本入用の處を九十本を圖面より拾ひ出し、柱百本を九十本、木摺百坪を九十坪に、小屋鐵物百貫を九十貫に、野地板百坪を九十坪に、コンクリート百坪を九十坪に、モルタル百切を九十切、又單價小計をコンマ違ひ一割等の場合は則ち總額に一割の差を生じ、更に亦諸材料に於て價格の不明のものありとせば、仮令ば野地板杉六分板一坪、或は柱一本の價格を材木屋に電話で問へば、其材木屋は自分が納入し度き爲必ず仮に安價に答へ且つ此板類は決して張坪にあらず加ふるに倉庫渡なるが故に現場迄の運賃は別とし、又鐵筋抔は噸何程として切端の出る如きは念頭に置かず、斯の如くにして電話にて其聽取せし價格に依り之を單價に盛込んだ豫算でも、論者の云ふ如く豫算權威者として其豫算に近き見積額を採り之を以て妥當とし註文者は之に契約するを原則として然りや、私の愚考としては、見積は指名者二人三人若くは五人十人となる、この二人の場合には註文者及設計者より最も信用厚き請負者にして隨て設計者も極めて信用厚く確實なる設計者故、此場合は設計者の調製したる工事豫算書に近き見積を採る事、又三人以上の場合には、二番札に依るを以て妥當と思惟す。この理由は、是迄の經驗に據る處にして、例へば信用厚き見積にしても、甲、乙、丙、丁ありとすむに、甲よりせば、乙は安價ならんと思考し、乙よりせば、甲必ず低廉ならんと相互に其胸中を忖度して、強いて自己の見積價格を低減するは、敢て唯其利益を慾求するに非すして、信用を博せんが爲めなるも、然れども、工事落札の上は利益無きまでも損失を避けたきは人情にして、知らず識らず竟に無理を爲て、其結果、缺處を指摘せらるゝの悲慘事を觀、信用忽ち地を拂ふに至るを睹るは嘆ずべきの極みであります。

故に私は論者の豫算公示論を排し、寧ろ二番札を採るを以て最も妥當と信ずるものであります。

要するに、私としては、施主としての立場より權威ある設計を尊重し、忠實に眞摯に之を完成せしめることを基として考へたいと思ひます。江村君が更に本問題を研究する上に於て、其現在の實際を參考までに述べ、敢て先覺者の名說と合理的方針を期待いたします。



「研究」

ペイントと鉛毒

工學博士　細木松之介

近時工場衛生又は職業疾病等の問題が諸方に於て提唱せらるゝに至り、各種工場又は職業に關聯する疾患に付き世人の注意を促がすに至りたりと雖ども、此等工場又た職業に伴ふ疾患の實際の調査は、本邦に於ては未だ甚だ不完全、否殆んど皆無なるを遺憾とす。今ペイントと鉛毒の問題に就ても、其材料は之を歐洲の調査に借るの止むを得ざるを諒せられよ。

今英國に於ける調査によれば、最も甚だしく鉛毒を、受くる職業は、鉛工、ペイント工、活版工、陶器の施釉工等にして、ペイント磨混工の子は、出生後壹ヶ年の間に其十分の四は親より受くる鉛毒の爲に死亡すと云へり、豈に恐るべき事ならずや。

然らば此鉛毒は如何にして人體内に侵入するかと云へば、兎も角微量づゝ長き間に亘りて侵入するものにして、其徑路に至ては、予輩如き醫者にもあらず亦生理學者にもあらざる者の知るべき筋合に非ずと雖ども、少くとも予輩の見たる書物にては、未だ一定せざる者の如し。即ち英國の學者に

は鉛分は皮膚よりも肺よりも又食道よりも侵入するものなりと云へども、獨逸の學者には消化機より入るものにして皮膚や呼吸機には關係なしと云ふ者あり。而して如何なる鉛が最も有害なりやと云へば、消化液に溶解し易き狀態のものが最も危險にして、其害毒の順序に列擧すれば第一醋酸鉛次に密陀僧、鉛白、塩化鉛、沃度鉛、硫酸鉛、珪酸鉛及び硫化鉛にして、此等の鉛分が體内に侵入したる後に於ける運命如何を尋ぬるに、肝臟内には時々多量に發見することあれ共、著しく異狀を呈することなし。腎臟、脊髓、腦及び胃腸の膜にも存在するを認め、最近心臟壁及び淋巴腺中に之を發見したるのみならず、家兎に鉛を食はしめて其血液中に之を含有するを見たるを以て、血液も亦鉛分を貯蓄する所なることを慥かめたり。

鉛毒の徵候は種々あれ共、皮膚の蒼白又は黄色を呈すること、食慾の減退、便秘、倦怠、仙氣等にして、婦人に在ては子宮の痛みを起すべし。鉛毒に罹れる者の蒼白又は黄色となるは、血液中の赤血球の減少するに基因せり。又鉛毒に對しては男子よりも女子の方遙かに鋭敏にして最も中毒し易く、鉛毒の爲に姙娠すること減少し、假令姙娠するとも流産する者頗る多し。又鉛毒者より生れたる子は智力も體力も共に健全なること能はざるものなり。

久しく鉛分に接したる者は、排泄機を傷害して尿中に蛋白を多く含むに至るべし。又鉛分は人體内に蓄積せらるゝ者なるを以て、時々腦中に之を含有することあり。

鉛毒の結果としては、烈しき頭痛を起し、視覺及び聽覺を失ふ事あり。又關節痛は普通にして、手頸の筋の働かざるに至る者多し。又婦人に在りては、ヒステリーを起し、或は鉛毒の爲に死亡する者亦尠からざるなり。

鉛毒の恐るべきこと以上述ぶる所の如し。衛生を保持せんには成るべく鉛に接せざるを安全の策なりとす。然るに種々なる職業の中には鉛分に接せざるを得ざる者あり。假令ば鉛工、又は鉛を原料として製造する業務に從事する者、若くは其製品を使用する者等にして、職業中毒者の統計を見れ

ば、ペイント工の鉛毒に罹る者甚だ多きを發見するならん。而して若し此等不幸なるペイント工を鉛毒より救ふ事を得れば、實に彼等の爲めの恩惠にして、人道の發露と云ふべきなり。ペイントは普通鉛分を多量に含有せしめて造るものなれ共、近年學術の進歩は必ずしも鉛分を用ひずして鉛製ペイントと同等の物を製造し得る事となれるを以て、予は茲に有毒性の鉛製ペイントを建築界並に工業界より之を全廢せん事を提唱せんとす。

然らば此鉛製ペイントに代るべき物は何なりやと云へば、他に非ず亞鉛製ペイントにして、此亞鉛製ペイントは、凡ての性質に於て鉛製ペイントに劣ることなくして、人體に對して殆んど全く無害なる物なり。故に予は人道の立場より切に建築家諸士に希望する事は、日本建築協會の如き有力なる團體に於て、今後一切鉛製ペイントを建築仕樣書より抹消して、其代りに亞鉛製のペイントを使用することに改正せらるゝならば、ペイント製造家も止むを得ず賣れざる鉛製ペイントの製造を廢止し、賣行良き亞鉛製ペイントを製造すべきを以て、此建築家諸士の人道的行爲は、只ペイント工の衛生上に大恩惠を與ふるのみならず、其原料として使用せらるゝ各種鉛の化合物假令ば光明丹及び鉛白の如き物の製造に從事する者の衛生にもヨリ以上の恩惠となるべきを以て賢明にして慈愛に富める諸士の一考を煩はさん事を切に希望する者なり。



「都市」

都市計畫に於ける事象（二）

（前號「都市計畫に於ける精神的方面」より續く）

―市加古市の都市計畫に就て―

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Z Y 生 譯

音樂上の企業中最も重要のものは、五月の下旬ノースウェスターン大學の體育館で開催される四回演奏の北岸音樂祭である。此會場は座席五千四百を有してゐる。千九百十七年の第九回の紀念演奏會には、純益二萬五千弗を得た。而してマネエヂャーは、翌千九百十八年には遙に凌駕して見せると言つてゐる。千人のコーラス、立派なシムホニック・オーケストラを有し、又獨唱家は最良のものである。千九百十八年の時季のために、既に五十四箇のボックスと坐席の九十パーセントは開期前六週間に賣り切れてしまつた。

文化音樂協會（シビック・ミュジック・アソシエーション）は、千九百十三年に創造せ

られた。その目的は音樂の術に對する理解と鑑賞力と研究とを增進せしめ奬勵し、團體を訓練することによつて音樂上の才能を發達せしむるにある。その方法の主なるものとして、音樂上の饗宴をしたり、又は公園や遊戲場やその他の公の設備場でもつて、薄謝に甘じて訓練のために演奏をするのである。この目的を達成するために撰ぶ階段は、種々なる連洛公園や公立學校に於て、市の第一流の音樂家の指導の下に、青年少年のコーラスの團體を訓練するのである。又公園の中にある建物に於て自由日曜日午後の演奏會を催ほす。そのプログラムは認められてゐる位置にある地方の音樂家が作成する。又夏期の間は市の埠頭や、公園でもつて、オーケストラに伴つた團體の合唱を設ける。

さういつた樣な活動が立派な此團體を設けた始から十分になされ又だん〳〵盛に企てられてある。この合唱團事業の價値殊に兒童等の爲の合唱團事業は價値秀れたものであつて、主もに外國移住民の間に實行してある。こうして歌を通じて米國化を圖る影響は、この影響の波及甚だ遠いものである。だがこれは兒童等に英國民の歌を敎へ授ける以上のものではなくてはならぬ。何故なればその敎へたる音樂は、彼等兒童等の家庭に影響し多くの有効なる反響を呈するからである。

夏期中の間行はるゝ團體の唱歌は（不幸にも市は冬期間にこの事業を實行する便益ある建物をもつてゐない）最も成功をしてゐる。聽衆は二千から六千迄種々の人々が出席してゐる。この事業は眞に大なる文化的表現であり、デモクラシイの原因となる最も有効なる酵母である。合唱の時には人生あゆみのあらゆる方面の人々が合唱に加れるを人は見出すであらう。この瞬間は凡てが共通の愉快を樂み、最早こゝには階級的偏見も、社會的の地位も皆消滅してしまふ。

大湖にある合衆國海軍訓育所內の唱歌事業も、又この文化音樂協會によつて始められたものである。歐洲大戰中新兵を訓練しつゝある間は、三千若くは五千の熱心なるヂャッキイが集つて愛國歌を歌つてゐた。始めは一週間に一夕の練習であつ

たが、後には一週三日間となり、遂には『唱歌指導者』たるヘルバート・グールドの凡ての時間をこれに捧ぐることゝなつた。而して彼は戰爭慰安局と聯絡して働く處の正式に任命された唱歌指導者として政府に雇はるゝ樣になつた。協會の基本金は公の寄附金に待つてゐる。五十錢以上寄附する者は會員たることを得る。この協會の事業は多數の民衆をして良き音樂に接せしむる事により（これを聞き又はこの合唱に加はることにより）、市民の最も意義ある要求を充してゐる。彼等をし幸福ならしめ、人生の最も洗練せられたるものに接觸せしめてゐる。又この協會は市にとつて、現在重要なる活動をなせる數ある事業を鼓吹して來た。その中有名なのは市クラブによつて暗示せられたシカゴ・シムホニック・オーケストラの通俗的の演奏會である。僅少の報酬を甘受して、奉仕のために斯程迄に多くの藝術家が集るが如きとは、米國に於けるどの音樂團體の歷史にも前例がなからう。

市俄古市のバウリスト・コウリスターズは、米國に於ける最も有名なる少年の合唱團である。フアザー・ウヰリアム・フヰンによつて組織され少年の數百五十人强、毎年大音樂會を開いてゐる。そしてバリー及びフヰラデルフヰヤの賞牌を得るに成功した。

ウヰリアム・ヴヰルをコンダクターとするシカゴバンド協會は、立派なバンドを推持し、地方に自由演奏を開くために、公人たる男女によつて組織せられ維持せられてゐる。そして地方人にとつては、音樂は善に向ふ一つの力である。こうして此協會は民衆のために音樂を提供する處の最も優れたる事業をなすために、十年間も最も多忙なる夏を過して來た。又シカゴの『ワーバンド』と稱する團體は、戰爭のための資金を起すための事業を援助して大なる價値ある事業を遺した。その外多くの團體があつて、都市の棧橋や、公園に於て音樂を供給してゐる。

又音樂と音樂家とを改善するために、無數の樣々な企圖の協會を設けられてゐる。就中米國音樂者協會は米國の藝術を進歩せしめ、開拓するため

に嘆美す可き事業を行つてゐる。アート●インスチチュートに於けるフールラールトンに於て、名のみの僅の入會料をとつて、毎週演奏會を開いてゐる。地方音樂家は、この協會の保護の下に、世に出る多くの機會を與へられてゐる。ウアヰオリニストの組合も、自らの發行所と組織とを有してゐる。又オルガニストやコアイヤーの大家等も、毎週ボストン●クラブに集り、彼等の事業を改善する方法に就て論じあつてゐる。ミッドウエストの音樂の最大なる要素の一は、市俄古の音樂愛好者（アマチュアー）クラブである。婦人の團體であつて、會員の音樂上の才能を發達せしめ、音樂的興味を刺戟せんとするが其目的である。これ迄その會員によつて演奏會を開かるゝこと四百七十五回、協會と關係ある有名なる藝術家によつて、音樂會を開かるゝこと百六十回である。二三年この方はその活動範圍を、會員及びその友人關係者の間にのみ限り、唯公の活動としては、鄉黨の中音樂に志す者のために出す奬學金の資金を得る目的で、年一回開く音樂會だけである。十年前などは音樂普及のために廣い活動をつゞけてゐた。會員たとへば『老人者の家庭』『シカゴ少女の家庭』とか、オゥリーベット●インスチチュート。シカゴ●ヒブリウ●インスチチュート。『盲者の家庭』プレスビテイアン病院その他の場所で演奏會を開いてゐた。その慈善的活動は案外の所迄にも及んでゐて、市の多くの音樂的仲介に於て有効なる働を爲てゐる。一九一五年になつて、協會の名稱を變更し婦人音樂家クラブと改めた。そして內容も變つて、會員六百廿五人中、三分の二は眞の音樂專門家であつて、音學愛好家ではない。

尙ほ記しておかねばならぬ他の組織團體は、レエーキ●ブュー●ミユジカルクラブである。多年その會員のために計つて來たゞけでなく、將來ある青年音樂家のために奬學金を提供する如き慈善的の働にも從事して來た。

五百名の創立員をもつてなされた新なる計畫は音樂敎育のための市俄古基金である。貧い將來ある學生を助けて（一定の試驗に及第せる者）とするにある。

一九一五年、批評家であり音樂家であるグレンデ＊ラード●ガンは、五十名の器樂家のオーケストラを組織した。目的は民衆の間に音樂を普及せしむるにあつて、彼は斯の目的の爲に、多くの時を注ぎ熱心をこめて盡した。日曜日に演奏會を企てることに對し、悲觀論者の不平や、自然の反對などもあつたが、初期に十二回の演奏會を催し、効果を擧げてゐた。第二年目の、ガン●オウクストラは廿のプログラムを出したがその中十五はスチューデ座に於て、その他の殘りはハイ●スクールに於いて開いた。第三年目にはその數は著しく增加し、又一般に人望を得たことは、演奏會の聽衆が著しく增加したことによつて解る。この協會によつて四十七名よりも勝くない米國の作曲家が、市俄古市に引見せられた。又卅三名の藝術家が、此公衆に紹介せられた。

アーサー●ダンハムによつて組織せられ指導せらるゝ市俄古市のフ＊ルハルモニック●オーケストラは、善き高級の音樂、ヨリ光ある古典のプログラムを供給する觀念をもつて、一九一七年に生れ立派に存在して行つてゐる。こふいふ企を爲て指揮者ダンハムは、彼れの能力を認識せる五十名の公共的精神の市民の協力を得、且つ彼等より同會維持の保障を與へられてゐる。イリノイス及びブラックストーン座に於ける演奏は、最初の出發點からして成功であつた。而してその演奏のプログラムは、音樂愛好の公衆の趣味に、嘆美す可き程に平均してゐた。而してシムフォニー及びシムフォニーの部分は他の凡ての演奏會に於て演奏せられてゐる。

一九〇八年北岸に於ける最も繪畫的の美はしき場所の中の一に、音樂上、建築上の夢を行はんとの大望心から、ラビニヤ公園が開發せられた。數年間の音樂季節には音樂愛好家に與ふる處何物もなかつた。寧ろ彼等を疲勞させてゐた。然るに一九一二年には、斯の公園は公園の側に鐵道を布設せねばならぬかも知れなかつた疑問の地點たる運命から脫して、巨大なる藝術的刺戟を與ふる無比にして重大なる場所となつた。かゝる使命を將來十分に此地が發揮し得る可能性のあることは、旅行

途上にある記者が、受けたる印象を以下の如く記してゐることでも判る。『ラビニヤ公園は、世界に於ける最も興味深き、階調的な、引着力ある、建築上の總フレスコの音樂的企圖である』と。この新なる施設の下にメトロポリタン的の効果ある處の非凡なオペラ的な聲樂上の才能者を仲間に入れてゐる上に、シカゴ・シムホニー・オウケストラからの器樂家より成る五十人のオウケストラを有してゐる。そのオペラ的な演奏會のプログラムは、季節から季節を重ねるに從がつて、更に印象的となり更に大望心を現してゐる。故に此地は音樂愛好家にとつて一の出席する習慣ともなるに到つてゐる。

「行進曲の王」と稱せらるゝジョン・フヰリップ・スゥザは、一八九二年、多年彼れの名を冠してゐるバンドを市俄古市に於て組織した。これは世界のあらゆる方面に行き亘つた彼の傑作 Stars and Stripes Forever が世に現るゝ前五年の事であつた。スウザは音樂會に於ける最も著しい人物たるに止らず、彼れが多藝家たるとは彼れがオペラを現はすに歌詞も音樂も兩方ともに書いてゐるとによつても判る。彼れは大湖海軍練習所に於ける海員バンド（千八百名の器樂家を有する）の指導者であつた。此バンドは確に世界に於ける最大のバンドたるは疑ない。

確に市俄古市の音樂界の進歩に於ける最大要素は、シカゴ・シムフォニー・オウケストラである。最高級の器樂を進歩せしむるに興味を抱く人々によつて、シカゴに於て組織されてある。オウケストラ協會は一八九〇年十二月十六日に具體的に形を備ふるに至つた。多年指揮者として有名なセオドル・トーマスが此新なる組織を指導す可く從事した。其頃の名稱はシカゴ・オウケストラであつた。準備は一八九一年に完全になり、同年の十月十六日金曜日午後に、最初の公開演習會が開かれた。世界コロンビヤ大博覽會に、音樂の必要なる處より、此オウケストラの組織がなつた。そしてオウケストラ・ホールが落成する迄、アウディトリアムで音樂會を開いてゐた。その最初の音樂會は一九〇年十二月十四日金曜日夕であつた。セ

オドルトーマスは一九〇五年一月四日に死んだ。そして、其時迄シカゴ・オウケストラと稱して居たのが其時以來セオドル・トーマス・オウケストラと稱するに至つてゐる。彼れの死後フレデリック・ストックがコンダクターとなつた。一九一三年二月廿四日、更に其名稱がシカゴ・シムフォニー・オウケストラと變更された。オウケストラの部員名簿には、第一流の演奏家七十五名の姓名が見えてゐる。本據所は米國最大な音樂演奏の中心地の一つとして認められてゐるオウケストラ・ホールである。一九〇二年此オウケストラの指導者等は一般の寄附によつて、オウケストラ・ホールを建てる目的で六十萬弗の建築基金を起した。爾來卅萬弗は拂ひ込まれてゐる。又他に貸し附けたる地代や、建物の貸附代等は、オウケストラの費用その他の必要なる支出に對して、補助金として備へられてある。

シカゴ・シムフォニー・オウケストラは、各年の音樂季節には、規則正しく夕の演奏會廿八回、晝の演奏會廿八回宛を開いた。其最も近來の藝術的冒險は木曜日の『ポップ』演奏會である。これ疑もなく音樂上に於ける世界最大の賣買契約である。春期には遠く音樂旅行を爲し、オウケストラ團の中、最も開拓的才能に富むものとして推稱せられてゐる。又友人等の恩惠によつて、シムフォニー・オウケストラは、廿年間このオウケストラと關係を保ち來つた處の演奏家に對し、恩給金を支拂ふ可く恩給基金を設くることを得た。而してオウケストラ自らも、從來何等部員自らの金をもつて支へて來たのでなく、一般の援助によつて推持して來たものである。而してかゝる恩給制度は、數あるオウケストラ團の中にあつて無比なるものである。

グランド・オペラは、本世紀間歐洲がその中心地であつた。伊太利、佛蘭西、獨逸の各大都市いやしくも都市の階級に入り得る程な都市であるならば、其市はオペラ場のみでなく、オペラ自らをもつて居らねばならぬ程である。オペラは總合藝術の最高なるもの、民衆の歡喜の向ふ所であるが故に、若しも政府が財政上の援助をしないならば

都市自らがこれをする。合衆國のグランド・オペラは、大抵個人の企業である。一個人が自らこれを支へてをるのでないならば、欠損を、公共心ある保証人がこれを支へてゐるのである。ニューオルレアンスは、グランド・オペラの永久の建物として、紐育に先んじてゐる。カリフォルニヤ沿岸のサンフランシスコでは多産の點に於て市加古、紐育兩者を凌駕してゐる。チヴォリイの全盛時代には、評準的の目錄をもつて一杯であつたのみでなく、大膽に新奇なるものを振起してゐた。併しニュー・ヨルクは、眞に正しき行き方にのつとつて、長い間グランド・オペラをやつて來た點に於て、サンフランシスコの全盛に對向し得る。その俳優の役割や作物の點に於て、建築の上に於て凌駕することの出來ぬパリのグランド・オペラ。ヴヰエンナの麗な帝室オペラ。ペトログラードの帝室オペラ（バレーの中心たる）。高尚なる古き建物であるミランのサンスカラ。ナポリのサン・カーロス又忘る可らざるプエノス・アイレスの美はしきコロン座。メキシコのメジオナーレの如き有名なる歐洲その他の歌劇場を凌駕してゐる。

唯一箇ブラジルのプエノス・アイレスを除いては、米國は音樂に對して他の諸文明國よりも更に多く音樂に對して支拂つてゐる。而してこゝに割振るグランド・オペラは、世界のどの國も競爭することの出來ぬ程のものである。ボストン・フヰラデルファイヤーには、美麗なオペラ劇場があるがそのオペラの興行は短くして間歇的である。市加古市は、多年グランド・オペラが、市を訪ふて開演することに於て、東部、南部によるところが多かつた。市加古市に於て聞くを得た抑も最初のオペラは、一八五〇年一月廿七日、ライス座にてエリス・プリエンテを花形にしてラ・ゾンナムブウラを開演したのが之れである。このオペラのあつた後、音樂季節には毎回種々のオペラが催され、稀に秀れたものが開演された。而して『皇后のオペラ』が、前にカロリン・リッテングス・ベルナルド・アンナ・ルイス・カリー。又はクラー・ルイス・ケロッグ等が寄與した處の總明な印象深き藝術に對し、健康によろしき程よき食欲を起させた。音

樂に於ける中心としての市加古の最初の大望心ある冒險は、クロスビーのオペラ・ハウスである。このハウスは中央音樂館の威儀堂々たる後繼者である。古い博覽會の建物が、一八八四年に於けるシカゴ・オペラ祭に適用し得べく變更された時、大に成功した、而して、この成功が、オペラに對する新なる興味を喚起せしめ、常設のオペラ劇場を市に設ける可く決心せしめ、而してアウディトリアムが建設せられた。これは二重の目的に使用さるる工夫—藝術と商業のために廣大に、普通以上に構造せられた。四千二百名の坐席を有し、嚴重なる防火設備があり米國に於ける最初の動水舞臺であり、その他數種の新しい裝置がしてある。このアウディトリアムは廣濶にも拘らず、各等とも看客の視力の完全に屆くことは極めてよく工夫せられてゐる。一八八九年十二月十日、モウリス・グラウ會社によつて開かれた、アデリナ・パッチィをヂユーリエッタとして。開演期は最初四週間連續した。この後毎年オペラが開かれ、開演期間は二週間から三週間樣々である。併し十五年後には、開演さることも稀になり、期間に於ても短かくなつた。此期間或記憶す可き記錄が遺された。コンリイド・オペラの一の有名なる週間には、八回の實演に對し收入高七萬八千弗に達した（坐席の最高料三弗五十仙）。このアウディトリアムは種々のことに役立ち、大慈善舞踏會やデモクラヂック・ヴァデビイル（台詞に童謠を交へし喜劇）レバブリカン國民會議から、メロドラマや、觀せ物なども使用さるゝ、樣凡てに適應して行つた。總理ベンヂャミン・ハーリソンは、此會館が竣成する前にこれに命名した。一九〇三年、『アメリカ』と題する觀せ物を出したがこれがそれ以前の凡ての觀せ物のレコードを突破して見物人百萬人收入百萬弗といふ驚く可きレコードである。

◇　◇　◇



「住宅」

住宅研究（七）

會員　建築工學士　葛野壯一郎

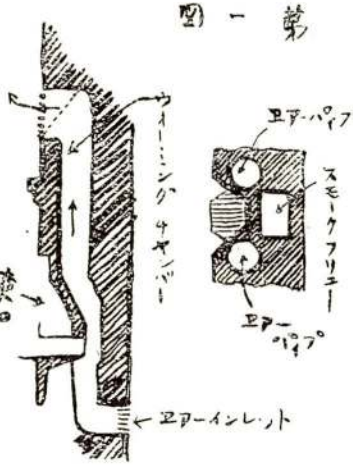
第三　暖房

居室が冬の寒い時季でも、尙春の様な温度を保つといふ事は、必要な事でもあり且つ愉快な事である。一般に和風住居では、暖房裝置に就きて何等考へられて居らない。たゞ何んな嚴寒でも小いさな火鉢で間に合せるのであるから、室其れ自身を出來るだけ南の日當りのよい部分に置かなければならぬ事となるので、此點からも日當のよいといふ事が第一の必要條件として數へられる。洋式住居にしても完全な暖房裝置を有つたものは甚だ鮮ないのであるが、是れからのものは左樣云つた部分に就ても、充分な設備を有つ事が必要條件たらしむる。

1　オープングレーツ

壁附の暖爐である。是れは小さな室即ち疊敷にして十疊内外位の大さの室ならば、可成り有効に且つ愉快な方法では有るが、熱の八割迄は煙突から外へ逃げて仕舞ふので、燃料から云へば非常に不經濟至極のものである。幾分か此熱の著しい損失をセーヴして、出來るだけ室を暖く保たせるための種々の考案がある。第一圖に示すものは其一例で煙道即ちスモークフリューの兩脇にエアパイプを設けて、直接外壁にインレットを設け煙道で温められた新鮮な空氣を室内に送る裝置である。此方法の如きは構造は大分面倒ではあるが可成り有効なものと認められて居る。焚口の形狀、煙の吸込口の裝置、グレートの色々な考案があつて、務めて有効ならしむる事に努力して居るのであるが、一般に我邦の洋風住宅では餘り試みられては居らないのである。

第一圖



2 クローヅ、ストーブス

置据のストーブである。是れはオープングレートに比して著しく經濟ではあるが、形の上に於ても、又室内の空氣を乾かし過ぎて不愉快な感を生ずるのみならず、場合によると多量の炭酸瓦斯を發生して衛生的で無いといふが如き缺點をも有して居る。是れにも壁に取付ける種類のもの、其他色々の意匠や考案はあるが、我邦では至極單純な、且つ到底お座敷には置けない種類のもののみである。英國は、現在でも住居に就て最多く暖房用としてはオープングレート或はクローズストーヴの類を使つて居る邦であるが、是等の燃料に就ては日々の生活に最煙の多い不完全な下等石炭を使用するよりは寧ろ無煙炭を使用する方が、一層經

濟且つ愉快だと云ふ點から、温室用として盛んに無煙炭を使用する傾向が近頃著しいのである。

石炭の產出に就ては甚だ貧弱である我邦の如きに於ては、現在では、餘り問題にはならないが、若し住宅として今より遙かに多量の石炭を使用する樣な事になると、さなきだに燃料節約のヤカマシイ時代であるから、是れが經濟的使用法は充分研究されなければならぬ事だらうと思はるゝのである。

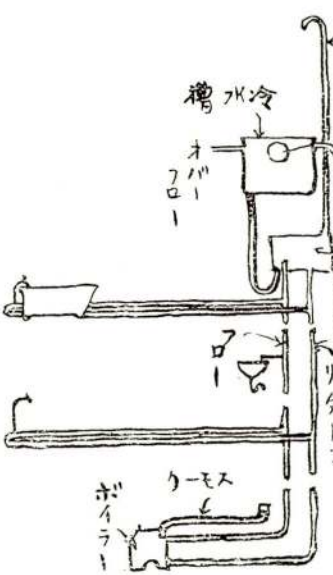
3 温水

住宅用として最安全で且つ經濟な暖房の一つは低壓温水裝置である。パイプが蒸氣裝置に比して太くなるといふ缺點はあるが、危險の殆んど無い事取扱ひの簡單なる事、各種の燃料を使用し得る事等について優つて居る。近年米國から色々手輕な温水暖房用ボイラーの輸入あり、小住宅にも手輕に應用せらるゝ樣になつて居るから追々各方面に利用せらるゝ事と思はれる。

4 瓦斯及電氣

瓦斯暖爐は相當有効で、寢室其他、連續して使

第二圖



用せられない種類の室には至極便利であるが是れには必ずフリューを裝置する必要がある。我邦では一般にフリューは設けず、たゞ必要のところに置いただけであるが、それでは、餘り衛生的のも

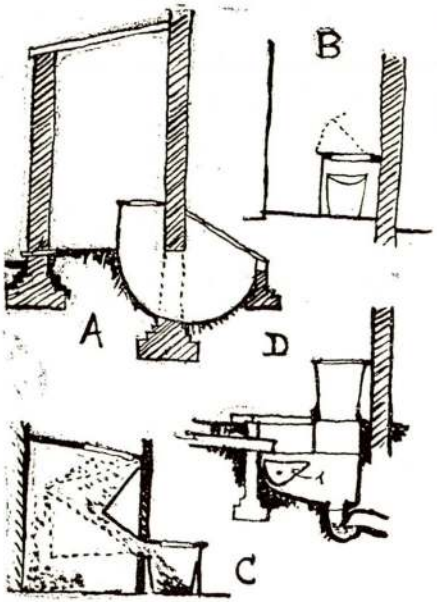
のではない。

電氣暖爐も、是亦今日では最有効のものとして認められては居るが、電力の安價に得られないところでは割合に不經濟たるを免れない。

5 給湯裝置

暖房に緣の近い事柄であるから、序に記すとする。

第三圖



るが、住居の必要な部分には、何處でも自由に湯が得らるゝ事も望ましい事である。原則としては溫水煖房と同樣で、第二圖に示すが如く手洗或は浴槽と、隨所にフロー・パイプから供給し、リターンに連結するので、最高の位置に溫冷兩方の水槽を置き、溫水槽には蒸氣の逃け口、冷水槽には給水口即ちフイーデング・パイプが自働的に水を補給するのである。是れにもタンクシステムとシリンダーシステムの別がある。第二圖に示すものはタンクシステムである。また瀘罐からの剩餘の蒸氣を利用して、蒸氣管をコイルとし、蒸氣によりて溫水を造り配湯する事もある。

第四 下水

糞尿と汚水の始末を完備する事は、住宅として衛生上最大切な事である。都市に在つても、完全なシユーエーヂを有たない我邦では、止むを得ず不潔な在來の便溜式で滿足しなければならないのであるから、況んや何等斯の方面の施設なき郊外

に出ると、層一層の不便がある。

1 プリヴイ及びアースクローゼット

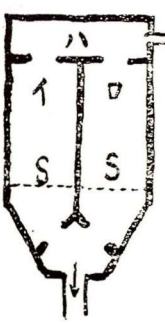
西洋でも糞溜式が全然ない譯では無い。第三圖に示すものは、最舊式の溜式のもので、吾々の住家の方法とは兄弟分に屬する種類のものである。是れでは一向感心しないのであるが、Bはアースクローゼットと稱する種類のもので、下に受器を置き土砂を混入して日々掃除の出來る樣にしたものである。CはBの更らに進歩したもので、背部に漏斗形の篩を置き、それに釜の石炭の燃滓を置くと灰だけが篩を通して、簡單な裝置で一回毎に用便後に振りかゝるのである。併し是れとても非常に便利な裝置とは云ひ兼ぬる。

2 水運式

即ちウォーターカーリィドシステムと稱する方法で、第三圖Dに示すが如く、浴槽だの流しから來る汚水を利用して、(イ)なる受器に受け、それが一杯になると、自働的に回轉して汚物を流し出すといふ裝置で、臭氣の逆流のないよう、排出口にトラップを附して居る。

3 水洗式

第四圖



是れは普通のウオタークローセットである。最清潔で完備した種類のものではあるが、上水道の設備の無いところでは特別の經費を要する許りでなく、汚水を直ちに下水に放流する事の出來ない我邦では、特別の淨化裝置が必要である。淨化には藥品處理と自然淨化の二種あり、現今自然淨化が大分用ゐられて居るが、是れは嫌氣菌及好氣菌即ちアンエロビックとエロビックの二種の菌による淨化である。郊外住宅用

としては第四圖に示すような小いさな沈澱槽を設けるのが手輕な方法だとされて居る。則ち糞尿を洗流す汚水が(ハ)から(イ)(ロ)何れかの沈澱槽に入り、Sのスクリーンによつて、其固形物のみがこゝで沈澱し、水分は是を耕作地に放流するのである。時には沈澱を促進するために、明礬鐵を使用する事もある。(イ)(ロ)と沈澱槽を二つに區分したのは、交互に使用して掃除に便ずる爲めである。

4 普通下水

即ち湯殿流し其他雨水等の處分である。普通下水の要項としては、

(イ)出來るだけ早く流出する事

である。一秒四尺五寸以上を以て最安全な速度として居るが、併し雨水のみならば、危險も少くない譯であるから二尺五寸乃至三尺位でよいといふ事である。內徑四吋乃至九吋位の土管で、四十分の一から九十分の一位までの傾斜が必要とされて居る。

(ロ)施工上の注意

が大切である。折角完全に出來て居る設計も、管の敷設其他施工が惡いために、意外の缺點の生ずる事は珍らしく無いのである。

(ハ)適當な換氣裝置

が必要である。下水管內には有害な瓦斯や臭氣の發生のため、適當に換氣して其等の瓦斯の逆襲に供ふる事を要するのである。

(ニ)湯殿等の排水利用

湯殿や手洗場から流し出す汚水で、自働的に下水に洗滌せしめ、出來るだけ清潔を保つのである。

(ホ)雨水の流出口

屋根からする雨水の流出口にはトラップを設け、下水管內の惡臭や瓦斯抔が屋內に逆上しない事の設備を必要とするのである。(未完)

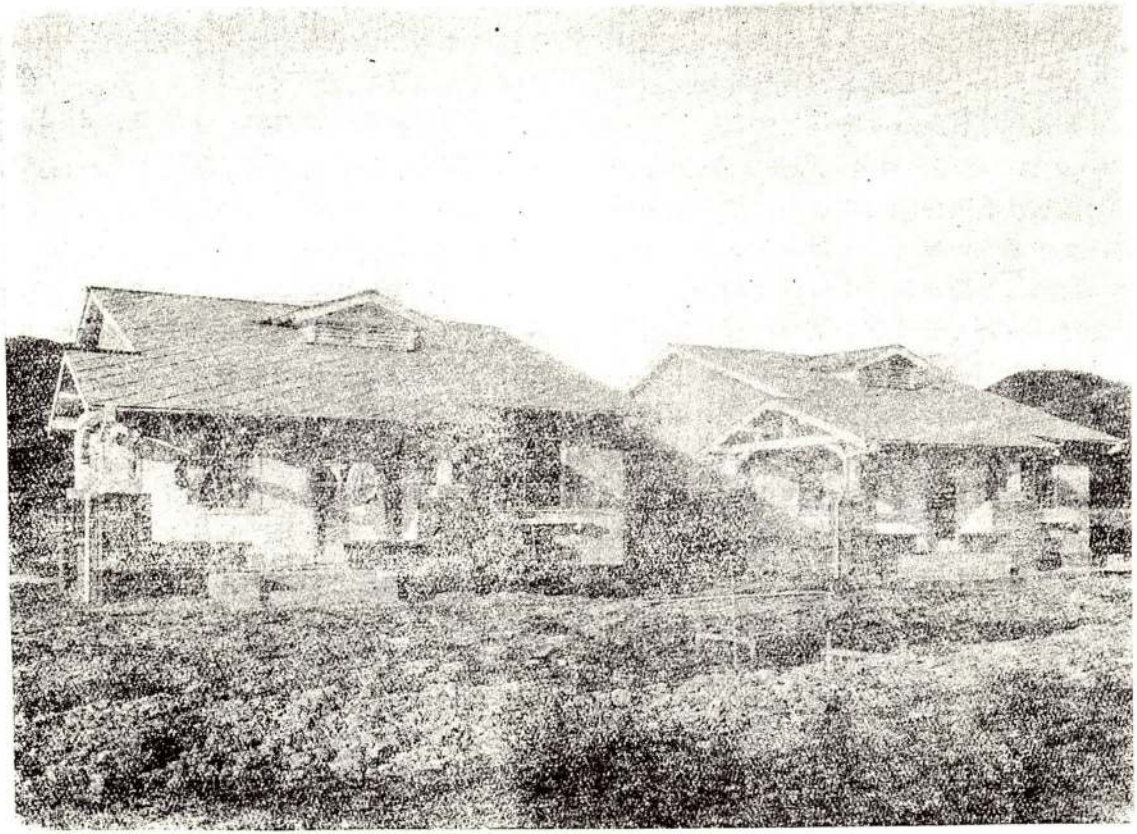
山科郷のバンガロー建築

郊郵生

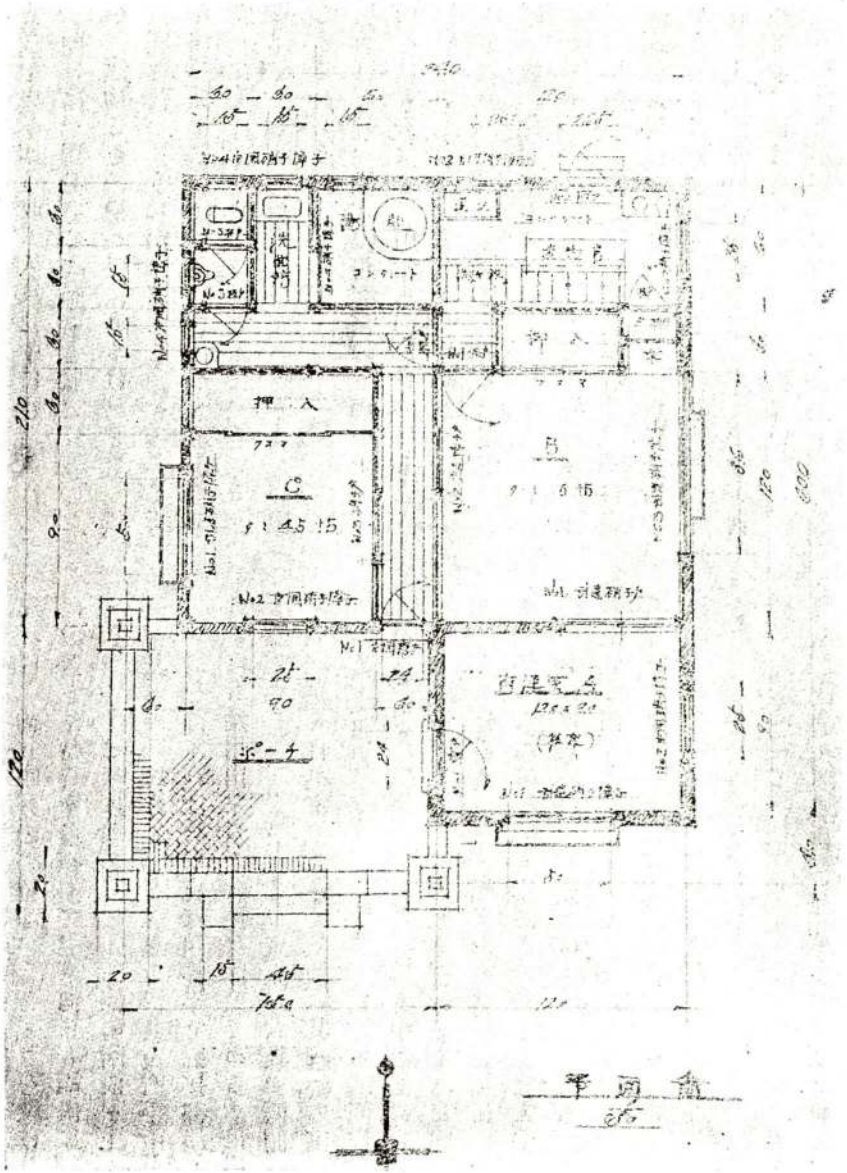
院線山科驛の直下、逢阪山一脈の緑翠を背景に南に向つて展開せる一大平野は、山科、醍醐、宇治の各郷を擁し、其かみ、豊公觀櫻の豪奢と、所謂由良さんを以てしるき山科閑居と、そして、今も尚ほ茶所の本場を以て著聞せる斯の地一帶、くさ〴〵な由緒を有てる郷土なることは、人も識る通りである。其山科の聚落を少しく南へ距ると・田圃の一大展開せる中に、轟々中空を抜いて、四時煙を吐ける暗白色成す二基の煙突が眼に觸れるであらう。そして、斯の煙突を中心?に、其處此處の田圃の中、まだ地均しの鋤跡も生々しき裡に、灰白色せるモルタル塗のバンガローと、輕快な洋館と、そして、暗朱色の屋根瓦、環境の翠苔に榮へる英風コッテージの點在して、宛然、Garden City としての新開拓地氣分が、折柄の秋光と共に奈何にも其鮮しさを覺へしめ、當に維れ、太洋の彼方に在る郷土を此處に持ち來つたかの感臭きを得ない。是ぞ、頃來、所謂「京絹」の名に賣り出したる日本絹布會社の職員達の社宅である。

由來、同社の現專務取締役名取和作氏は、非常に進歩的な思想を有つてゐる人とかで、會社の事業其ものが既に新事業として嘱目されてゐるように見受けられるが、隨つて、其經營振りも種々な方面に新しき試みある中、女工手敎育の機關として、高等女學校令に據る處の、純然たる女學校を設けある如き其一つである。聞く處に依れば、女工手を雇ひ入るに、件の高等女學校へ收容する關係上、高等小學校卒業を條件と爲してゐるとか。現に、大都會の校舍をも凌がむとするような、堂々たる校舍が、アノ新開地としての園圃氣鮮々しき裡に、奈何にも心地佳さを示してゐる。其他煉瓦造三階建の共同住宅(アパートメント)も、奈何にも贅澤そうに、

山科郷に於けるバンガロー聚落の一つ



上記パンフロー平面圖

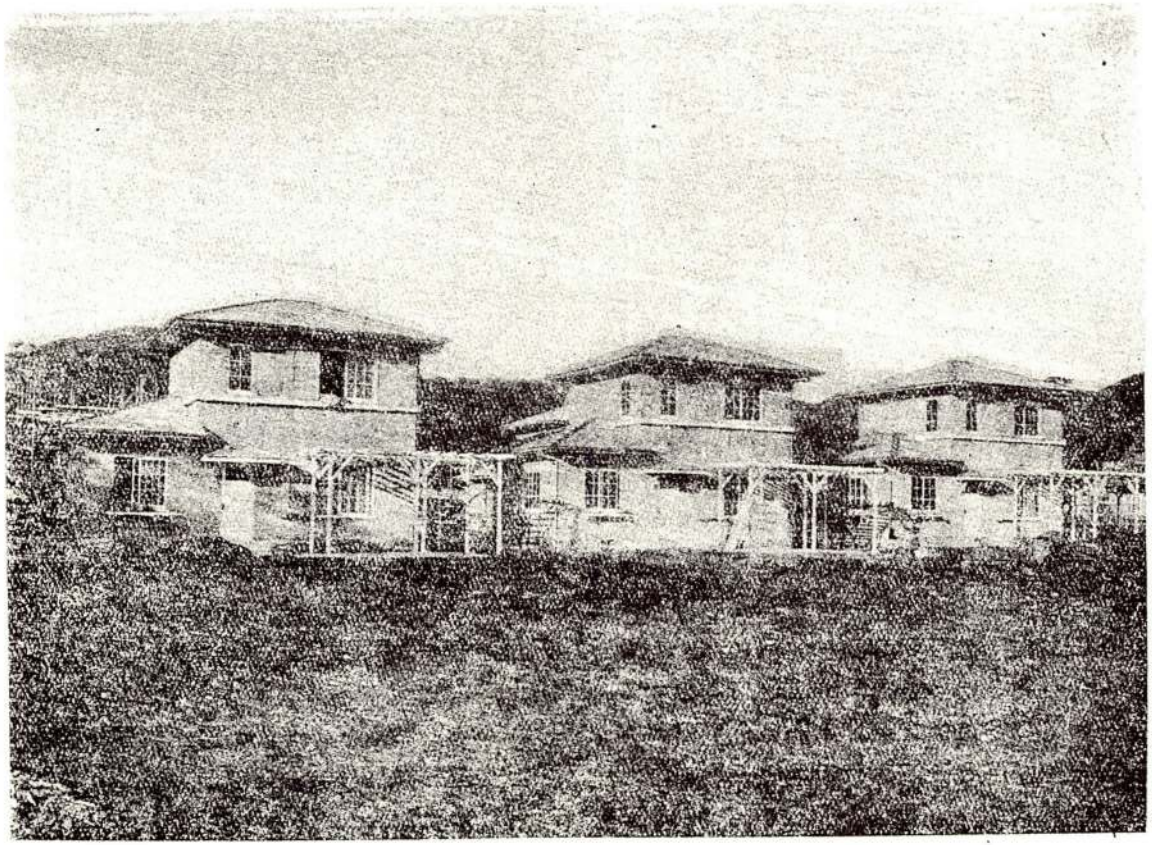


自然の背景を思ひ切り取り入れた中に建造されつゝある。聞けば、獨身者と夫婦者を收容するのだそうなが、建物こそ一構へではあるけれども、獨立に一家庭を營むように出來てゐる、とのことである。今は、種々な建物が造營されつゝあるので是が大成した曉には、此處に、立派な、そして、恐らく我邦としては創始的な一大Gardn Cityが現出することであらう。

住宅の改良だの、樣式の研究だのと騒いでゐる中に、何んにも云はず、山紫水明な京の東郊に斯歴なものが、ずん〳〵出來上りつゝある、といふ事は、何んだか、一種の皮肉だ。而も、住宅改良と云へば、純洋式則猿の人眞似で、日本人としての個性も何もあつたものでない處の、謂はゆ、上つ滑べりな模倣しか知らない急進論者や、純日本式と純洋式を奈何に調和せむかと惱める焦燥論者抔の議論から一足ゐ先きへ失敬して、我過渡時代を巧妙に取り入れた件の建築が出來たのは、誰が何んと云つても、私は之を稱へざるを得ない。

先づ Bangrow から云へば、一戸二十二坪の建坪に、約其四分の一位な Veranda を設けたのは、著しく特異を發揮して、奈何にも洒快な氣分をきっちりと括り締めてゐる。表の階段を上ると直ぐ其處の一廊が Verasnda で、其の右手中央の Door を排すれば、其處は四疊半で應接部屋にも書齋にも兼用出來得る輕便な洋室である。母屋は中央を Cooidor を設けて、東手は六疊、西側は三疊半の就も日本室である。そして、其八疊の室には床もあり、戸棚もある。西手の三疊は、二間程な押入付きで、子供部屋にもなれば、女中部屋にもなる幾等急進主義的な住居改善を實行してみた處で、まだ〳〵疊ときっぱり、絶緣出來得ない現在に於ては、殊に、依然傳統的な生活者の多くを友人や親戚抔に有つてゐる現在に於ては、どうしても此の疊の便宜と西洋趣味とを容易く利用出來得る樣にすることこそ、まあー、現代住宅改善の覗い處であらう。斯の意味に於て、私は、件の洋風設計に疊をも疎外されなかつた事を、大層嬉しく思ふた。次に、斯の圖に見る一種の輕便洋館(?)は、表から直きに石段を二三階上ると直ぐ Door で、其取つ付きが階

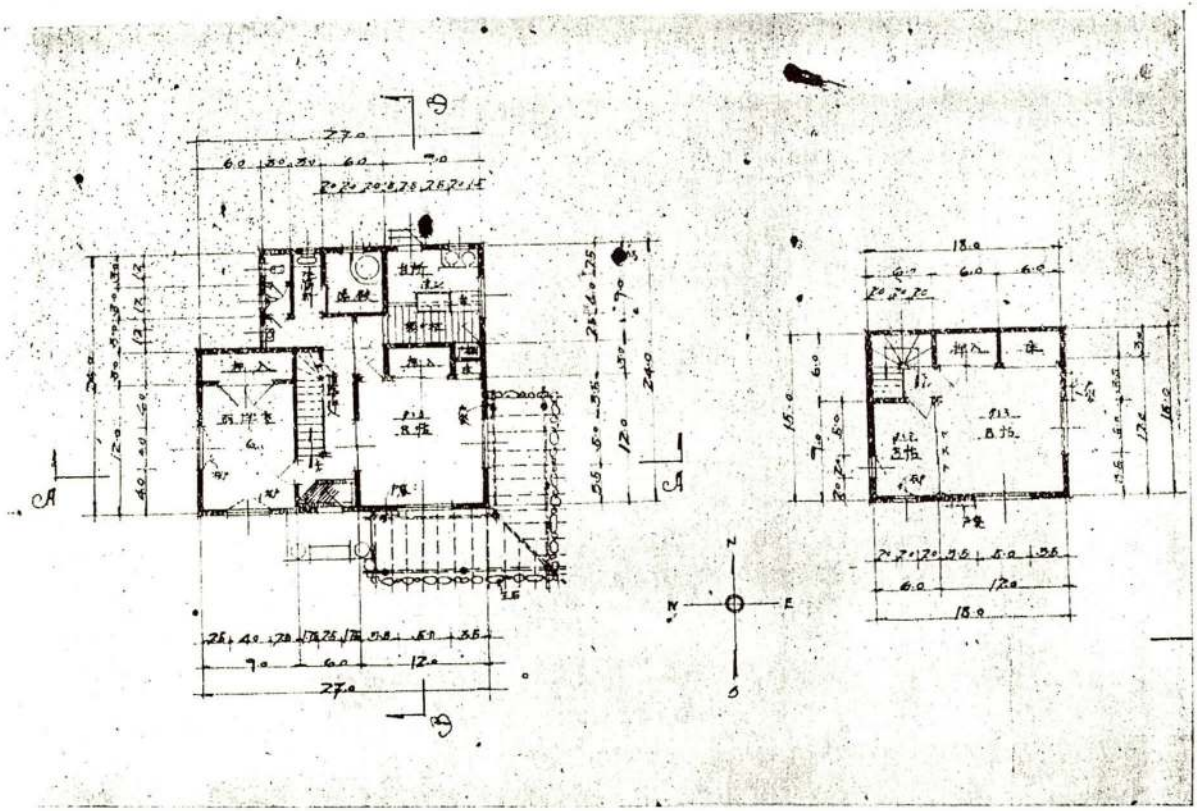
山科鄕に於ける輕便洋館(?)聚落の一部



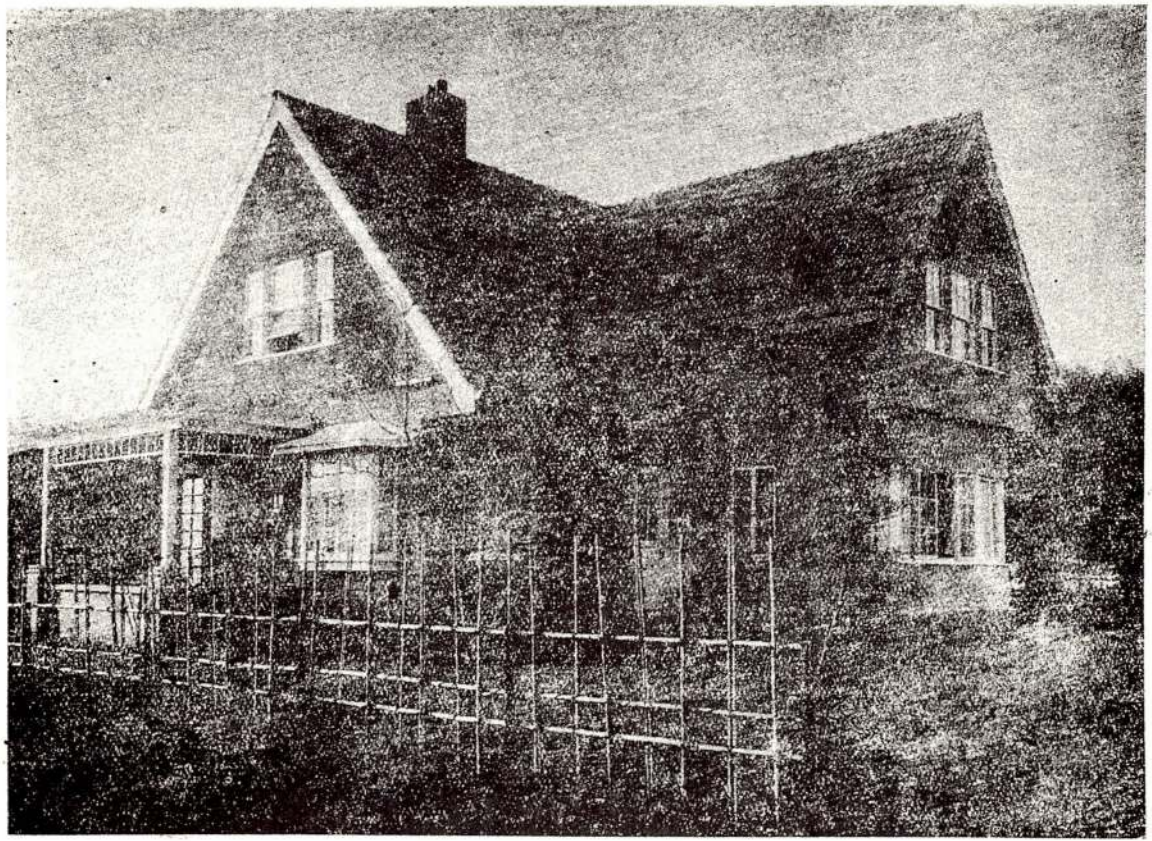
段になつて、階段脇の廊下を振り分けに、其左手が六疊程な洋式の應接部屋、斯の部屋は、南、西の二面が硝子窓で北隅は隣室へでも通ずるDoorかと思はせ振りを見せて、其實木理も鮮かな觀音開きの押入戸とは考へたり、と思ふた。右手の八疊は床と押入の付いた純日本式で、只硝子窓にカーデンが應用されてあるのは、此處にも、日本部屋の樣式が動きつゝある先驅とでも見得られる。二階も外と見は、硝子窓とカーデンの具合ひに勿論西洋室だと思はせるが、此處も矢張り三疊と八疊の日本部屋である。斯の建物全體として、奈何に、鮮し味のある引締つた處の、何となく小氣味佳い感を與へる裡に、生々した或ものを覺へしむるのであるが、斯の綜合美を一層諧調付けるが如く思はせるのは、階下日本部屋即ち右半の窓先きから直徑三尺許を、ずつと建物の東側面へ引廻した混凝土の歩道で、其上へ白ペンキ塗りの棧を設らへ、行く〳〵は藤の棚を設けて、夏季杯には、其處に籐椅子でも持ち出し、或は、月明の夜杯に語り更ける、といふ一種のTerraceとでも云ふような設備である。

之等の事を外にし、以上の建物凡てを通じて、特色の一つとでも云ふべきものは、其廣袤（スペース）を奈何にも巧みに活用されたことである。今此處に一々取り立てゝ述ぶる遑はないが、其利用の特色は、洗濯式な便所に於て、洗面所と手洗所に於て、乃至は、湯殿と臺所に於て、よく其一端を窺ひ得られる。アノ比較的少面積に於て、恰度太洋通ひの船室杯で見るがように、小狹い處を、何も彼も世帶を備へて、其實左して不便を感じない處に、設計者の苦心の跡が窺はれる。慾を云へば、暖房設備がないようであるが、是は、今の處、まだ建設中のもので、何にしても、アレ程思ひ切つた施設をする會社の事であるから、中央の汽罐室からのSteamでも送るか、或は、中央發電所から電氣でも供給するか、何れは何かの施設があるであらう。併し、現在とても、暖房設備は、自然の熱度を利用してゐる、扨れは、何れの家も南面してゐるから、そして、散在式な建物であるから、冬季はぽか〳〵と暖く、夏季は東からでも西からでも涼風

上記輕便洋館の平面圖

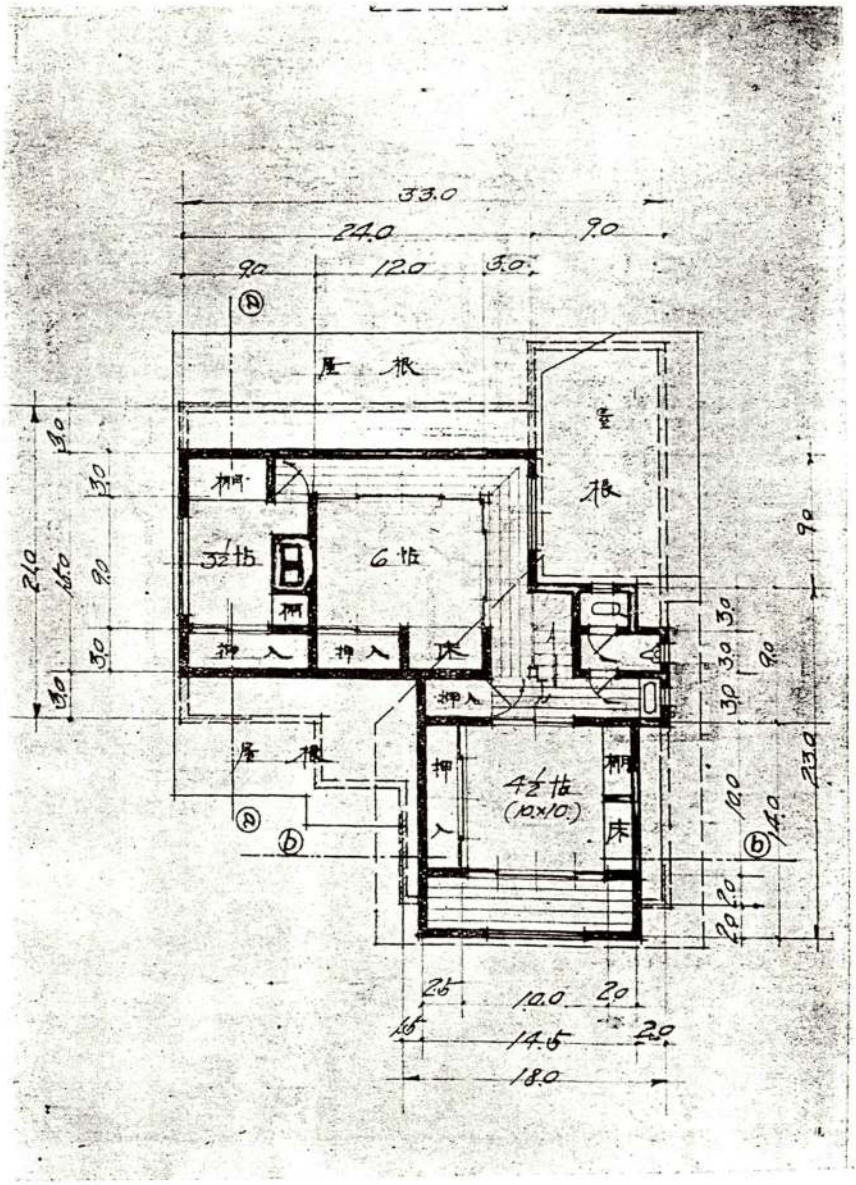


山科郷に於ける英吉利風コッテージの一つ



同階上平面圖

同階下平面圖


33.0
24.0
9.0
9.0
12.0
3.0
屋根
屋根
6帖
3½帖
4½帖
(10×10)
押入
押入
床
押入
押入
床
屋根
26
10.0
2.0
1.6
14.5
2.0
18.0

を思ひ切り取り入れられる。彼様にして出來たそれ等の建築費は、大概百三十五圓坪とは、割合に廉く付いたものである。

私は構造の一々に就て批評するの資格はない、そして、此の上私の理想とでもいふべきものを附け加へる必要もない、唯、終りに、外から眺めた私共の非躰驗な理窟よりも、現在其處に住むである人達即ち現在其建物を躰驗した人達のそれに對する批判を聽くことは、其實生活として何よりも雄辯に、何よりも肯綮に當つてゐるものと信ずる。仍で、私の種々な問に對して、其居住者の話を概記すると、先づざっと斯うである。曰く『住心地は大層宜うムいます。間取りの具合が、只今の處三四人の家族で丁度よいと思ひます。從來の社宅のように、何戸か棟續きで、ぎっしり建て詰つてゐるのは、何かに付け却つて不便でムいますが、此の建築位にお隣りとの間隔があれば結構でムいます。陽當りのよいことは何よりでムいますし、便所がさっと水で流されるようになつてゐるのも大層氣持ちが宜うムいます。此の洋風の應接部屋は、氣が向いたら家内中が其處に腰を掛けて談話室にも成りますし、やつぱし寢轉びたければ日本間の方に行けますから、腰を掛けることは、私共として其方がよいのですが、鄉里杯から老人達の來ましたときは、どうしても日本間でなくば落付かないと申しますから、斯ういふ場合にも便宜でムいます。何しろ此建物の構造は御見掛けのように全然洋風と成つて居りますから、人樣の趣味次第で全部洋式生活も出來ますし、又其儘日本趣味をも味はれますから、何にしても、只今の私共としては、大層好都合でムいます。慾を申しまするとと、今一室欲しいのと、臺所をも少し廣げて頂いたらと思ひますが、私共社員としての住家にも勿論それ〳〵制限ある事ですから、それは單に希望だけな事で、只今の處は是で何も不便を感じません。手前共も、斯うやつて基礎が出來た以上は是から追々と生活の改善とやらを遣らうと思ひますハ、、、、。』

空晴れの紺青な空らや、絢紫燦紅に彩られる環境裡に、斯の挿繪で覽るような一聚落の浮き出す境地を想へ、そして、幸福そうに、伸んびりした面の人達が、「自然」の懷ろに悠揚其生を享樂するの奈何に幸ちなるかを懷へ、斯くて、其一幅の實生活を展ぜられつゝあるのを覽むとする人達は、行程東に幾哩、宇治と山科と醍醐の古典境、斯の澁渕たる小世界に往け。（畢）



〔講壇〕

煉瓦に就て（中）

工學博士　大熊喜邦

第一は現在の寸法から大きくしたら何うかと云ふことですが、現在の寸法よりも大きくすると云ふことは煉瓦を燒く上から見て燒の度が不充分になり、また取扱が大きくなればなるほど不便になる斯う云ふ不利益があるので今までの煉瓦よりも大きくすることは宜しくないと云ふことになる、第二は現在の煉瓦の寸法の幅と云ふものは御承知の通り標準通りに出來て三寸六分であるが、此の三寸六分と云ふ幅は日本の職工手傳、殊に女人夫が取扱ふ場合には少しく廣過ぎる觀がある、尤も現在に於て女が取扱つて大した不便がないぢやないかと云ふ反問が出るか知りませぬが、現在は今云つた通り三寸六分とは云ひながら夫れより小さく出來て居るから、若し標準の寸法通り三寸六分に拵へるとしたら少しく廣過ぎると云ふことになるのだから、煉瓦の幅と云ふものは現在の三寸六分

よりは狭くする方が利益である、第三には現在の煉瓦の厚さ二寸と云ふことですが、是れは煉瓦を焼くと云ふ方面から考へて丁度適當な寸法である之れを薄くすると煉瓦を焼く場合に曲りが出る、厚くすると焼の度が不充分になり、また割れを生じて來るから、是れは既成品の結果から明かにさう云ふことが認められる、それからもう一ツ考へねばならぬことは煉瓦の寸法を決めるにメートル法の實施を眼前に見て、現在の日本の尺度を用ゐると云ふことはたゞ徒らに復雜になるばかりであるから、何うしてもメートル法に依つて寸法に端數を生じないやうにせねばならぬことである、メートル法に依つて端數を造らぬやうにするが將來の利益であり、且便利であると云ふことが確に云はれるのである。

以上述べた四ケ條を目安として煉瓦の寸法の研究に一歩を進めて、現在の寸法をメートル法に換算して幾分なりとも幅を縮め、取扱を能くするといふ方針に依つて端數を切棄て幅十仙とすることが最も適當であるとし、長さを丁度二十一仙にして厚さは只今の條件に依つて六仙といふのが都合が宜いとしたが、斯の如く各方面から見て最も都合の宜い寸法を取つて、聯合調査會では之れを煉瓦の基本として二十一仙、十仙、六仙と決定しました、外國の例に依つて見ても煉瓦の大きさが變更する時には大抵小さく〳〵變更される、要するに取扱に宜く、焼くに便利といふ点からだらうと思ふが聯合調査會でも今云つた通り二十一仙、十仙六仙と決定した次第である、それからもう一ツ寸法に就て述べたいのは現在の煉瓦の製造法では總てのものを全く同一の寸法に焼くと云ふことは不可能である、是れがために煉瓦を造られる方には確定した寸法に出來るだけ近いものを製造すると云ふ理解の下に今云つた寸法が決まつたのであるが、此度は品等は何うする、何うして之れを決めたかと云ふと、煉瓦製造の現在の狀況から見ると特種の煉瓦は別として品等を設け或は階級を造ると云ふことは同じ製法の下では豫期して居らぬ、實際を云へば總て同じ物を造ると云ふことに製造業者は努力して居る、初めから種々な種類の煉瓦

種々な焼の度或は種々な品等の煉瓦を造ることを考へて居るのでない、たゞ焼の度の關係から自然其所に煉瓦の品等が生れて來るのであつて、此の品等なるものは何うであるかと云ふと、皆さん御承知の通り今日に於ては各製造業者毎に此の名稱が異つて居る、非常に復雜した狀態になつて居る或工場では二十九種類に分けて居り或工場では十種類に分けて居つて殆んど一定の類別法がないと云ふ有樣である、斯る狀態であるから煉瓦の品等上何とか之れを統一して決めねばならぬ、約り煉瓦の品等に對して大本教ぢやないが立替へをしなければならぬ、然らば煉瓦の品等に對して實際上何う云ふ風に分けるが便利かと云ふことを考へて行くと、之れには種々あつて、先づ今日の煉瓦の使ひ方から一ツ考へねば可かぬ、今日は以前とは異つて大分煉瓦の用法が變つて居る、卽ち以前は建物全部の煉瓦を色揃ひにすると云ふことが隨分あつたが、今日では寧ろ色合を態々混ぜて使ふと云ふこともある、又態々煉瓦の粗末な面を外にして使ふと云ふ場合もある、或は又煉瓦を露出して使ふと云ふことが全然なくなつて來て居る、忠に煉瓦を使つて外へ何か張ると云ふやうな傾向になつて居つて煉瓦の用法が變つて居るから昔のやうに細かく煉瓦を分けて使ふ必要がない、此点から見ても煉瓦の品等は茲にある表よりも最う少し簡單にすることが出來るのである、更に斯の表に依つて御覽（表を指して）になると我々が最も多く使つて居る煉瓦、言葉を換ふれば最も多く製造される煉瓦と云ふものは斯の表の上半分に揭げられて居つて、斯の下にあるのは寧ろ除外約り等外に入れて差支へないものであるが、煉瓦は今お話したやうに製造中の種々な事情から形に多少の狂ひを生じたり、或は取扱上多少の瑾を造つたりすることもあり、又焼いて居る中にヒビが出たり、割れが出たり、崩れが出たり或は焼過ぎて非常に縮まると云ふ欠点が出來るので、以上申した所の品所を考慮して其の程度に於て各之れを一等品、二等品と云ふ風に二ツに區別したのである、さうして斯の如き分類に依つてお手許に廻してある通り上焼、並焼、等外の三ツに大別して、更に上焼と並

焼と各一、二等に區別して五種類の品等が決まつた譯であるが、茲に一言せねばならぬのは今迄煉瓦と云ふものは普通『燒過ぎ』と云ふ言葉を使つて居つたけれども、此の燒過ぎと云ふとは並燒と云ふ言葉に比べると甚だ面白くない文字であるから、此際之れを改めて並燒に對して在來の燒過ぎを『上燒』とした、即ち上燒、並燒、等外とし、更に上燒と並燒に各一、二等の區別をつけたのである

（つづく）

色彩小言

（其二）（自十六頁續）

O P Q 子

古來、健全な色彩感情をもつてゐた造形美術家は、たとへ個々の色彩の効果について、深い研究をしたことがないにしても、それによつて、或感情を喚び起すにはどんな色が有効であり、又、いづれの色が妨害となるといふやうなことは、常に精確に會得してゐたことが證されてゐるのであります。言ふ迄もなく、太陽のスペクトルの全色階は、何時も人心のうちに、それに相應する感情の大小を喚び起すのでありまして、これらの感情の種類は、興味ある對比によつて示されるのであります。一般に快と不快の感情は、心理學者によつて證明せられた處によりますと、脈搏と規則的な交渉を有するのであります。即ち、脈搏の遲緩と強きに於ては、快感が成立して、それの急速と弱きことが、不快感を成立するのであります。今、此事實によつて比較してまいりますと、長く遲い光波は赤でありまして短かく速い光波は青でありますから、凡て喜悦の感情は、赤に至らんとし、弱く速かな脈搏の感情は、青に相應するものであることが明瞭になつて來るのであります。そして、是等個々の色彩は、單に孤立的に存在してゐるのではないのでありまして、丁度生物のやうに、自己と相合して單一體を造るやう、一個の補充色を求めてゐるのであります。即ち、赤色が補色として綠色を求め、紫色が黃色を求めるやうなのであります。併しながら、此補色の關係で、注目しなければならないことは、どんな個々の色彩に於ても、それが求めるべき補色が側に置かれた場合には、決して相和合することなく、互に流通融合する傾向もなく、かつて、出來るだけ自己の特質を、強烈に表はすやうに思はれ、非常に對照的に感じられることであります。もしも、それが同一色であつて、單に明暗の度を異にしてゐる二色の場合でも、同じやうな結果を得られるのでありまして、此兩色が接してゐる處では、明るい色は愈明るく、暗い色は愈暗く見えるのであります。そして、黃と赤、橙色と綠、青と赤、ヴアイオレットと橙黃色、黃と青、綠とヴアイオレットとのやうな取り合せは、何時でも私達に快感を與へるのであります。

言ひかへますと、それは、一切の色が——その振動數や波長や溫度に相應して——特殊の方法を以て私達の感覺に働きかけることと個々の色、或は色の組合せを感じの上で、色の本源たる日光色に還元しやうとする、內的要求が人類に存在することに基因するのでありまして、かくして調和の感じ、即ち、相集つて曲折しない、單一の日光に統合するといふ感じが、最も快く生じるのであります。

（七十一頁へ續く）

＊＊＊木材に就て（上）

會員　工學士　松井清足

私は聯合材料調査會木材特別委員會の一人として之れに干與して種々調査しました關係上、今日斯の事に對して茲に説明を申上げる役割を引受けました譯であります。

木材と申すものゝ規格統一と云ふことは他の工業品から見ると少し趣を異にして居るのである、工業品と云ふと多くは新しい材料が多いのに、此の木材と云ふものは古い歴史を以て我國に發達をして來て居るものであつて、謂はゞ古い習慣に囚はれ、却々改良の困難な事情に居るものですから、之れを改良しやと云ふことは甚だ六つかしい問題である、さうして又皆さんが能く頭に入つて居つたものを新規蒔直しにやると云ふことは甚だ遣り難いことであるが、併ながら今日の木材の規格の混亂狀態と云ふものは何うかと云ふと、實に其の極に達して居ると云つても宜い、一として規格らしい規格はないのである、たゞ古い時代から、之れを習慣として今まで傳へて來て居るものがあるから、之れに依つて我々は家を造つて居るのである、即ち極く小さい平家、僅に二階家ぐらゐの木造の家を造つて居つた時代以後一度も規格と云ふものに就て統一されたことがない、我々の衣食住の中で衣と云ふものは既に機械的に拵へられるやうになつた、お婆さんが足を踏んだり手を動かして拵へた木綿は近頃は到底見ることが出來ぬ、食物も改良を加へられた今日、たゞ木材と云ふもの即ち住に對する材料と云ふものが矢張り袴を着て大小を帶して草履を履いて歩いて居つた時の儘を使つて居る、そんな事はないと云はれるか知りませぬが、考へて御覽なさい、根太に使ふのに矢張

り昔から當地にもあつたさうですが、敷木と云ふものを使ふ、關東では敷木と云ふ名稱が敷居より根太に多く使はれる、此度木材同業組合が決めたのでは敷木を廢めて大根太となつたくらゐに其の敷木が化けて根太に使はれて居ると云ふ時代に立入つて來て居るのであるが、此の混亂狀態を見て居つて、我々は何故今日まで此の苦痛を治さうとしないで今日まで經過して來たかと云へば、卽ち習慣が何うしても許さなかつたのである、卽ち習慣が許さなかつたのと、もう一ツは此の事業と云ふものは却々少數者の考で以て左右することの出來ぬ事業であると云ふことのために延び〳〵になつて我々は今日まで忍び忍んで參つた、然るに歐洲戰亂の結果種々な工業品の發達と共に木材と云ふものも非常な需要を增して澤山の材料が製材されると同時に益混亂したのである、試に現在の狀況を見るために板割とか四分板とか云ふものを一寸陳列室に置きましたが、それを見ても判る通りに板割と云ふものにも二通りある、敷木でも二通りある、甚だしいのになると、日露戰役の遺物ですが、陸軍の何とか云ふ技師が拵へたので、兵舍を造るに板割が要るが、歩が厚くて困るからと云つて六分板と普通の間の板割を造つて陸軍板割と云つて居る、勝手次第である、今日まで斯う云ふ工合に混亂して居るのを忍んで來たが、今云ふやうな極に達して忍ぶことが出來なくなつたと見えて諸所に於て是れが調査に從事しやうと云ふことになつて、建築學會に於てもさう云ふ種類の調査が始めると、大阪に於ても此の建築協會が材料寸法の統一委員會を置いて調べて居る、建築業協會でもやつて居る、併ながらたゞ一部で始めたとて是れが實行と云ふ段になつてうまく行くものでないと云ふことは考がへたと見えて、茲に夫等の會を集めて卽ち建築材料調査聯合會と云ふものが出來て、其所で一の案を作つて一氣呵成に日本中を薙ぎ倒して早く日本中で之れを使はう、最も完全な規格を拵へたいと希望して調査に從事したのが昨年である、爾來會を重ぬること數十回、種々な說を聽き種々な案を纏めて一の案が出來上り、其の案を又材料委員會の總會に懸けて修正の結果一

案を得たのが即ち皆様方に今日差上げた印刷物でありまして、さうして此度愈々實行に移らうと云ふ時になつたので、實行となると諸君のお力を借るより他に方法がない、お力を借ると云ふてもたゞ諸君方が使つて頂けばそれで濟むのですから、今日は今迄の經過をお話申して案に就て大体の說明をして諸君の御諒解を得て其上諸君方が直ぐ使つて頂きたい、東京の長島と云ふ材木屋は時事新報に建築材料調査會の寸法なら何時でも倉庫にあるから買に來て呉れと廣告して居るが、斯う云ふ勢で諸君も建築材料調査會に依つて出來た寸法で持つて來いと云はれたら長島ばかりでなくとも造りませうと思ふ、依頼者も亦是れが行はれて參つたら之れに依つて造つて呉れと云ふことを云ふと思ふ。

それで極く簡單にお話をすると、先づ第一番に需要と云ふことを根本に致す、即ち建築家の造つて行くものに、最も建築として組立てるに必要なる形、即ち建築と云ふものを主として、それから製材山林と云ふやうな即ち原料を供給する山の狀況とか、製材所の製材方法と云ふものを客とした、それから學問即ち種々な建築學、山林學と云ふ學者を一の顧問として進んで行かうと考へたのであるが、何故かと云ふと、抑々此の規格統一の最後の目的と云ふものは實行と云ふより他にはないのである、即ち机の上で規格統一されて紙に刷つて本箱に藏めて置くと云ふのでは其の効能がない、最後の目的は之れを使ふのですから其の目的としては最も使ひ易いと云ふことが必要な條件である、隨つて實用と云ふことに最も重きを置いて調査したのですから、本案は先づ今日の狀態に於ては最も完全な案である、諸君方安心してお使ひになつて宜いものであると云ふことを申上げて差支へないと思ふ、何うか是非共最後の目的たる實行と云ふことに諸君方の御盡力あらんことを希望するのである、尚ほ一ツ申して置きたいのは本案は總てメートル法に依つて書いてありますが、是れは前にも云はれた樣に今日は愈新しいメートル時代になりかけて參つたから、メートルと云ふものを率先して茲に注ぎ込んで行きたいのと、尚ほ斯う云

ふ變り目が即ち規格統一には最も乘すべき時である、我々に取つてはメートル法採用と云ふ動機は鬼に鐵棒である、即ち非常な後援を得たやうな譯である、それで先づ順次に申して見ると、一番初に我々は家屋の根本になる所の柱の距離と云ふものを決めねばならぬから、是れも今までならば或は關東の柱の眞々は六尺と云ふことを決めねばならぬが、此度はメートルに變つたからメートル法に依つて之れを二メートルを柱の眞々としたのである、此の眞々と云ふことに就ては種々問題がありましたが兎に角現在では法律も眞々でやり、現在の家も眞々でやるやうになつたから成るべく物事は簡單を希望して眞々を以てしたから、斯う決めた以上は眞々二メートルと云ふことを採用して貰ひたい、眞々二メートルとしても大阪方面では大概今までのものと似て居る、即ち三寸違つて居るだけである、關東方面では非常に違つて今までの疊の一疊と云ふものが一、二一疊と云ふやうになつて丁度三疊敷が三疊と六三と云ふやうになつて四疊敷くらゐ使へる、或は不便もあるか知りませぬが、兎に角そんな工合で二メートルを柱の眞々の距離として、それから高さは現在は五尺七寸ですが、此度は一メートル八として五尺九寸ほどになつて二寸ばかりの差を生じて參る譯である、先づ斯んな工合に決めましたが、それに適合する材料の規格に就ては小さい表を差上げてある通り大体木材と云ふものゝ出來合品を挽材、角材、板材の三ツに分けました、挽材とは何う云ふものかと云ふと、總ての材料に間に合ふ樣な種類のものを茲に造らう、何でも宜い、日本建築でも、西洋建築でも、組立家屋でも宜い總てのものを集めやうと云ふのですが、外國でも斯う云ふ例になつて居る、墺太利、獨逸、佛蘭西もそれであつて、メートル國は皆それである、新しくやつた規格統一は大概斯う云ふ順序正い下に收められて居る米國も二吋、四吋を初として順々と正しき方法を造つて居る但し偶數を以て造つたので二吋から四吋に飛んで居る、もう少し大きいのと云ふと二吋から四吋に飛ぶから不經濟であると云ふので半吋を加へたと云ふやうに錯雜して居るから、斯んな狀況

を考へて見ると、何うしても將來又何う云ふ必要があるか分らぬから、餘り懸隔てた寸法で今都合の宜いものを決めると、又將來斯んなものを造ると云ふことが起るから、それよりか一ツのものに決めたら宜いと云つて決めたが　立でも十八まで造つた、さうして是れだけに收まつて居る數が六十七種ある、併し又何うしても其中へ入込まぬものがある、例へばヌキと云ふもの或は削りヌキと云ふものは實際日本建築から棄らないである、是れだけは已むを得ず特種として下に六種を加へました、是れは恰も大ヌキ、中ヌキ、三寸ヌキ、大口、二割、小割と云ふものに當つて居る、之れを入れると七十三種になる、ところが是れが現在多いやうに感ずるが、七十三でも餘り多くない、現在先づどのくらゐの種類があるかと云ふと、普通種々の名稱のあるものを見ると十一種類ある、ヌキであるとか云ふものを集めると十一種類ある、さうして之れを寸法の大きいやつ、小さいやつとか云つて店或は木場に行つて見ると、一軒の家で大概六種類あるから、さうすると約六十種類は大概の材木屋に行つて見ても一軒の家にある、さうすると十三種類の違ひですが七十三種類でも餘り多くないと思ふ、けれども茲に注意したいのは此中でも現在必要でないものは造らぬでも宜い時代に依つて選擇を加へやうと云ふ考である。（つゞく）

人の常情多く己が能を矜り多く人の過を云ふ、君子は然らず人の善を揚げて己が善を誇らず、人に過を許して己が過を許さず。



「資料」

世界三大都市の制度（中）

法學士 マスター・オブ・アーツ 石川東一

5 長老會（conrt of aldermen）

市政の實權を握るものは、市長、長老會、及び市會（Conrt of Common Comncil）である。

（一）市長は單純なる一交際官であつて、宏莊無比な廳舍に住み市の賓客に應待し公式の儀式には市を代表して參列する事を主要なる仕事とし市の行政に關しては何等の權力も有つてゐないのである。只裁判官としての權限を有する事を年一萬磅の俸給も常に不足すべしと云はるゝ事によつて市長其者の生活も窺ひ得らるゝものがあらふ。

（二）長老と云ふのは、市内に居住する家屋所有者又は住所に關係なく借地料十磅以上の家屋の全部又は一部を占有する者であつて市長をも加へて廿六名ある。これは市長と同じく裁判に關する權限を有する許りでなく市會の一員としてもまた重大な權限を有つてゐるのである。其數は市會議員の六分の一であるが市會議員は此選擧に加はる事は出來ない。

（三）市會は、市長長老及び毎年選擧される二百

六名の市會議員から成り、事務は委員によつて執行されることになつてゐる。其の最も重大なる事務は警察委員であるが、これは舊市が首都警察委員の權限外にあつて、特別な警察隊を有してゐる其の管理を此委員の權限に屬するからである。尙ほ舊市は縣市たる權限を有し七哩以內の地では市場の經營も出來るといふやうな其の領域內でも幾多の權能を認められてゐる。

倫敦行政法によつて新設された廿八市は一般縣市の例によつて、市長長老及び市會議員から成立する市會の手で統一されてゐる。其權限は從來區會と地方委員會に屬したものゝ中縣會に移つた部分を除いた全部であるが、事務に關しては地方政務院の監督下にある。

三 紐 育

紐育の市制は一千八百九十八年一月から實施された有名な大紐育市制に依るものであつて市を先づ五區に分けてある (Greaternew yonk charter)

1 區 長 (The headman of the urbau distruct)

各區の區長は區民の選擧によつて任期四箇年で就任するものであるが罷免の權は知事が有つてゐるのである 區長は豫算及び査定委員會の一員と成り區公益事務委員を任命するの權限を有ち其權限は街路の築造及修繕、市街鐵道布設、隧道、橋梁、排水、下水道、學校、慈善的建築物、感化院、消防警察署を除く外の公の建築物、公衆浴場、娯樂場及び街道目標の位置の決定建設維持並に街道開通の權迄に涉つてゐる。

更に一般行政並びに地方改善の爲め市は廿五の地方改善區に分れてゐるが各改善區には其の區長及び改善區內に居住する市會議員とから成る地方委員會がある。此委員會の職務は橋梁隧道の建設道路公園の爲めにする土地の收用の如きを提議するに在るのである。

2 市 會 (City assemhly)

紐育の市會は何等の實權も無い甚だ哀れなものである。二年の任期で選擧される七十三名の議員と各區長とそれに四年毎に全市民から選擧される副市長とも云ふやうな議長とによつて成立するのであゝ。議長は市長不在の時は之れに代つて市會の議決に對して拒否するの權限がある、拒否後十日を經過した後五日以内に再議に附し全員の三分の二の同意あれば議決は否應無しに成立する。

豫算に對しては單に豫算委員及び査定委員會の提出した原案を檢閲する權限があるだけで、款項を新たに設けたり又は增額する事も出來ない上に若し減額しても市長が拒否すればそれ迄である。

3 市　長 (Mayor)

市長の下には十五の部局が附隨してゐるが其各部の部長なる者は市長の任命によるものである。市長は市の一般選擧權所有から選擧されるもので俸給一萬五千弗、權限として豫算及び査定委員會の委員長と成つて三票の投票權を行使する事が出來るし其上豫算及び査定委員會或は公共事業委員會の特許する總ての特許權に對し絶對拒否權を有つてゐる。年期は四箇年である。

十五部局の中に財政部といふのがあるが其長を特に財政監督官としてある。これは市長の部局には屬してゐるが他の部長の如く市長が任命する者では無く市長と同じく市民選擧によつて就任するので豫算及び査定委員會で三票の權利ある事も市長同樣で且つ俸給も同一である。仕事としては市各部の財政を檢閲し其計算方法を決定するものである。市の出納の殆んど全部は法律で特別に規定されたもの、外は財産部の出納吏が行ふので支拂は財政監督官名義、市長の副署あるもので市金に對する支拂命令によつて出される。此財政部は更に六課に分れ市金庫を司掌する收入役の外は其課長は全部財政監督官が任命する。

市の警察は其長として警察委員 (pelice commissioner) を頂き五年の年期を以て市長が之れを任命するのだが其人員一萬人、豫算千五百萬弗を費してゐる。

4 水道部

水道部は市營の水道を經營し水道都長は市水道の外市に供給する瓦斯及び電燈に就て私立會社との契約を管掌し從つて其監督權を有つて居る。勿論市の一部に給水する私設の水道會社も其監督下に屬するのは當然である。

5 公園部

三名の委員が市の內外に關する公園の設計改畫修理擴張など萬端を處理してゐるがこれに連絡して市美術委員といふのがあり市長を筆頭としてニューヨーク圖書館長、ブルックリン美術科學館長メトロポリタン美術館長、建築家畫家彫刻家各一名及び殊更に非專門家三名をも加へて市の美術的施設に對する議決權を有つてゐる。

6 教育部

教育部は其主腦として委員會があるがそれは市長によつて任命された任期五年の四十五名の委員から成立し中十五名は選擧によつて常置委員として公立學校保護支配の實行委員の仕事をする。

教育部の管轄の下に小中學校の外二大學（紐育大學及び紐育師範大學）がある中一つの師範大學の方は女教員の養成を目的としてゐる。

全市は四十六の學區に分れ一區に七名宛の學務委員といふのがある。

7 市裁判所

市の裁判所としては市裁判所（city court）民事市立裁判所（Municipal court of civil matters）臨時開廷裁判所（cont of special sersious）刑事官選裁判所（magistrates cowrt bor criminual matter）の四つがある。

市裁判所といふのは云はゝ舊紐育市の遺物のやうなものでマンハッタン、ブロンクス二區を管轄する。

民事市立裁判所は紐育市で廢止された治安判事

に代るもので全市を廿四の民事市立裁判區に分け各區から一名乃至四名の判事を選擧し合計四十四名の判事がある譯である。

臨時開廷裁判所は十五名の判事があり一名は主席で他は陪席判事である。其中半數即ち七名はマンハッタン、ブロンクス兩區に、五名はブルックリン、クウイーンス、リッチモンドの三區に必ず居住する事を必要とする。

8 特別特權法

(Special franchise law)

市内の公共事業を經營する會社の設備及び各種の權利に對する價格の評定は州委員會で行はれ租稅及び價格評價部の評價した財産からの稅を徴收せねばならぬので市長は此部を管理する爲めに七名の有給委員を任命し一般には毎年九月第一水曜から第二月曜迄縱覽させる。課率は夏期市會で決し十一月一日より納稅を遲延したものは七パーセントの遲滯利息の外罰金を課し地方改善事業の爲め特別賦課を爲す時の財産評價は市長の任命する三名の委員に依て行はれ人的財産の課稅の爲めの査定は常に實收の人員金額が始め査定した際の人員及び金額に比し甚しく減少し不動産稅に比べて甚だ不成績を見せてゐるやうである。

冬木立月骨髓に泌む夜哉

都市測定は目下の急務也

大阪市都市計畫部囑託　工學士　石原憲治

都市計畫法已に實施されて我國に於ける六大都市は目下其の計畫を急いでをる。聞く所によれば內務省は更に人口十萬級の都市迄にも之れを及ぼさんとして調査を進めてをる樣であるが、之れについて目下の最大急務たる都市測定につき各地の都市に於ける當事者に注意をうながしたいと思ふ。

若し夫れ人口十萬級の都市迄にも我都市計畫法が適用された場合、直ちに都市の設計が出來るかと曰ふに決して然らず、少くとも二三年は根本的の調査に費さねばならない。各種の調査が基礎となつて初めて其の上に計畫が成立するのである。

又都市計畫は單に法律の適用の問題ではない。法律を適用しさへすれば直ちに都市計畫が出來ると思へば間違いである。都市計畫は各都市が自ら進んで自らの健全なる發達、市民の幸福のために考ふべきものである。

夫故將來計畫を行はんとする都市は、直ちに其の準備たる都市測定を始めるとの必要を私は痛切に感ずるのである。都市測定は單に都市計畫の準備として必要なるのみならず、都市として一つの獨立せる事業として當然有るべきものである。夫は市民の幸福の爲め、安全のため、都市行政の爲め、總ての基礎となるものであるからである。之れを完全に行ふには多くの年限を要するから、其中の最も早く要するものより測定調査を初めるのがよい。

私は左に都市計畫について必要なる都市測定の條項を擧げて、其參考にしたいと思ふ。

都市計畫基礎調査事項

(1)基　礎

(A)土　地

都市の成長發達を示す爲に古き地圖を蒐集。
名所古蹟古建築調査圖。
參謀本部測量圖。二萬分及五萬分ノ一
市內地形圖。一萬五千、一萬二千分又は一萬分ノ一
計畫用圖。二千、二千五百分又は三千分ノ一
設計圖。六百分又は三百分ノ一
用地圖。三百分又は百二十分ノ一
土地高低圖。空地記入圖。土地使用狀態調査。
地下水高低圖。市內外流水系統圖。地質圖。
風速及風向圖。降雨量溫度及濕度測定。地震加速度測定。

(B)人　口

人口分布圖。(點にて示す)
人口及密度表。(數字にて示す)
人口年次增加圖表。(都市及接續町村別)(數字及曲線にて示す)
人口密度年次增加圖表。(同　)(同　)
死亡率表。(數字にて示す)
乳兒死亡分布圖。病類別死亡步合調査。傳染病分布圖。市內職工分布圖。

(2)交　通

(A)一　般

市內時間帶圖。郊外時間帶圖。交通賃金帶圖。

(B)街　路

市內主要幹線路圖。現在街路幅員を示す地圖。
市內交通量調査表。(數字及圖面にて示す)
市內外連絡街路交通量調査表。
都市近郊連絡交通街路圖。
車馬の寸法及荷重調査。

(C)電車(路面、高速、近郊)

路面電車乘客人員表。
郊外電車乘客人員表。(數字)
郊外電車發着荷物圖表。(數字と大さ指示圖)

(D)鐵　道

鐵道交通圖。

停車場昇降人員圖表。(數字及圖表)(市內及近郊)

鐵道(市及近郊)發着荷物圖表。(數字と大さの指示圖)

主要荷別發着圖表。(米、鮮魚、肥料、木炭、石炭、木材、砂利、石材、鐵材等)

(E) 河　海

海陸連絡交通圖。河海運河交通系統圖。

海運荷物出入一覽。(年次、數字にて示す)

出入荷物海陸對照圖表。(曲線にて年次を示す)

(3)公共財產及公共的施設

(A) 行　政

公共建築指示圖。

(B) 教育、宗教

學校圖書館及博物館分布圖。

學校兒童分布圖。

寺院、神社、教會の位置圖。

(C) 休養及娛樂

公園系統配置圖。並木配置圖。

營利的娛樂機關の調查及分布圖。

(D) 衛　生

上水、下水配置圖。屠牛場及墓地調查。糞尿及芥塵處分の調查。

(E) 便　益

電燈、電話線配置圖。

(4)私有財產

(A) 一　般

市內建築使用別調查圖。

市內建築構造別調查圖。

(B) 商工業

銀行、會社、大商店分布圖。倉庫、卸賣商分布圖。市場の調查及分布圖。工場分布圖。市內商工業狀態の調查。

(C) 住　居

土地會社及住宅經營調查。區廓使用狀態調查。

市內住居狀態調查。細民住居狀態調查。

(D) 地　價

地價表記圖。

(E)災害　火災分布圖。震災被害の調査。危險物貯藏場調査。

備考　之は大體に於てコメー氏の分類を骨子とし、各種の調査及報告を參照して作つたものである。

色彩小言

（其三）（自五十七頁續）　O P Q子

黑は、物理的には色ではなくて、私達が呼ぶ「白」といふ複合色の否定であります。黑の傍に於ては、暖かい色は一層暖かく、白の側では、その色が、冷たく見えるのであります。冷たい色は、黑の傍では光を失ひ、白の側では、光を增すのであります。總じて、寒い背景を持つ暖色は、本來の性質の二倍にも暖かく思はれるのであります、又、黑い髮に飾された、赤い薔薇は、白い服に着けられた時に比べて、二倍に輝いて見えますけれども、灰色地の上では、その赤色のもつてゐる特質が、最も多くあらはれるのでありまして、この事實は、灰色に於て、黑と白との、プラス的及マイナス的性質が、再び相殺し合ふが故であります。併し、此處に注意しなければならないことは、暖かい色が冷い色よりも、すつと、觀者に近いやうに感じられることであります。此事は、青と赤とを入れちがひにした、數石床で見られるやうに、赤い石面が床の表面から押し上げられて、見へるのであります。

このやうに、その一端からみましても、色彩が一定の性質を固有してゐると言ふことは、判然するのでありますが、一方に於て、私達が嗜好によつて、是等の色彩を自由に驅使するものと考へますと、其處には、人事的現象の必然性として、其國民性や時代精神が表現せられなければならないのであります。フォル、ペエールの研究によりますと、原始時代に於ては、赤色——黃色が好愛され、中世に到つて、最高の名譽が青色に與へられ、十九世紀初期には、明らかな色彩の使用を恐れるやうに見へ、最初は白と灰色とを、後には褐色を好愛し、自然科學に對する興味が次第に向上して、現在を享樂し愛好する心が增加するとともに、今迄死滅してゐたかのやうな色彩感情が活動し初めて、新らしい色彩と、その効果の現在となつたのであると記述してあります。これは、快活であつて進取的な時代には、快活な色調が擇ばれ、嚴肅嚴格、或は鈍重の時代には、又それの色調が現はれてゐた一例にすぎないのであります。尤も、是れは、歐洲の例を擧げたのでありますが、同樣の歷史と表現の事實は、全世界を通じて相違のないものと思はれるのであります。此のやうにして、私達の國も、漸く昨今色彩感情に眼覺めたのであります。目前には都市計畫の大事業が迫つて、凡てに於ける、眞善美の融合を强要して、方に明けんとする暗色調の夜の環境は、茲に希望の光に充ち、色彩に富む曉明に對したのであります。而しながら、私達のこの環境は、未だに、その輝ける光に映ゆべき充分な準備を施すには、餘りに多方面なのでありますが、その中でも最も貧弱さを露してゐる色彩に就て、その一般を書き並べ、御一讀を乞ふたのであります。（筆）



渡歐日記より（二）

會員　工學士　置鹽　章

◎蘇州行

雨のため荷役が出來ず出帆の豫定一日遲れるといふので、早大三敎授及倉敷の市川君と同伴、蘇州行を思ひ立つた。早朝『サンパン』を雇ふて上陸始めて電車に乘る、車掌は英語を用ふ、由來上海は英語にて大低の用は便ずる、三井の福田君東道の役、一行を停車場に導く、九時五十分三四等列車に乘る、三等車内は悉く支那人であるが故に面白い風習が觀察出來る、途上四等車を窺へば苦力連で一杯だ、『貧民小工車』と書いてあるのは驚いた、隨分無遠慮千萬な事、廣軌だから車内は廣々としてゐる。各驛停車ゆる〳〵として行く、田野の風光我國の夫と大差なし、田畑到る處に古墳が散在してゐる、日本古代の圓墳に似てゐる、水牛が小屋の内で水車を廻してゐるのは實に珍らしい平野遠く開け、右手に昆山の小丘が横はる、往年

英將『ゴルドン』長髪賊の亂に籠城の遺跡だそうな

一時古蘇城外着、馬車、人力車、驢馬等雇つて群來、馬車に投乘、道すがら蘇市の大路小路を迂廻驅驅して日本租界の繁廼家に案内された、路傍口惡なき蘇州兒童吾等一行を指して叫んで曰く

東洋鬼來(トンヤンカイライ)！

蓋し早大の松本敎授の『ヘルメット』帽が特に目に付いたのであらう、一行中の人氣男亦一の話題を作る、繁廼家で晝餐をやる事となる誠に意外千萬！、こんな支那内地で日本食を頂戴することは豫期しなかつた。

蘇州城に入る、外濠には高い『アーチ』形の石橋がある、城内で番兵に名刺を渡し、行くこと數丁孔子廟を見る、軒傾き庭荒れて見る影もない、私は或る期待を裏切られて失望を禁じ得なかつた。想ふに孔孟の道廢るゝこと亦斯くの如きかと、痛嘆之を久ふする。時間が少いので城内の北寺塔（八角九重）や其他の建造物を僅かに遠望して歸路に就く、城壁は一種の煉瓦塀高く又厚く嚴然と町を圍つて聳えてゐる。

城外で再び馬車を驅せ彼の著名なる寒山寺に行く、寺内亦長髪賊の亂に破壞され僅かに修築成ると雖『月落烏啼霜滿天』の刻石も大半破滅數字を認むるに過ぎない、寺内の規模も小さく中央に明風入母屋の金堂あり、左右に兩堂、入口に八角堂、廻廊を廻らす、裏側に小八角堂あり、共に未だ新しい建築に思はれた。

更に馬を驅つて西園、留園（共に支那式庭園）を歷訪して歸路につく、辛うして五時の頭等列車に投乘、車内さすがに寬濶頗る心持がよい。

蘇州は上海の西約五十哩、車程二時間を要する二千有餘年の古都市、人口五十萬に近しとの事、米繭絹織物等を產す、髪賊の大亂に往年の俤を失ひ寂寥の感殊に深かつた、それでも私等にとりては本當の驅足で支那内地の風物を一覽し得たことは望外の仕合であつた。

滬寧鐵路終點着、三井の古市君に迎へられ、南京路の支那料亭に行き晩餐の宴を張る、珍腕珍皿一行亦珍食、九時船に歸る。

明日は愈香港に向ふ筈である、上海滯在三日、

初めて外國の地を踏んだ初印象は中々忘れ難いものがある。

◎上海より香港へ

六月二十一日の未明、我靜岡丸は上海を出帆して香港に向ふ。上海からは歐人三名、支那人三名一等船客として加つた。揚子江を離れると海水が黃色からだん〳〵淡綠色に變つて來るのが目に着く、そして遂に群靑色になる頃は、島影もかすかになつて全く大海へ乘り出してゐるのであつた。

今日から二十四日朝迄は亦海の上の生活を續けるのである、終日同じ景色の內に暮らすことは仕うしても單調に流れ易い。そこであらゆる遊道具が利用される、デツキコルフ、デツキビリヤード輪投げ等に集まる連中を硬派とすれば、碁、將棋トランプ等をやる連中は軟派である、甲板には籐椅子が並べてあるので此等兩派に屬するも屬せざるも一日一度は午睡をやる、中には午前と午後と二回必ず勵行する『豪傑』も居る。

吳越同舟とは支那人の觀察であるが、船に乘つて一番私の感じた事は、船中知るも知らぬも—洋の東西を問はず人種の黑白を論せず—何等の差別なく互に親しみ合ふことである。印度人も露西亞人も、目の黑いのも、靑いのも一切平等で隔なく面白く愉快に遊び且語るのである。國際の狀態がこの船の中にある樣であつたならば、此頃やかましい人種問題、軍備縮少、或はまた太平洋問題も忽ち解決されるに相違ない。併し『浮世は儘ならぬ』もので一度上陸すると此狀態はすぐ破れてしまふ。

船は二十二日に臺灣海峽に入りて波は大分高くなつた。二十三日は厦門沖に差しかゝつて波は大いに靜まつた。此夜星河一天、月朗かに風凉しく獨り甲板に上つてそゞろに家鄕を思つた。まだ『ホームシツク』を起すには早過ぎるが、此天地靜寂の裡に明月に對する時、私は感慨無量である、千年の昔阿部の仲麿が三笠山の月を戀ふたのと情に於ては全く同じであると思ふ。滄洲に行く增山醫學士がやつて來た『よい月ですなあ』といふ、所感を叩けば全く同感であつた。

二十四日の朝となつた。香港に近つくまゝに右手に支那大陸の山々が見える、左手には數多の島嶼が來り迎ふ、海水再び『グリーン』に變つて挾い海峽を香港へ進む、海岸に横はる工業地域の煙靜かに青巒高く聳え、白堊の高樓點々と現はれる、北岸の九龍に郵船の『クライスト』號が居た、私の船は香港坡頭に近く錨を下した。

◎香　港

六月二十四日午前十一時早大の三教授と上陸、三井物産の香西君の案内でまづ支那料理の晝餐を濟ました、『ケーブルカー』で『ピーク』に登る、小雨一過、心氣爽然、山巓に達すれば香港の縮圖は一望の下に展開される、數歩南側に出づれば、裏香港の風光亦別種の趣を宿してゐる。

山を下つて植物園に入る、半熱帶の綠樹繁茂する所、余り廣からねど宴に感じのよい公園であるかすれた聲を擧げて蟬が鳴き出し急に暑さを覺えた。茲を出て、再び市中を歩く、高廈櫛比全く歐化されて居ると思ふ。自動車を雇つて香港島の一周を試みる、道幅約三間、山逼る海岸に沿ふて長汀曲浦の坦道砥の如しと申さんか、『マカダム』の表面に『タービヤ』を流したのであろう、車は少しも動搖なく走る。

過般我　皇太子殿下も御一周を遊ばされたさうで、移り行く景氣の面白さ、濕りを帶びた青巒繪の如く、心氣壯快、時の移るを知らなかつた。約一時間半で一周し終り、宿に着いて一泊、翌朝領事館を訪ふたが、南國の氣の長さ十時にならねば出勤せぬそうで、都市に關する事項を聽取するの餘裕がなかつたのは殘念である。二階付の電車に乘つて『ブレークピーク』に到り、十時の『ランチ』で歸船、

香港の印象の概要を列擧して見やう。

一、建築物は凡て『ベランタ』を設け、大低は四五階窓多く、遠望すれば『アパートメント・ハウス』の觀あり、樣式は復興式と見るべきもの多數を占め、「ゴーシク』『ロマネスク』に近きものあり、設計として感心する程のものなし、香港に『アーキテクト』ありやと云ひたく

なる、建築物法は既に實施されて居るそうであるが、古い建築は全然に適合して居らぬ樣だ。

一、香港の地域は明かに區別せられて居る、地勢上工業地域は市の東方に、商業地域は平地の大部を占領し、山麓から山頂へかけて住宅地域となつて居る、對岸の九龍には海岸に倉庫山の手に住宅がある。

一、道路は凡て『ベーブ』されてゐる、『アスファルト』、『タークレー』、『タービヤ』等、運動場、公園等適當に配置され、『シビック・センター』亦略ぼ備つて居る。

一、『ピーク』を利用せる感心の外なし、全山公園といふてもよろしい、山腹を經てる山道は悉く『ベーブ』され『ケーブルカー』と相俟つて交通の便完備せるが爲めに住宅やホテルが益發展される譯である。本島一周の道路の如きは誠に羨望に堪へぬ。

神戸は後に山を負ふて居るが、併も此山地の利用法は殆んど講ぜられて居らぬ、神戸は正に其厄介視されてゐる山を利用するの時であると思ふ。

一、上海よりは香港に西洋氣分多し、支那街の亂雜不潔は相も變らず、交通機關としては二階付の電車『ケーブルカー』自由車（自動車のこと）人力車、輿等で地勢上上海より余計のものがある。

香港のマーケットは建物壯大、顧客群集、印象特に深し、

◎香港より新嘉坡へ

六月廿五日午前十一時船は新嘉坡に向つて出帆した。今日より三十日迄亦海上の生活に入る、香港より、支那客三名歐人二名便乘、二等客に英國美人二名を增し、一同大いに心强がる、海水群青の鏡となる頃には四周一物目に觸れるものもない新來の船客も忽ち御連中の一員となる、會話は凡て英語、面白いのは北京、香港及新嘉坡と在所を異にする支那人諸君が自國語で話すことが出來なくて英語で盛んにメートルを擧げる、一寸變な感

がする、徒らに大きく統一に困難を感するに相違ないが、之れでは愛國心が薄くなるのも無理はないと思はれずには居られなかつた。併し實際には却つて便利である樣だ、私等にしても英米人が話すよりは中華民國の人の方がよく通じる、尤もこれは兩方が『ブロークン』である爲である。

二十六日船は呂宋の沖に進んで、風强く波高し殊に波のうねりの大きさ、船長は『ムンスーン』圏内に入つたと敎へてくれた。船の動搖に食堂は寂寥となつた。私は幸にして皆勤、これなら印度洋も何のそのと思ふ、それにしても此の大うねりは南洋の特色に相違ない、北海に狂ふ荒海も千石船の船夫梶取に奥行かしい追分節の律を傳へたものとするならば、此の大うねりは南洋節の作曲者であらねばならぬ、獨り船頭に立つて軸先の律を研むるとき私と船と波とは全く同化されて居るのである。

二十七日　安南沖通過
二十八日　西貢沖通過
二十九日、全く支那海より暹羅海に入る、船中の行樂は毎日同じ事を繰り返すに過ぎないが、香港から紅二點を加へて、四組の『ダンス』が成り立つたので、連夜享樂の踊が甲板に催される、老いたるも若きも汗ミドロになつて夜を更かす、誠に御苦勞なことである。

日東の君子連これに業を煮やし、增山、永福兩君の新嘉坡下船を送るために、新嘉坡の王君を加へて十四名此夜喫煙室で盛んな送別會をやる、ビールの大杯を傾けて、萬丈の氣焰を吐く、十一時萬歲を三唱して散會した。

三十日正午新嘉坡を去る八十一浬の處に來た、昨日から此通信を書きつゞけて大に疲れた。午後四時丁度三十浬に接近した、私も上陸の準備をしなければならないからこれで失敬します。

又新嘉坡から以後の通信を『ポートセッド』から送りませう。

◎　◎　◎

和洋折衷乎歐風直寫乎（一）

——一名「出鱈目の記」——

會員　工學士　園部文雄

和洋折衷乎、歐風の直寫乎、又は日本古風の墨守乎とは住宅問題に限らず衣服や食物其他色々の問題に就て隨分論議せられた問題であり可なり古い歷史を有するにも拘らず未だにこれといふ定まつた方向の見出せないのは慨かはしい次第であります。併し一面から見まするとこの種な問題はなか〳〵幷う一朝一夕に定まるものでなく速成で定めたものは直ぐ亡びるといふ理論でこれも要するに押しつ押されつして居る間には時勢の進歩と共に一般にこれらの問題に對する研究も重なり自然に謬論愚説が陶汰されて落ち着く所に落ち着くものであります。つまり時がこれを解決するのでありこれが百萬の議論よりも有力であり最も雄辯なる沈默の議論となるのであります。併しながら尙他の一面から見まするとこれも自然に解決するとは言ふものゝ徒らに放て置いたのでは矢張解決するものではなく相當失敗もし相當の研究もし實地にやつても見なければなりません。所謂百年河清を待つ式で單に放て置た丈では如何に時と雖もこれを解決して呉れるものではない。又假令解決して呉れる時機に何時かは到達するにしても甚だ遲いといふ缺點は伴ふものであります。故に單に放つて置て時が解決して呉れる迄徒らに待つて居るといふ譯にも行かず御互努力もしなければならず多少の犧牲も拂はなければならぬと思ふのであります。ことにそれが解決しても解決しなくても大した得失のないものならば所謂家康式に時鳥の鳴く迄待つもよろしからうが我國の衣食住の問題の

如きは既に全く動きのつかぬ所まで押しつまつて居つて何とか解決せねばならぬ境目であるしこの頃の諸外國の模様から考へても解決が一日遅るれば一日の損あり何時までも放つて置ては遂には國運の消長にも關係があるといふ程度の重大問題であつて見れば單に時が解決して呉れるといふて何時までも便々と待つて居る譯にも行きますまい。最非積極的に吾々が解決する樣努力促進しなければなりますまいと思ふのであります。新聞で見ますと近頃漢字の不便不經濟なことから種々と國字改良の議論が喧ましいし單に漢字丈に就ても字數制限などの叫びが大分強く主張されて居る樣でありまして寔に結構な事と考へて居る次第であります。

舊套を脫して新時代に適應したるものならざれば適者生存の原理に合致せざるものとすれば徒らに骨董じみた衣服を纏ひ不便、非衞生、不經濟な家屋に居住し文學的ではあつても實用とは大分かけ離れた文字を使つて居る事は考へなければならぬことだらうと思ひます。

それで隨分古い樣な題目ではあるが其實あまり進展もして居ない樣な氣もする詳題を捉へて未熟な半可通の議論を臆面もなくさらけ出して貴重な誌面を汚す所以は識者の教示を乞ひ名論卓說の續出して時の解決を促進せしむる導火線を見付けて頂かんが爲でありまして脫線らだけの議論を少し許り書きつらねさして頂きたいと思ふのであります。

初めから脫線して掛りますが私の第一に申上たいと思ふ事柄は日本人の事大思想であります。これは何も日本人を惡く言ふ譯ではありませんが事實そういつた樣な風が大分あるのだから仕樣がなからうかと思ふのであります。斯樣な事を申すと日本人を支那人同樣に見做すと言つて叱られるかも知れないがどうも私には日本人の事大思想は朝鮮人（最も今は日本人ではあるが元の韓國時代の朝鮮人）や支那人などゝ何れが何れとも區別がつかぬ程のものでありやしないかと思はれて仕方がないのであります。

それでこれが何ふいふ事であるかと申して見ま

すると日本人は余り關係の深くない又あるにしても比較的淺い西洋の事が吾々に最も密接の關係ある東洋の事よりもよく眼に止りヨリ多く心配もしヨリ多く注意研究して居るといふ事柄であります。

一例を擧けて見まするど日本の學校の教育方針の如きものであります。學校でも專門學校以上の所では近世文明の關係上止むを得ないかと思はれますが高等教育ならざる普通教育に於て大分妙な事と思はれる廉があるのであります。それは何かと申して見まするど普通教育として國民の大部分を養成しつゝある中等學校に於て正課として外國語を教へて居ますがそれが揃ひも揃つて殆ど大部分英語を主として居る事柄であります。中には稀に獨乙語や佛蘭西語を教へて居る所もあり支那語を教へて居る所もある樣ではありますが先原則として外國語と言へば英語と言つてよい位であります。これは抑どういふ事でありますか私には疑問でありまして同時に日本人の事大思想を思ひ出さしめる理由であります。成る程英語は只今では殆ど世界の通用語の樣な所もありましやうそして英語を語る國民は隨分多いから英語を知つて置けば亞米利加や英吉利や其他の諸國へ行つた時便利でありましやう又西洋の學問を研究したり西洋人と取引したりするにも都合がよくありましやう而して英語なり獨乙語なりを知つて居ないとどうしても具合が悪いといふ樣な事柄もありましやう。併し考へて見まするとこれが中等教育を受け國民の中堅となつて働く人々の何割あるのでありましやう少し話が極端に奔るかも知れませんが日本が英國や米國の屬國ならざる限り且亦世界の大部分の人類が英語を普通語として話さない限り普通教育として中學校で習つた英語を利用する機會あまり無くして終る人が依然として多いのであります。又利用するにしても綴の間違つた看板や徒書に利用する位の程度であつて第二、第三の國民に英米崇拜の思想を注ぎ込む位が關の山ではなからうかと思ふのであります。實際都會地や開港場に居つて職務上必要とするものを除いて田舍や山間に住つて居る人々には英語の教育は全く一種の骨董的

の價値しかないと言つて然るべきではなからうかと思ふものであります。而して澁滯な事には日本は斯程迄に苦心して國民の大部分に英語熱を吹き込み英語萬能に近い敎育をして只管英米の後塵を拜して汲々たるにも拘らず亞米利加では移民を拒絶せられ講和會議では一種の邪魔者扱ひにせられて居るのであります。そして老人も青年も御隣りに支那なり印度なり我々の同人種又は親類筋のあるのを忘れて居る傾があるのであります。丁度燈臺下暗しの諺の樣に遠方の事を馬鹿に注意して神經を尖らして居るが足元の事は存外不注意に放つてゐるのであります。

但今の外國語の事でも成る程中學校では漢文も敎へて居まして英語と同じ樣に支那の事も忘れては居ない樣でありますが現在生きて居る支那語と中學校で敎へて居る漢文とには甚しい距離があります。中學校で習つた漢文を以て支那へ行つたつて何一つ通じはしません。寧ろ中學校で習た英語を以て英米へ行つた方が漢文を以て支那へ行くよりも通じ方が少し多い位であります。

して見ると中學校の漢文は現在支那に向つては何の價値も權威もない準營業的のものであつて文學的なるものに過ぎないで實用的の外國語の敎育と見做す事が出來ないものであります。從て尙推して論じますれば現在の大部分の中學校では支那に向つて發展する唯一の要素である支那語の敎育といふものを全く行つて居ないといふ事になるだらうと思ひます。そして前にも申した樣に田舍で引込んで百姓をしたり都會で住つて居るものでも余り有效に用ふる機會のない英語を本體として敎育して居るのであります。これが私の疑問とする所でありまして又同時に日本人の事大思想が此處に發露して居るのではなからうかと考へる所以であります。

私共も中學校に居る時分に度々聞かされた樣にも記憶しますし新聞や其他に依て見ましても日本人の發展地は支那でなければならぬといふ事は誰しもが口には言つて居ます。唇齒輔車の關係だとか同文同種の關係だとか支那の保全を全うせざれば日本の存立が危いとか言ふ熱語を用ひて老人も

壯年も先輩も識者も口では支那の開發だとか保全だとか經濟上の發展だとか言つて青年に『ケシ』を掛けては居るものゝ實際のやつて居る所を見ると肝心發展の最大要素たる語學に於てすら叙上の如き缺陷ある教育を施しつゝあるのであつて發展せんとしても發展し難い樣な矛盾を演じて居るのであります。而して稀に支那に向つ志を懷いて進むものを支那浪人とか支那ごろと言ふ樣な一種輕蔑の嫌ある言葉を以て葬り去るのでありますから假りに支那語を以て教育する學校がありましても親も子供をこれに入れたくないし子供もこれに余り入りたくない樣な所があります。而してこれに入る事は英語萬能式中學校の落伍者の樣な氣持を以て大部分の人が見て居るのであります。寔に間違つた事ではなからうかと私は思つて居ます。

實際に就て尚少し考へて見まするとゝ中學校で英語の教育を少し許り習つた人で田舍に引込んだものは殆ど大部分習た英語を活用する機會が無くして終りますが支那語ならば一生に一度そこらは活用する事がないとは限らないだらうといふ事になります。これは兵役に服して支那方面の守備に行つたりする以外滿洲なり其他支那の各地へ移住旅行する機會が亞米利加や英吉利へ移住旅行する機會よりも遙に多いからであります。

尚一歩進めて現在日本人で支那方面に移住發展して居る人々の樣子を見ますと支那語を本當に習つて操つて居る人は其數甚だ少いのでありまして實際日々支那人と接觸して居る人の多くは永年支那に居住して自然に覺へた所謂日本流の支那語使用者が大部分を占めて居る樣であります。從つて本當に支那内地へ行つて調査、研究するに足る支那語は少くて日本人の勢力範圍内ならでは充分通用しない流のものが代表的のものであると言つて差支へなからうかと思ふ位であります。これでは支那に充分の發展も出來なからうし支那人と充分肝膽相照す迄の諒解も六ヶ敷く口で言つて居る事と實際の事實とか齟齬して支那人と協調を保つた根底ある發展を期し得られないのも尤であらうと思はれます。（つゞく）

風呂場から觀た生活

吉村美代子

○丘醫學博士の說によると、今の人間は餘り躰の垢を落し過ぎるのださうです。つまり餘りに入浴し過ぎるといふことです。

○實際生理上から云つても、決して毎日風呂に入らねばならぬといふ理由は少しもないさうです。人體として一番理想の入浴法は、稀に水をかぶつてすつかりと體を拭いておけばそれで足りるといふことです。

○それと之とは別ですが、近頃美容法の一つとして婦人が湯に入つても決して顔や肌をゴシ〳〵と擦らぬとと云ふことを少し心懸けのいゝ人は皆な心得てゐませう。即ち昔は洗ひさへすれば、磨きさへすれば、美しく白く玉の肌となるかと思つて隨分女は子供の時からその母親に依つて、兩腕の中に小さな頭を挾まれては例のゴシ〳〵をやられたものでした、今でもまだ多分にこの種の人は見掛けますけれど。

○毎日湯に這入る毎に、而も今一度朝起きて顔洗ふ毎に、大抵の寒さ等は殆んど平氣で婦人が肌抜ぎになつてゴシ〳〵やることが、日本婦人の身だしなみの要素としても大方誰れにでも行はれる習慣になつてゐるやうですが、あれ等は隨分にまあ折角の肌も荒して老衰の手助けをすることでせう。

○つまり荒い木綿の手拭等で、美しく磨きあげる積りでゴシ〳〵やることが、汚れを落すばかりか皮膚の角層迄も剝ぎ取つてしまつて、その上に適當の脂肪分も奪ひ去るのですから、皮膚の光澤も失くなつて荒れたり小皺の誘因になつたりするといふのです。昔の美妓、今の小田夫人つた子さんが米國から歸朝の途中、船中で一度も顔を洗はなかつたといふことが美人と美容を說く積りでか何かの雜誌に書いてありました、しかしそれは本當か何うか私は知りません。

○入浴も段々贅澤になつて、香水風呂、牛乳風呂などが貴婦人の間に好まれます。いつでしたか跡見花蹊さんが牛乳風呂を立てゝ入つてゐるといふ評判が立ちました、花蹊さんにしては贅澤な爲方

だと云つて貴婦人の中には不思議に思つてゐた人も多かつた。

○それでその貴婦人の一人が、或時花蹊さんを訪問した時に『先生は近頃牛乳風呂を立てゝらつしやるさうですわね、結構ですわ、私なんかも一日がはりに牛乳と香水にして居りますの』と云つた花蹊さんはにつこりして『えゝ私とこの牛乳風呂はまた一種特別です、幸ひ今沸かして居りますから失禮ですが御覽下さい』

○そこで貴婦人は花蹊さんの風呂場を見たが、女史は風呂の蓋を取つて見せると、それは眞水、そこへ女中が兩手に大バケツを提げて來てなみ〳〵と湛へた牛乳がまづ二斗もあらうと思はれるのをドブンと加へました。

○貴婦人も流石に驚いたでせう。牛乳風呂も二斗の牛乳を混ぜるとは非常な贅澤だと、思はず花蹊先生の顏を見ましたが、段々訊いてみるとそれは米の磨汁でした。

○故正岡子規先生は、朝風呂亡國論の主張者だつたと聞きます。ドテラに啣へ楊枝で朝風呂に往く歸つて來てぐつたりしながら御飯を食べて仕事に出てゆく、こんなだらしのないことはない、斯ういふ氣前の國民は亡びるといふのださうです。

○風呂が立派になると國が亡ぶといふ前例はあります。羅馬の國民が風呂を大理石で張つて入浴するやうになつたら、その國が亡んだと云ひます。風呂と國家の關係も斯うなると大したものだと考へられますが、これを思ふと風呂なんてものは、東京流に板張りのこと。

○ガリレオが或る貴婦人の腰元に戀をしましたが戀人は私の肌を見てはならないといふのを、風呂に入る時隙見をしたら、背に大きな赤疣がありました。それでもガリレオは戀を醒ましませんでしたが、女は非常に口惜しがつて逃げてしまひました。

○伴眞名部の女の向奈媛は、眞名部と女大蛇との間に出來た子で、脊中に三枚の大きな鱗がありましたが、戀夫の某しが、向奈媛が湯浴みする時にそれを見つけたら、媛は子を置いて沼の中へ逃げてしまひました。

○昔印度の迦耶(かや)といふ貴族の若様は、入浴場で自分の好きな澤山の女が浴後の疲れでだらしなく打重つて寝てゐる醜態を見てから、俄かに菩提心を發して出家したのです。それは世尊が悉達太子(しつたつたいし)の時分に多くの宮女の寝亂れた卑陋な姿を見出した時のやうに。

○人はよく風呂場で失敗るものと思はれます。

○ところが徳川八代將軍吉宗公の四人のお側室(そくしつ)の中の一人のおしをといふ婦人は、吉宗公が風呂に入る時、その衣服の世話をしたのを吉宗公が見てこれに懸想して側室に召出して男子を生んだと云ひますが、この女性はその頃『非常な成功』だつたさうです。今でもこんな婦人は時稀(ときたま)あるさうですけれど。

○贅澤な風呂は亡國——そんな事は痴人の夢かも知れません。やはり浴場などは殊に設備の完全なのが快よいには違ひありません。併しル袋や秋聲諸先生の作物の中によくある處の、山の中の湯、殊に雪の山中の温泉、却つて設備などのない原始的な温泉、それはふるひつきたい程好きです。

○子規先生の朝風呂亡國論は前に記きましたが、今は亡い元の皇后宮太夫香川敬三翁は『流し』亡國論を唱へた人だつたさうです。四肢五體滿足に持つてゐる人間が、他人に腕を持つてもらつて胸や腹を洗つてもらうやうな意氣地のない事では國は立ち行かない、此點では『流し』の好きな江戸ッ兒は腰ぬけだといふのです。

○或人がそれを鳴雪翁に話をして、あなたも徒歩主義を守つてゐる位ゐの人ですから『流し』は反對でせうといふと、そんな事はない、歩くのと湯に入るのとは別だ、俺は何んでも萬事まづ『酒』に目安を置いて割り出す、テク〳〵歩いて歸つて來て酒を飲むのは非常に美味い。湯にいつてナガシをさすと按摩をしてくれる。歸つて酒を飲むとこれもいゝ。しかし、按摩を、粗疎なナガシなら、して貰はない方がいゝ、と云つたさうですが。

○敏感な、復雜な性情を有つ近代的の色彩を帶びた婦人は、やはり過敏な神經作用から、自分の衣裳の好みも髪の形も指輪も時計もその他自分の身につく一切は移り變る氣分に依つてその時々の氣まぐれを表現します。この種の婦人の贅澤が單なる贅澤でなくなる時、吾々は最早其處に平凡なる『虚榮』といふ文字は嵌當てめられません。



〔時報〕

○社會事業財源案

內務省における社會事業調査特別委員會は十月二十六日午後二時から省內に開會松田委員長以下小川、渡邊、神戸、久保田、福田、美濃部、鈴木(喜)佐野、山縣の各委員出席の上眞に小委員會で決定した(一)住宅會社要綱(二)住宅建設及び一般社會事業の財源として特別會計法制定の二案を議題として各自懇談的に協議の結果住宅會社要綱に就ては(イ)原案が特許會社主義とあるのを免許會社主義に修正し(ロ)拂込資本金の中百分の六十は小住宅及びその用地に要する諸般の施設に充つること(ハ)住宅會社が自ら經營する坪數は勿くも百分の六十迄を小住宅建設に充つる坪數たらしめること(ニ)一團地の住宅經營とは一萬坪以上における百戸以上迄を集團して住宅を經營するものを云ふ事になつた、特別會計法制定に就ては小委員會の決定案が社會事業の財源として特別會計法を制定しその最高額を一億五千萬圓とするといふにあつたけれども特別委員會では住宅組合の申込の成績に見るも明かな通り今や小住宅を盛んに建設して全國の都會地を通じての住宅難を解決するは焦眉の急であるのみならず其他部落改善、職業紹介所の普及公設市場の改善等一般的社會施設に要する金額も頗る增大を來すべき傾向である折柄その財源に充つるためわざ〳〵特別會計法を設定する以上はその最高額を奮發して原案の倍額即ち三億圓を支出することに修正した、而してこの特別會計は公債又は借替金を以て充當するもので毎年の起債額については別段特別委員の議題に上らなかつたけれども要するに毎年の所要金額だけ即ち住宅建設その他一般社會事業に要する所要金額を公債發行によつて募集する筈であるから少くとも毎年三四千萬圓見當の公債發行と見てよい、尤もこの外政府が從來融通しつゝある一千萬圓前後の低利資金もあるとして更にこの恒久的財源を得れば社會事業の成功に左程の不自由を感じまいといふ意嚮であるらしい、かくて右の決定案はいづれ遠からず社會事業調査總會を開いて正式決定案とした上床次內相に答申することを申合せ六時散會した、因に三億圓の財源に對する支出收入の件は政府が右答申案を是認した以上勅令を以て定める等で調査會委員會の意嚮では運用委員

さいふが如き制度を設けたいといふにある

◎細民住宅改善案

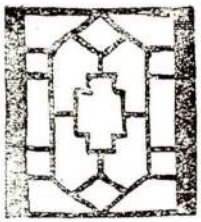
内務省にては住宅問題解決の爲め曩に住宅組合法を制定し中産階級者の住宅建設を促したるが更に中産階級以下の者に對する住宅問題を解決せんが爲第四十五議會は住宅會社法案を提出すべく目下同省内の社會事業調査會をして調査研究せしめつゝあるが同省に於ては尚細民住宅に關する制度を樹て細民の住宅安定及び生活の向上等に努むる計畫を以て目下夫等に關する調査研究を急ぎつゝありて既に大體の方針決定せるを以て近く社會事業調査會に基礎案を諮問する筈なり右計畫の内容を聞くに細民住宅の建設は中産階級及び夫以下の者に對する住宅建設なれば一層急を要する問題にて今日迄之をなさゞりし點につき批難あるも細民の精神狀態其の他より見て娯樂場及び浴場等の社會政策を支持して先づ生活の向上を圖る必要ありとし本年度より國庫より約五百萬圓の補助金を交付して各府縣に於て此の種事業の普及に努めしめ來れるが更に民間よりも調査委員約三十七名を任命して細民の生活狀態其の他を調査せしめ細民住宅の改善普及に資する筈にて同省としては現在東京府に實施せるトンネル長屋、棟割長屋等の方法に依る細民住宅を建設せしめて各地方廳及び國庫より多額の（六分位か）補助をなし安價にて提供し細民生活上安定せしめん方針なりと

◎市住宅賃貸條件

大阪市役所住宅課にては堀川監獄跡に建設する市營住宅の借受申込七百二十人に就き前家主の賃貸條件を調査したるが之に依れば敷金のありしもの五百三十六人、無かりしもの百二十一人、不明六十三人にしてこの平均敷金高は六十五圓なり尚敷金の返還條件としては一箇年以内轉宅二割のもの三十四人、單に移轉の際二割引のもの五十二人、單に一割引のもの二十四人、一箇年以内轉宅一割引のもの十八人、五箇年以内二割引八人、一箇年以内三割引のもの一人、而して特に長だしきものゝ一例としては二十圓の家賃にて敷金二百圓といふものもあれば二箇年以内にて轉宅するものは多少の割引するも二箇年以上繼續居住する場合は全部返還せずといふ辛辣なるものもありしと

◎大工業者建築講習

近頃東京市内の家屋建築が非常に殖え昨年十二月一日市街地建築物法施行以來本年九月迄の二期間に警視廳の受附けた總數は一萬七千三件の多數に及び此内建築申請が四割四分五一、同建築届五割五分四九で所が中には届出書が不完全の爲め建築後法則に違反して居る事が判り取壞さなければならないもの或は手續が間違つてゐた爲め工事半に中止を命ぜられる者が多く工事主は勿論當局としても遺憾至極である處から今回内務省と警視廳が協議の上市内の大工職及雜業に關係深い者百五十名を募集し十一月一日から向ふ三週間麹町區大手町の警察講習所内で都市建築講習會を開催し主もに圖面の引方、申請、届出、其他直接必要な技術、建築物法令の智識等を教授する筈で講師には松井警察練習所長、内務省山縣都市計畫課長、笹井保安部長、角大教授内田工學博士竹内警視建築課長外數名、之に當るとの事で入會希望者は十月二十五日迄に所轄警察署へ申し出でたが尚引續き第二回の講習會を開催するとの



會報

會合

○第一回懸賞圖案審査會

△日　時　九月二十一日午後四時——八時
△會　場　本協會事務室
△出席者　池田、松本、村島、竹腰、波江宗、西谷（書記）
△記　事　前回に引續き審査す

○第一回懸賞圖案審査會

△日　時　九月二十四日午後四時——十時
△會　場　本協會事務室
△出席者　宗、波江、片岡、松本、池田、竹腰、西谷（書記）
△記　事　前回に引續き審査を行ひ優秀圖案十四通の中より當選圖案十通を選拔す

○新聞記者招待會

△日　時　十月三日午後五時——八時半
△會　場　本協會事務室
△出席者　高橋（大阪朝日）奥村（大阪毎日）山口（大阪時事）松浦（大阪新報）和田（大阪日日）富士田（關西日報）津島（新日報）今村（萬朝報）波江、江村（編輯）西谷（書記）
△記　事　波江理事より懸賞募集改良住宅設計圖案につき種々說明あり後晩餐を共にして談笑裡に散會す

○第一回懸賞募集圖案審査會

△日　後　十月十一日午後五時半—八時半
△會　場　本協會事務室
△出席者　宗、池田、竹腰、村島、波江、西谷（書記）
△記　事　當選圖案各通に就て審査講評をし波江幹事之を記錄して發表することに決す

○懸賞委員會

△日　時　十月十三日午後五時半——十時
△會　場　本協會事務室
△出席者　宗、内藤、宮本、鈴木、中西、藤井、久保田、池田、平井、西谷（書記）
△記　事　一、第一回懸賞圖案審査會より提出にかゝる審査結果報告書を朗讀す。二、理事會へ提出の報告書案を可決す。三、當選圖案及講評書並に落選圖案全部の保管は理事會へ諮ること。四、第

三回懸賞募集規定作成。

○財務委員會

△日　時　十月四日午後五時半——八時半
△會　場　本協會事務室
△出席者　片岡、大林(代)竹中(代)谷、宗野澤(代)久保田(代)熊取谷、山本、松尾、小林、菅谷、有山、瀬戸、西谷(書記)
△記　事　一、前回の委員會及招待會の經過報告次で寄附金募集の經過並應募決定額の報告あり
二、今後の募集方針を決定す

○理　事　會

△日　時　十月五日午後六時半——九時
△會　場　本協事務室
△出席者　葛野、池田、小笠原、平井、横濱、瀬戸、波江、片岡(副會頭)西谷(書記)
△記　事　一、博覽會々場に關すること。二、第一回懸賞圖案審査結果の報告。三、丸木屋吳服店に關すること。四、十月例會開催のこと其他。

○懸賞委員會

△日　時　十月十四日午後五時半—九時半
△會　場　本協會事務室
△出席者　宗、池田、園部、波江、西谷(書記)
△記　事　一、第三回懸賞募集規定につき協議す。二、審査員の決定

○理　事　會

△日　時　十月十九日午後四時——五時
八會　場　本協會事務室
△出席者　池田、波江、瀬戸、松本、小笠原、吉木、吉井、平井、西谷(書記)
△記　事　一、博覽會々場に關すること。二、第三回懸賞募集規定に關すること其他。

○第一回懸賞圖案審査員慰勞會

△日　時　十月十九日午後五時——六時
△會　場　大江ビルヂング食堂
△出席者　片岡、宗、池田、波江、松本、葛野、瀬戸、小笠原、吉木、吉井、平井

本夕の例會に於て第一回懸賞金授與式擧行に付之を機として審査員慰勞會を開催す

○例　會

△日　時　十月十九日午後六時半—九時半
△會　場　大江ビルヂング大廣間
△出席者　片岡、葛野、池田、波江、瀬戸、松本、吉木、吉井、平井、小笠原、大林、野澤、高橋、荒木、谷口、近澤、佐藤、久保田、池村、伴野、濱田、米倉、呼子、石川、長澤、竹内、小川、山本、岡本、宮本、橋本、木村、小西、島田、久保田、佐藤、田中、熊取谷、伊藤、松本、松澤、宗、宮本、藤井、白川、佐藤、保田、杉原、小林、安藤、谷、中川、永野、毛利、近藤、和田、坪井、中川、川村、光安、森、大須賀、內藤、久保、流石、本多、阪井、須川、高橋、松本、小林、增山
(名譽賛助員)岡崎、柿崎、岡、今西

（受賞者）谷本、大原、山本、城戸、能瀬、久保田

（職員）四谷、江村、山崎

△順序　片岡副會頭の開會の辭について宗審査長より第一回懸賞募集圖案に就ての審査報告あり後賞金授與式を擧行暫時休憩の後高橋誠一君の「ホロータイルのストレンクスに就て」の講演あり午後九時半盛會裡に閉會す。

會務

△九月三十日第一回懸賞募集改良住宅設計圖案當選者へ通知發送す。

第一等　谷本甲子三君

第二等　永井孝直君

第三等　一席　確井英隆君

第三等　二席　近藤兵四郎君

第四等　一席　大原芳知君

第四等　二席　山本延次君

第四等　三席　城戸武男君

第五等　一席　能瀬久一郎君

第五等　二席　首藤重吉君

第五等　三席　久保田筆雄君

△十月十三日會員岡大路君（滿洲建築協會理事長）來訪せらる。

△十月十九日本月例會を開催し懸賞當選者へ賞金授與式を行ふ。

○會員死亡

△十月四日會員伊藤英一君逝去の報あり哀悼の至りに堪へず弔詞を送る

○會員消息

△特別贊助員都市計畫大阪地方委員會技師大屋靈城君は今回歐米各國へ出張を被命來る十一月十五日靜岡丸にて神戸出帆渡歐せらる。

○叙任及辭令

警察技師　中澤誠一郎

任大阪府技師（十月四日）

○新入會員

（會員）　小田垣清造氏

（普通贊助員）好岡享氏、杉本保一氏、小田周次氏

○住所移轉

花田孝二郎氏　東京市小石川區雜司ヶ谷町一一〇

村上　正直氏　大阪市外豐崎町本庄三五七

戸山音次郎氏　大阪市外今宮町新家一〇八

増田卯之吉氏　一支那上海共同租界等登路四五同興紡織會社內

中村　昌二氏　大阪府西成郡粉濱村七六四

松井　英一氏　大阪市東區內本町二ノ四四大阪貯蓄銀行建築部竹中出張所

渡部　圭吾氏　大阪府豐能郡箕面線櫻井四番通一

千賀　正人氏　東京府下西巢鴨町字上新田七五九

吉岡與平次氏　大阪市北區南濱町鶴ノ茶屋

村井季四郎氏　兵庫縣川邊郡小濱村米谷

船山　力雄氏　大阪市西區薩摩堀北ノ町二

大橋　精一氏　東京府下西巢鴨新田七三三

松井貫太郎氏　兵庫縣武庫郡芦屋岸ノ下八四

高橋米三郎氏　大阪府山岡町幸通三

田中　俊助氏　三重縣津市中茶屋町一五〇

岩田　丈一氏　横濱市長者町六ノ五八

伊藤　重雄氏　福岡市外鳥飼村福岡高等學校建築場

末澤　周次氏　尼崎市大物村五二八番地ノ三

中島　壽人氏　大阪市外天下茶屋今宮六二一

杉田新五郎氏　大阪市北區上福島北一ノ五六

中村　重壽氏　京都市上京區新町通一條上ル一篠殿町

藤野　師樓氏　神戸市兵庫下澤通七ノ二三二

原田　俊雄氏　上海北四川路阿瑞里一一

○寄贈圖書

滿洲建築協會雜誌　九號　同　協　會
住　宅　一〇號　住宅改良會
建築雜誌　九號　建　築　學　會
農家の友　一〇號　同　社
工業の友　一〇號　工手學校內其社
電氣學會雜誌　一〇號　同　學　會
平民建築　一〇號　帝國工業教育會
工業の日本　一〇號　同　社
材木新聞　六七九號迄　同　社
金屬工業新聞　五年十ノ一　同　社
經濟資料　一〇號　東亞經濟調查會
都市公論　一〇號　都市研究會
住宅研究　一〇號　住宅改造會
關西建築材料商報　一八四號　同　社
土木建築　一〇號　同　社
建築世界　一〇號　同　社
新住宅　一〇號　洪　洋　社
通商彙報　五六號　大阪府立商品陳列所
帝國鐵道協會々報　九號　同　會
建築業協會々報　九號　同　會
商業及經濟研究　二四號　大阪高等商業學校
電氣評論　一〇號　同　社
學校便覽　東京高等工業學校
通俗衛生　一〇號　大阪府衛生會
家のしるべ　一號　同　社
工業評論　第七輯第十號　工業評論社

役員及職員

副會頭　片岡安

理事　葛野壯一郎（理事長）

理事　波江悌夫（主記）

理事　瀨戸文吾（主計）

理事　横濵勉（編輯）

理事　小笠原銅（編輯）

理事　吉井長七（編輯）

理事　池田實

理事　吉木久吉

理事　松本禹象

理事　平井三郎

編輯補　佐藤四郎

江村郊邨

書記　西谷節

武波泰

山崎萬壽夫

會員	二〇四	會員（地方）	七八
名譽贊助員	七一	終身贊助員	五一
特別贊助員	一六	普通贊助員	三四一
合計（九月二十日現在）			七六一

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十年十月三十一日印刷
大正十年十一月七日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一

發行兼編輯人　江村恒一

印刷兼印刷人　大阪市東區內淡路町二丁目卅二番地

印刷所　大阪活版所

大阪市北區絹笠町九

發行所　日本建築協會

大江ビルヂング三十七號室

電話北四二九一番

振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北

特約販賣店　柳々堂書店

電話（土佐堀二四〇〇番）

振替口座二〇八四番

第一回改良住宅應募圖案審査概評

第一回改良住宅應募圖案概評

今回の懸賞應募圖案は合計百十八通に上り、何れも熱心なる努力を傾注せられた作品であつて、甲乙たり難く兄弟たり難きもの多數を占め、從つて審査會に於ては愼重なる審議を重ねざるを得なかつた。締切は八月末日であつたが、九月中前後五回の會合を開き、漸く當選圖案十通の確定を見た次第である

今回の募集規定によれば市街地に建設すべき改良住宅（一戸建）で二階建延坪三十五坪以內、經費約六千圓を豫定せられ、家族は主人、主婦、老人一、子供二、女中一（計六人）を容るゝの要求であつた、敷地は前面四間道路に面し、間口五間以內、敷地面積五十坪、他の三面は隣地に接して居るのである。

審査方針は主として平面圖に多大の注意を拂つた、住宅は實用生活の上に於て、殊に間取の研究を忽せにすべきでない。應募者の苦心も蓋し亦茲に在りといふて可なりで、限られた敷地內に復雜なる要求を滿足せしむるには一方ならぬ考慮を要するのである。殊に現代住宅の改良を主旨としての設計であるから應募者は縱橫の手腕を奮つたに相違ないのである。又敷地は長方形なるが爲めに如何なる方面に主要の室を配置すべきか、換氣採光を充分にし實用、衛生、構造の上に於て缺點なからしめ、各室の關係按配、改良を如何に處理すべきか、且つ椅子式居室との利害研究に對する斷案等、擧げ來れば限りなく苦心を要するのである。

第二には住宅としての品位ある外觀を保たねばならぬ、簡易にして趣味ある風貌を供へねばならぬ、蓋し從來の住宅は門を設け、玄關に意を用ひて外客に對する結構を問題とした。乍併都市の住宅として公衆と相樂しむの見地から將來は往時の割據的住宅を改良すべき時代である、乃ち門塀を拂ひたる注意を建物全部に與へねばならぬ。

第三には與へられたる豫算內に於て實施實現せられ得べき住宅でなければならない、殊に都市の住宅

として耐火耐震耐久等にも相等の注意を拂はねばならない、又實生活の上に於て趣味ある簡易生活を爲し得べき内容を具備することに相當の用意がなければならぬ。

審査會は如上の見地から審議の大方針を定めたのであるが更らに現代生活改良の意義について一言するの必要を認める。

そも〳〵現代の我國民生活の改善向上に關する輿論の大勢は畢竟二重生活を如何にして脫却せんとするかに在る、文化生活の建設とか國民生活の改造とか最近社會の叫聲は矛盾せる二重生活の改善問題に注かれて居る然るに此等の輿論の勃興せるに係らず、今日各都市に建設せられつゝある新住宅は尙從來の型を脫する事なく、國民生活の現狀も古來の因習尙頑として動かすべからざるものありとせば二重生活の改善は生活其物の改善から取掛らねばならない譯である。

生活の改善と申しても要するに舊來の習慣を打破して洋風生活に近接せしむるに外ならない。唯問題は急速に實行すべきか、漸進的の改善を謀るかに歸着する、又一方に過去の生活を改造する必要なしとするの意見を主張する人もあるが、是を社會的に觀察すると比較的小數者であつて現代中流階級者にして洋服を着し、洋食を食ひ、洋館に出入するの人々に在りては内外の二重生活に苦しみつゝある事は爭はれない事實である。

既に一家の主人公にして日日洋服を着用して勤務に從事し社會に活動しつゝある以上は、洋裝に適應するの住宅或は居宅を要求するは自然の勢である。若し此の自然で要求を滿足せしむべき住居を考案するとせばそは洋風の居家に近きものを採る事、換言すれば椅子式居室を有する住宅を建設せんとするの手段に出でなければならないが、茲に老人及主婦の服裝及慣習から舊來の疊式居室をも亦住宅内に設けなければならぬ破目となるのである。

若し老人並びに主婦にして主人の洋裝に順應して洋裝を着用するとせば、少なくとも住宅は簡單に洋

風住宅を參考として考案せられ、生活も亦頗る單純に解決せらるゝは疑ふ余地はないのである。乃ち老人及主婦の服裝及慣習は住宅改良の實現に對する一大障妨であるのである。

然るに現代吾國の家庭に在りては兒童の服裝は漸次に洋裝に傾いて來た、彼等の生活は日日學校に通學し全く洋式敎授法の下に洋式設備の敎室に於て敎化せられつゝあるのである。しかも可憐なる彼等第二の小國民は家庭に在りては苦痛なる座習を強いられて居るのである、我國が封建時代の昔に立歸るの日あらばいざしらず、今や東洋の日本は世界の日本となつて、三大國の一である我日本の將來は此等第二の國民の双肩に掛つて居るのである、併も彼等の將來は益多事多忙とならんとしつゝあるから、彼等が一種の運命を定めらるゝ家庭が此四邊の時勢に順應して進步的改善を實現せられなかつたならば、延いて國家的の大損害を招來する事は想像に難からないのである。

以上の考察を總合すれば二重生活の解決に障害をなして居るのは實に老人並びに主婦の服裝及習慣に在るのである。想ふに過去の强き風習に慣れ近代の實生活を忌厭する側の人々には誠に住宅の改良は必要のない事に觀せられる。殊に婦人に在りては近代の實生活にかけ離れたる茶の湯・琴、生花、或は小笠原式禮法等の敎養に幼時より訓練せられたる以上は疊の上を離るゝことは絶大の苦痛であり、又今日の如き服裝では如何ともする事が出來ない次第である。

從つて現代の住宅は過去に囚はれたる人々には便利ならんも新時代に活躍せんとする人々には不都合極まるものに相違ない、此の家庭生活上の矛盾を解決するには如何なる方式にすべきか、これ住宅改良の根本義の横はる處で、刻下深く研究すべき最も大切なる時機であり又興味ある問題であるのである。

併も世界五大國の一に立てる我國民は無言の裡に急進的改善を住宅に斷行しなければならぬ時代に踏み入りつゝあるは爭はれない事實である。されば文化生活の建設並びに生活改善の輿論は、實に我國住宅を改善して洋風住宅に近似せるものを要求しつゝあるのであつて、住宅改良の問題も畢竟急進的改善

は大局に於て最も至當の方法であり、漸進的改善は聊か姑息的道程であると考へられる。

然るに今日に於て全然吾國民生活を洋式とするの方策は尙之を實行するの上に於て躊躇逡巡するの人々は蓋し大多數であるに相違ない、一等國民としての生活內容に尙多大の過去を負ふて居る以上は折衷的住宅を希望するのは亦當然の傾向である、換言すれば主人公使用の椅子式諸室と婦人老人用の疊式居室を併用するの方策は二重生活を解決に導くの案としては止むなき道程であるに相違ない。

今回の應募圖案中其一割は急進的改良を企て其八割は漸進的改善を計り他の一割は從來の住宅に多小の改良を加へたる方針を執つて居る、想ふに今回の懸賞圖案は現代住宅問題の大勢を遺憾なく暗示せるものであつて、住宅改良の問題に對して最も貴重なる實行的斷案であることは審査員の等しく認むることで應募者諸君の努力に對して多大の感謝を禁じ得ない次第である。

第一等懸賞圖案評

本案は平面に於て優秀なる着想を持つて居る、形狀至極簡單にして各室の配置並びに關係は大いに要領を得て居る、前庭にテレースを設けて書齋居間兼食堂の採光に苦心の跡が窺はれる。

老人室の位置は一考を要する、食堂は狹く臺所は廣過ぎる感があるのと書齋及便所の天井が稍高過ぎて居るのと浴室の入口の位置は面白くない、寢室は皆ベットを使用して居るが階上階下に押入の皆無なるは實生活の上に不便であるに相違ない。

外觀はミッション式で頗る簡單であり屋根丸瓦を用ひ、前庭にテレースを設け又噴水等を配置して暖國氣分を發揮せしめたのは面白い趣向である、且つ構造は木造であるが鐵鋼コンクリートで被覆し、防火上の注意を加へ又經濟上にも豫算內にて實現し得らる程度であることは喜ばしい。

全體に若々しい氣分の漲ぎつてゐる感じのよい作品である。

第二等圖案評

本案は平面圖に於て最も細心を拂つた力作である。南北の兩方面に主要なる居間兼食堂と客間兼書齋と二大室に按配し、廣間女中室便所臺所浴室等の關係頗る面白く、二階は全部疊式として家族の寢室及子供室に當て又二階に便所を設けたる如き、其他細部の設備にも注意の行屆いた點は見るべきである。外觀は非難がないでもない、道路側の正面が聊か物足りない、玄關が入り込み過ぎ、臺所方面は餘地甚だ少なく、室内では廣間が採光不充分の嫌のあるのは遺憾である。

本案は現代人士の住宅には直ちに利用し得らるゝ作中での白眉である。

第三等第一席圖案評

本案は椅子式諸室と疊式居室とを巧に按配したる無難の作である、居間と食堂と兼用して南面せしめ老人室を奥庭に配置した考案であるが同種圖案中では臺所浴室便所との關係、玄關及應接室との工夫も至極要領を得てゐる。

二階には主人夫妻及小兒室を洋式とし、日本間を設けて客室とし納戸を設けたる等も可なりに研究されてゐる、唯食堂にはベランダを設けたるために採光が不充分であり、臺所が稍離れ過ぎ、應接室の狹過ぎる等は考へものである。

外觀は單純でまとまつた意匠であるが先以て無難の作である。

第三等第二席圖案評

本案は各室の按配に就いて可なりの工夫を積んだ作品であるが、まだ精練の足らぬ點か多い、老人室を除くの外、悉く洋風として各室を分割して巧に配置し細部に亘つても注意を拂つて居るが、尙研究を

要すべき點か多い樣である。

外觀は雅致あるコッテージ風であるが市街地住宅としては非難がないでもない。

第四等第一席圖案評

本案は大體に於て無難の作である、平面圖は各室の研究に缺點が少ないと同時にこれといふて特長はない樣である、中央の食堂から便所に直接入る樣になつて居るのは化粧室からの方がよい。

外觀亦大した非難もないが、生氣が缺けて居るのは遺憾である、畢竟本案は實用的に於て推奨に値する。

第四等第二席圖案評

本案は耐火、耐震、耐久的構造としたる點に價値がある、平面圖に於ては、大きな居間を廣く設けて家族的團欒の中心とし、且つ採光、通風の上に注意を拂つて居るのが面白い。食堂及臺所は聊か狹過ぎる。

外觀は經濟上の打算から簡單に取扱つたに相違ないが、あまりに無趣味に走つて居る樣に感せられる工費の點に於ては豫算内にて實現し得られやうけれども、此目的のために他を犧牲にした傾がある。

第四等第三席圖案評

本案は階下に洋式居室を設け、階上に日本間を配置して居る點に於て第二等案と主旨を同じふして居る、客間及食堂を直接に連絡せしめて、前面及後面から充分なる採光を取つて居るのと、二階三室の連絡とは面白い。

外觀はあまりに屋根が重過ぎ技巧を弄したとの非難があるが大體に於て實用的價値の優れて居る點が

多い。

第五等第一席及第二席圖案評

此二案は甚だよく似て居る圖案である、倶に老人室を奥庭に面せしめ、食堂及客間を連絡して中央に設け、玄關便所及女中室の配置に於ても殆ど同樣な手法である。

二階に於ては第一席案は三室を備へたるが、第二席案は二室である。

外觀も調子が餘程よく類似して居る、大體に於て前者が後者よりも優つて居る點が多い。

第五等第三席圖案評

本案は改良住宅としては主旨に於て徹底せぬ點があるのは遺憾である、乍併平面圖の工夫に於ては誠に研究されて居る樣である。

外觀は頗る複雜である、屋根の如きはあまりに複雜である、疊式の室が多い丈に舊來の手法が勝ち過ぎて居る結果、豫算の範圍内にて目的を達するには骨が折れやう。

●第四集 第一一号 掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
田中工業所
浅海商店
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
小笠原建築事務所
大阪建築所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所

真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
木子建築事務所
遠藤於菟
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
片岡松井建築事務所
日本水道衛生工事
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
野村亥之助
久保田組

熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
太成社
木村組
清水組大阪支店
銭高組
都市工業
山縣組
清水工務店
日本木材工芸
久原鉱業大阪出張所

山田大理石製作所
矢橋商店
吉田鹿之助商店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東洋工業社
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組スティンド硝子製作所

コルク工業
成美堂書店
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
東京電気
高田商会銀座販売店
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
穴原商会
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
岡本工務店
鈴木商店
早稲田大学建築学科早苗会
大阪窯業

横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業